

お居なさる奥方様のお傍へは寄せ付けぬ様になさいます。私が唯つた今見ましたあの方のお眼は、何んだか恐ろしい事を企んで、もろらつしやるやうな、氣狂めいた火が燃えておました。私はよく存じてゐます。あの方のお怒りは、天からの電同線、何かの犠牲の上に落ちかゝらなくては鎮りませぬ。——何うか、仇ばかりをお撃ちなさるやうに、お愛みの深い若様達をお覘ひなされぬやうに。

メデキア

乳母

(内にて) あゝ、何といふ惨な不幸な私だらう、何うして此忌しい生命を絶切つたらいいだらう！

それ、あの通り、お母様はお氣が狂ひさうに苛立ち切つてゐらつしやいます。若様等早くお内へお入りなされませ、見附かつてはなりません。お傍に入らつしやつてはなりません、あの暴れ狂はれる御様子や苛立ち切つたお胸に煮え返つてゐる御憤怒に、御用心なされませ、さサ急ぎでお入りなさいませ。奥方様の御怒りは眞實に恐ろしい、むら雲のやうに湧き立つたかと思ふと、見る間に何十層倍の激しい力で燃え狂ふのでございます。何をしても悔まぬ御心が、捨鉢になられると、野法圖もなく何んな恐ろしい事を仕出されるか、分つたものではございませぬ！

(子供等と傳人、内に入る)

メデキア

(門内にて) 私は我慢して来た！ 出来る丈我慢して来た！ あゝ、何んたる惨めな身上だらう！ こんな辛さをこんな大聲上げて嘆くとは、捨てられた母の呪はれた子供等、不實な父親と一緒に亡びるが好い、そしてあの男の一家が断えて了へ！

乳母

まア滅相もない、若様達までが、お父上の罪にかゝり合ふなぞと？ では何故若様達を御産みなさいました？ やれ、やれ、若様達、貴方々に災難が落ちかゝつて來はせぬかと、私は何んなに心配してゐるか知れませぬ。高貴な方々の御心は兎角邪慳で、仲々諫めなど聽かうとはなさらず、一圖に他のものを虐げやうとなさつて、一旦お怒が向いたら容易に治る事ではありませぬ。矢ッ張四民平等に押しも押されもせず、暮らして行かうとするものゝ方がすつと幸だ。私も榮耀榮華はいらないから安らかな幸福を授かつて、年を老つて行きたいものだ。何よりも尊いのは世間並みといふ事だ。そしてそれが人間の爲めにもなる。榮華の絶頂が永續するものではない。そして運命の女神に睨まれたら、最期は一層みじめなことになる。

合唱 乳母

合唱 團

不幸なコルキヤの奥方の聲が聞える、泣き喚いて居らつしやる、まだ御氣が鎮まらぬと見えます

侍女頭どの、話して聞かせ下さい、一番奥の室に居ても御聲が聞えました、このお館に降りかゝつた災難を素知らぬ顔してゐられませう、私は心がよりでなりませんから。

乳 母

お館は全く破滅でございます、もう浮ぶ瀬はございませぬ、殿様がコリントの宮殿は招かれてお出でなさつた後は、奥方は御部屋で嘆き悲んでお居でなされます、お友達の諫めも慰めも、お心の悩みを何うする事も出来ませぬ。

メデキア

(門内で) ア、天から雷火が落ちかゝつて、この頭を微塵に砕いてくれたら、この上、生きてゐて何の生甲斐があらう。……私は死んで了つて、何んにも知り度うない、この忌まはしい體なんか打捨りたい。

合唱

正義を司り給ふジョーヴの大神、萬物の母なる大地の神、天照る日の神も聞召したか、哀れな妻の嘆きかこつ聲を？ 御心に満たないからと云つて何故、死をお急ぎなさるのだらう？ あんまり愚な事！ 呪ひの言葉なぞお止めなされませ、殿様の御愛情が新しい花嫁に移つたからとてお怒りみなさるな、ジョーヴの神様は貴方に代つて吃度恐ろしい仇討をして下さる事でせう、閻の伽する

人を奪れたのが悲しいとて、むやくな涙をお流しなさるな。

メデキア

(門内にて) オ、尊きセシスの神、デキアナの神、畏き女王、その誓ひに最も聖いものをかけてあの憎い夫の妻となつた私が忍んでゐる此辱を贖はせ、あの人と、あの花嫁とが、手も足も八ツ裂にされてお城の外に投げ出されるのを見度うございます。私の方から何の手出しもしないのに、彼等は私を酷い目に逢はせました、おゝ父上、そして兄弟を殺して恥をさらしてまで、見捨てゝ来た産れ故郷の國！

乳 母

皆様御聞きなされましたか、誓ひを果たされるセシスの神や、この國の者が、誓ひの守り神と崇めるジョーヴの神に、高い聲で訴へてゐらつしやるのを、メデキア様のお怒りは、とても普通大抵の仕返し位では鎮まりさうもありませんぞ。

合唱

若し私等があの方をこゝまで誘ひ出して、旨くお慰めする事さへ出来ましたら、烈しいお怒りも恐ろしい御疍の高ぶりも止むかも知れません。私の一心は、友達を助けずにある事は出来ませんで、行つて、お傳へ下さい、「この悲しみは、烈しい暴風となつて、貴方の魂を突き倒してしま

す。御殿にゐる者に、何かの企みをする先に大急ぎでこちらへお出でなさいませ」と。

乳 母

えい、さう申上げて見ませう、奥方様が私の申すことをお聴入れ下さるか何うか分りませんが、私は喜んでさう致しませう。此頃は召使の者がお傍へ行つても子を奪はれる牝獅子のやうな恐ろしいお顔をなさいませう。昔の人等が、祭禮の爲めに歌を作つて、めでたい饗宴や、楽しい團樂の中に斯うした事を仕組んで、人間界なんか忘れて了ひ、無我夢中で浮かれ樂んだ愚かさ、智恵の無さを貴方等はお咎めなさつても誤りではございませぬ。併し斯うした數々の榮えた館をも破滅させるやうな殺戮騒や、恐ろしい災の源になる此の切ない心の悲しみを宥めてくれる美しい歌や、妙なる堅琴の調べは、まだ一人の伶人も見つけ出してはくれませぬ。若し音楽が此の根深い心の病を癒してくれる益に立つものなら、人間には此上もない恵みの賜物でございませう。それなのに御款待の宴の席で、何故あの伶人達は、役にも立たぬ咽喉を絞るのでせう、沈んだ心を慰めるのなら、浮きうきした馬鹿囃しだけで澤山でございませう。

(乳母退場)

合 唱 團

呻吟と嘆と混合になつた聲が私等の耳を劈くやうだ。奥方様は誓を破られた不實な良人を心から

呪つてお居でなさる。酷い仕打に壓し附けられて、あの方は復仇の神を呼びかけていらつしやる。暗い眞夜中の危い船出をも守護して、行衛も知らぬ海の上を遙々希臘まで送り届けて下さつた誓ひの守護神ジョーヴの娘、セシスの神を呼んでおらつしやる。

(メデキア、出る)

メデキア

コリントの婦人方、あなた方に私の所業を彼此云はれるのが心外で、部屋から出て來ました。私は随分多勢の、名譽や地位ある方々を存じてゐます。或方はいつも多勢の見る眼の的に立ち、或方はもつとそれから距れた場所で、自分の功績を現はさうとしてゐます、それから又靜かな考へに耽るのが好きで世間の意地悪い人々から、無氣力者と罵られてゐる者も少くはございませぬ。人間の眼で正しい見分は附け難くいものです。人の心の底の底までよく知りもせぬ前に、一目見て怨みも報いもない人をひどく憎んだりするのは世間にあり勝の事です。でも郷に入つては郷に従ふのが、他國人の義務ではございませうが、その土地の人でありながら、唯片意地な、増長し切つた愚かさの爲めに氣迷がして、同じ故郷の人から烈しく憎まれるなどは讃められた事ではありません。だが皆様、思ひもかけぬ禍が、私の魂の力を洩らさせて了ひました。私はもう駄目です、人世の歡びも樂みも失つて了ひました。死ぬ外はありません、一番よく知り抜いてゐると思つた私の夫は人間中で

第一の悪黨でした。理性を授けられた生物の中で、私等女程、一番不幸な眷族はありません。先づ私等は澤山の黄金を積んで、良人を買はなくてはなりません。そしてそれを暴君として迎へるのです。それさへも不幸なのに、もつと悲しい不幸な事がまだ残つてゐます、私等の良人が、やくざものか、それとも善い人かといふ危い賭事です。離婚の罪は女が着る、女の方から男を捨てる事は出来ません。風習も掟も違つた他國へ来た時には、何うして夫を撰んで善いか、神占でもしなければなりません。それからうまく行つて、迎へた夫が、結婚の重荷を満足して背負うてくれれば私等は幸福な生涯だと云ふのです。けれども若しこの大切な目的が失敗したら死んだ方が増しになります。家庭のごたくで氣がムシクシヤすると、男は友達や同僚の所へ出かけて行つて、胸に溜つたものをさらけ出して、腹立たしさを慰める事も出来ませう。だが女は、唯自分の夫に丈け慰めを願はねばなりません。男は云張ります。夫は戰場へ出て命のとりやりをしてゐる最中に、私等は家へ残つて安樂に暮してゐるのだなど、それは間違つた判断ではございせんか、一度子を産む苦みを忍ぶ位なら、三度楯を取つて、戦場の中央に踏留まるのが増しです。でもこんな事を云つても貴方等にはお分りにならないでせう。この町は貴方等のお産れ故郷で、御両親もお住居だから、世の中の樂しみは皆手近い所にあります、こゝでも友達同士で話してゐらつしやる。だが、私は遠いバアバリの涯から連れて來られた揚句、今は夫からも辱められ打捨てられて、家もない漂浪者です。父母も

兄弟も身縁もありません。この悲運の暴風の眞唯中に、親切な港と頼る處のない身上ですから、何卒、私に加勢して不實な夫や、娘を呉れてやつた國王や、王の娘に正義の復仇の出来るやうな、彼の人等が心から恐れ入るやうな何かいゝ手段や、策略を考へ附けて下さい。刀に向つたり、戰場へ出たりするには不似合ひで、そんな時には慄えてゐる女でも、婚姻の非道で魂が燃える時には、血を見るまでは怒りは治まりません。

合唱

御言葉通り私共は黙つて見てゐませう。貴方の良人に、むごい復仇をなさるのも御尤です。又貴方が御自身の御不幸をお嘆きなさるのも不思議とは思ひませぬ。國王、クレオン殿が御見えにります。自分で今度の御決心を言渡す爲めでございます。

(クレオン、メデキア、合唱)

クレオン

メデキア、お前はそんな頑な忌まはしい顔をして、心では良人に恨を抱いてゐるな。私は、お前に追放を宣告する。二人の子供を連れて立退け、一刻も猶豫はならぬ。私自身がこの命令を申渡したぞ、お前をこの國の境の果てから追ひ出すまでは、私は再び城に歸らんで、見張つてゐるぞ。

メデキア

あゝ、みじめな私！もう破滅だ、情け容赦の無い敵は、あらゆる罅隙を解いて、總帆を揚げて私を追ひまくる。何處にも私の身を寄せる濱邊はない。でも、刑罰が切羽詰まつても、私は押しつけて云ひます。クレオン様、何の罪があつて私を追放なさるので？

クレオン

最早、私の心中を隠す必要はない、私はお前が、何か薬でも手の届かぬやうな災難を、私の娘に對して巧みはせぬかと、恐れてゐるのだ。さう思はせる理由は澤山とある。お前は人の知らぬ魔術を授けられてゐる、數知れぬ悪計を巧む事が上手だ、してお前は良人の寢床から引離されたと怨んでゐる、又、私が娘を娶合せた爲めに、花嫁花婿にも、私にまでも復仇しやうと脅かしてゐるさうな。だから私はそんな悪巧みが成就せぬ中に、用心せなければならぬ。その爲めには此上お前の恨を買つても構はぬ、お前の狡猾い口上に瞞されて、後悔するよりは遙に増しぢや。

メデキア

今に始つた事ではないけれど、クレオン様、今までも度々、世間の噂で悲しい、情ない目を見ました。確然した判断を持つた人は、子を育てるのに賢過ぎてはなりません。戦争やそのあらゆる苦みから免除されて暮してゐる者は、同じ仲間の町の人々に、賤しい怠け者といふ忌はしい名を貰ひます。愚な人達に新らしい道を説けば、賢者とは思はれず、滑稽者と云はれます。又一人よがりの

物識達の前で、優越ズラビタつた政見でも述べられたら、貴方は煙たがられます。それと同じ目に私も遇つてゐるのです。格別智者でもない私がいろんな事を知つてゐるからと云つて妬まれたり、氣強い女だと思はれたりします。貴方は私が何か亂暴でもしはせぬかとお氣遣なさつてゐる様ですが、何卒御安心なさつて下さい、クレオン様、私はもう王様に對して御無禮を働けるやうな身分ではございません。それなのに何故私を非道にお扱ひなされますか？、貴方は御氣の向くまゝに、娘御をおやりなされました。私は良人をこそ憎みますが、貴方は賢い事をなされたと思つてゐます。又貴方の御幸運をも祈つてゐます。御婚禮をお済しなさるが善うございます。御幸福でおあんなさるやうに、けれども私には何卒此處に住ませて下さるやうお願いします。私の不幸は兎や角申しますまい、私は王様の御命令に反くやうな事はいたしません。

クレオン

お前は柔しい聲をして私を説伏やうとするが、何か悪事を企みはせぬかと、私は心から恐ろしくてならぬ。今こそ余計にお前が信用出来なくなつた。男でも女でも黙つて凝と復仇を計る奴は、性急な氣の荒い奴よりも一層油断がならぬ。何も云はず早く去つて了へ、宣告した以上、追放の命令は變へる事は出来ぬ。お前が私を憎んでゐる事はよく承知してゐるぞ。

メデキア

此通りお願いいたします。お娘御の婚禮のお祝に免じて、私をお許し下さいまし。

クレオン

言ふは無駄だ、何と云つても私を動かす事は出来ぬぞ。

メデキア

では何うしてもここから私を追放なされますか、此處にお願いしても聞いては下さらないで。

クレオン

お前より私の家族の者らが大切ぢや。

メデキア

あゝ、私は心から後悔する。故國を出たのが恥かしい。

クレオン

私には子供の外に、可愛いものはない。

メデキア

人間の爲めに戀は何といふ恐ろしい刑罰だらう。

クレオン

運命次第で戀は幸福ともなり、呪咀ともなる。

メデキア

正義の神ジョーヴ！、私の災禍の主を見遣して下さいませ。

クレオン

去つて了へ、やくざ女、の心を惱ますな。

メデキア

私には悩みばかりです。

クレオン

私は家臣に吩咐けて、此場から貴様を引ずり出させるぞ。

メデキア

クレオン様、私はそのやうなお情けは願ひません。

クレオン

お前は何處までも、私を手古摺らせる了見だな。

メデキア

私は出て行きます、もうお願いはいたしません。

クレオン

では、何故悶えてゐる？ 何故早く私の國から出て行かんのぢや。

メテキア

何卒、今日一日丈此處に留まる事をお許し下さいませ。子供等を連れて落付く先を考へなければなりません。彼等の父親は少つとも彼等の爲めに考へてはくれないのでございますから、何卒あの子供等に不慮をかけて下さいませ。貴方もお父様でゐらつしやいますから、親子の情といふものをよく御存じでございませう。私丈なら何處へ追放されやうと構ひませぬが、子供等の身上が可哀さうでございます。

クレオン

私は我武者羅な暴君ではない。だが、兎もすると憐みの爲めに、私の正しい判断を枉げる事がある。斯うするのは、私が間違つてゐるとは氣が附いてゐるが、今度丈けお前が最後の願を聞き届けやう。併しこれ丈けは豫め堅く云聞せて置くぞ、若し明日の日となつて、プエーボス神が東方の光と共に再び世界を訪れた時、まだ此地方の境の内に、お前や子供等がうろついてゐるのを見附けたらお前の生命は無いものと思へ。取消しならぬ言渡をしたぞ。此處に躊躇ちゅうちゅういて居たいなら今日一日丈はこゝで躊躇ちゅうちゅういてゐるが善からう。流石のお前でも、唯つた一日の間には、眞逆惡企みも出来まいからな。

(退場)

合 唱

ア、お氣の毒な事だ、こんな酷い目に逢つて、此から何處へ行かうとなされます？ どんな親切な宿、何んな館を探さうとなさるのです。こんな災難から貴方を守つてくれる國でも見付けやうとなさるのですか？ 神々は、何といふみじめな大嵐の中へ、貴方を追ひやりなされるのでせう？

メテキア

災が四方八方から私に攻寄せて來ます。誰がそれを事實でないと云ひ切れませう？ けれども、私の悲みが、このまゝで濟んで了ふものだとはお思ひなされますな、あの新婚の夫婦も恐ろしい災難に逢はなければなりません。私等を人身御供に上げた此の家に縁を結んだ人等は、一通りならぬ災ひを免れ様はありません。貴女方は私が何の計略も手だても無しに、心からクレオンに歎願したこともお思ひなされますか、何うしてそれがなくてあんな奴に口を利くもんですか、一度だつて手を上げて哀願などするもんですか、私を今直ぐに此所から追出して了つたら、折角の計略も無駄になるのに、クレオンは、愚かにも今日一日丈私を許してくれたから、今日の日の暮れるまでには、私の三人の仇、彼奴も、娘も、私の夫も、生命を取つてやります。私はその方法ならいくらでも知つてゐます。皆さま方、私は先づ何れからやうかと迷ふ位です。花嫁の館を焼き拂ふてやるか、そつと

閨へ忍び込んで二人の胸に短剣を突刺してやらうか？ 唯一つ気がりなのは、館へ忍び入る途中捕へられて折角の冒険は仕損じ、殺された揚句に仇等のいゝ物笑ひにせられてはと思ふと、足が上りません。イヤ、私の一番得手な魔法で彼奴の生命を奪つてやるのが何よりでせう。それが巧く行つて、彼等が死んだとしても、何處の市が、私をお客人として迎へてくれるでせう、何んな親切な外國人が、私に隠れ家を興へてくれませうか？ さし迫る運命の手から私を救ふて連れて行つてくれませうか？ あゝ私には友達がない、寧ろ少し待たうか、若しか何處ぞに私の身を庇ばつてくれるやうな城でも見附かつたら、私は黙つて、巧にこの血生臭い所業に取かゝつてやらうに、併し、免れ難い災難がひし／＼と私の身に迫つて来るのなら、假令死んでも構はない、一思ひに短剣を取つて彼等を刺殺してやる決心は附いた。あゝ今まで覺えない勇氣がこの胸に動き出した、多くの神々の中でも、私が一番信仰し、私の大膽な企てにも助けを祈る恐ろしい女神様、此の心の奥深く宿り給ふあやにかしいヘカテの神様にかけて祈る。私の心を傷けた彼等の一人も生長らへされ、この婚禮を彼等の苦みと嘆きの盡きぬ源とせられよ。——彼等にその結縁を悔み、私を此國から追放した事を悔ましめ給へ。さあ今だ——メデキア、素早く空恐ろしい所業をやり了せる深い計略を廻らすやうに、あらゆる智慧を絞れ。この争ひには、あらゆる勇氣が入る、汝はかゝる凌辱を殘念がつてゐるのだな、若しそうでなかつたら、輝かしい父、太陽といふ偉大な祖先から産れたメデキアが

シサイプスの、神を瀆す子孫等に嘲笑され、エーソンの婚禮の宴席で恥曝らしの目に逢ふのだ。汝は、自分で敵を討つ術は持つてゐる。徳を行ふ天性には缺けてこそゐれ、惡事にかけては女は天才だ。

合 唱

右方歌舞一

今は川水も源へと逆のぼり

正義もすべて滅びたる徳も

さかさまに流れゆく

人の心に誠なければ

よし神々に祈るとも

堅き誓ひを交はすとも、信すべきやは

しかも奇しき名聞の輩、聲高に、婦人の力を主張し

わが女性等を譽めそやして

凡ての生の榮えの冠ぞといふ

我等は最早いやしき惡事

人らしからぬ言葉をも
嘆くべきやは。

右方歌舞二

否、ミューズの神も古のごと
女を欺けることどもを
意氣悪くも、永へに
彼等の題材とはすまじきなり
詩の神なるフェーパスは
氣高き歌つくる天才を
心淺き我等には授け給はず
さあらば我等もたて琴
かき鳴らし
男等の不名譽の歌もて報いて
いやが上に汚れたる章曲の數
増しに増したらんを

さあれ、我等婦人等の恥辱と
男子の邪しまの記録は

今も昔も數多く集め得るものを。

左方歌舞一

戀に迷ひ、汝が故郷の濱邊より
大海の島々を掠め、渡りきて、今は
異國の憎むべきつれ合ひ
汝に叛きたる夫を失ふを
嘆くが汝が運命なるか
おゝ、幸なき寡婦悲に弄ばれ
情知らぬ此の國より
辱められて追はれんとは。

左方歌舞二

もはや聖なる誓にも信なし
正しき廉耻も去れり、ギリシヤの野を

彼女は天に上り、より清らなる大氣にぞ

息づく

开は汝がために父の家は

災の潮を防ぐ港も跡さへなければなり

それらの憎々しき屋根の上は

より力強い女王に統べらるゝなるを。

(エーソン、メデキア、合唱)

エーソン

今が始めての事ではない、腹を立てるのは一番仕末に了へない病氣だと、私はいつも云つてるのだ、柔順しくして、長者の云ふ事さへ聽いてゐれば、汝は此の土地で、此の館で、安樂に暮してゐられたものを、無駄口を利くから追拂はれるやうな目に逢つたのだ。汝は苛々して腹立紛れに、私の事を世界一の悪人と云ふが、私は何んとも思ひはせん。だが、勿體なくも國王をまで、口汚く罵つたから、追放位に逢ふのはまだ軽い刑罰だと思ふがよい。それでも私はまだ王の怒りを宥めて、お前が今まで通り此處にゐられるやうにしたいとさへ思つてるのだ。併しお前の馬鹿さ加減には法圖がない。王の悪口をたゞ舌がまだ止まぬではないか？ だから此國から追放されるのは當然の

事だ。それでも私はまだお前を可愛く思ふから、わざ／＼出て來たのだ、みじめな不自由の爲めに子供等も嘸難儀するだらう、氣遣つてゐる。漂浪の身にはさまざまの浮患難が付き纏ふからな、汝は嘸私を憎むだらうが、私の方では、汝悪かれとは些／＼とも思つてないぞ。

メデキア

極悪人め(卑劣極る男子には斯うより外に云ひやうは無い)神々にも、私にも、あらゆる人々にも呪はれる人非人、ようまあこゝへ出て來たな。自分が酷い目に逢せた者の前へ、面を出すのは勇氣のある事でも、男子らしい事の證でもない、恥不知だ、一番圖々しい所業だ、でも出て來たからには恰度好い、私はありつ丈の事を云つて責め立て、上げる、そしたら私の胸の支へも軽くならう、聞いてる方では苦まなければなるまいが、そも／＼の始まりから云つて上げる。——アルゴに乘込んでゐたギリシヤの首は皆知つてゐます。鼻の孔から火を吹き出し、災の果となる種を蒔く恐ろしい牡牛の群を縛りにやられた時、私は貴方が死ぬ所を助けて上げたのだ。それから又眠つて眼蓋を閉ぢず、幾重にも鱗で巻いて、金の羊毛を守つてゐた龍を殺して、朝の吉兆の光が、無事に助かつた貴方の上に射しかゝるやうに仕向しました。併し私は父と故郷とに背いて、貴方と一緒にペリオン山へ、そしてイルコスの街へ出て來ました。愛には理性も勝てないからです。それからその次には、ペリアス王を——世にも酷たらしく——現在彼自身の娘の手で殺させました。そしてあらゆる

危難から貴方を救ひ出したのです。それなのに、お、この恩不知、子供まで産ませながら私に叛いて、新しい花嫁の腕に逃げて行くとは、若し子供が無かつたら他の女と婚禮しても赦される過失でせう。だが、始めに誓つた信實は消えましたが、貴方は世界を支配する神々の、昔の力が無くなつたと思つてゐますか、それとも、何も彼も承知の上で、誓ひの誠を破られたからには、新しい掟は、今は全く人間の力にあるとお思ひなのか、私には分らない。お、貴方が度々抱かれたこの右の手、取りすがつて搔き口説かれたこの膝！ 何ぜ浮いた望みに迷はされて、情けなくも私の清い處女の操を不實な良人に任せたのだらう！ だが、私は貴方を友達のやうにして話させよう。そして貴方から何か大な恵みをかけて貰はうと思ひます。もし私がつともつと容赦なく責め立てたら、貴方はもつともつと下素に見えませう。一體私は何方へ行けばいいのか？ 貴方の爲めに私は、父の家も捨て、自分の國も賣つて此處へ來たのです。一たん捨てた父の館へ行かれませうか？ ペリアスの憐れな娘等の處へ行けませうか？ 私が殺した父の娘等は、吃度親切にあの館の屋根の下へ私を迎へてくれる事です。まあさうでせう？…自分自身の家の者からは憎まれ、貴方の仕事に仕へる爲めに、虐げてよい筈のない親しい友達まで私は仇敵にしてしまいました。併し、それに報いやうとて、貴方は數知れぬギリシャの女の中で私に一番の幸福を與へて下さつた、そして不幸な女の私は、賞められる價值のある信實な貴方を良人にしました…併し、此の國から私が追ひ出され、

友達等には見捨てられ、子供等と一緒に棄てられた時に、貴方は婚禮して花々しい勝利者におなりなさる、子供等や、貴方を助けた私は流浪してうろつき廻らねばならない。お、ジョーヴの大神何故貴方は人間に賢の黄金を一目で見分ける目標をお教へなされませんか？ 何處、汚れた心の證にするやうに、悪漢の額に焼金を當てゝはお置きなされませぬのか？

合唱

親しい友達同志であつた者が、むざんな争ひを始めると、その怒りはかほどまで鋭いものか、かほどまで仲違ひになつて了ふものか。

エーソン

私は荒々しい言葉を出してはならぬのだが、熟練な水先案内は、帆を半分捲いて走らせた方が、船は確かに導いて行くものだ。おい女、お前の縮りのない舌を動かすのは止めい、お前は大そう我慢さうに、私に恩を着せたやうな事を廣言してゐるが、私のあの運の善かつた航海は、ヴィーナスの御庇一つだ、他の何の神にも、何の人間にも御厄介になつてはゐないのだ。お前は不思議な魔術を持つてゐるだらうが、戀の神が、のつびきならぬ矢でお前を強ひて私の生命を助けたなどと、私に云はせうとするのは忌まはしい事だ。だから私はこの議論はくどくど云ひたくない。だが、お前が私を助けた事は助けたのだ、親切にはしてくれた、だが、私と一緒にゐたればこそ、汝は身分不相應

な得にあり附けたのだ。第一に、野蠻人の濱邊から植ゑかへられて、お前はギリシヤの町に住めた。そして正義と法律との命ずる事を行ふやうに教へられたのだ。そして野獸のやうな力づくで振舞はなくなつたのだ。あらゆるギリシヤ人にお前の智慧は認められてゐる。そして大きな譽を得た、若しお前が今までのかけ離れた島に住んでゐたら、名を知る者もありません、名譽が授ける色褪せぬ花環さへ、運命の神が私の手に持たせつけてくれるなら、私は百萬長者にならうと思はぬ、又オルフォイスの魔の立琴に巧な曲を奏でる人になりたくもない。私はつい私のしてやつた仕事ばかり話して來た。この忌まはしい言葉争ひはお前が始めたのだから。併しお前が罵つてゐるクレオンの姫との婚禮に就いては、私は賢明な、又純潔な仕方しかしてない。お前にも、又子供等にも私は最も善い友達であつた事を證さうと思つてゐる。イヤ、口答はするな、イオルコスから私はこの土地へ多くの功と、そして逃避ならぬ災とを背負つて、やつて來たのだから、王の娘と婚禮するより他に、何んな手段が一流浪人に立身出世をさせてくれるのだ？ それをお前は怒つてゐるのだ。お前が憎いからではない、新らしい花嫁の戀に心が迷うたのでもない、又子供の數を殖さう爲めでもない、子供はもう十分に持つてゐる。私はこの上欲しいとも思はぬ。だが、誰しも貧乏を厭がつてゐる程なら、みすぼらしい暮らして我慢するには及ばない、我々の地位に相當した生活方をして行くのが、私には重大な事だと思はれるのだ。又子供等を私の眷族の爲めになるやうに教育して

やり、まだ産れない王子等と共に一家族として、我が家を繼がせて繁昌したいと私は願つてゐるのだ。私が花嫁に子を産ませたいといふのも、或意味では矢つ張、お前の利益になる。そして未來の子によつて、現在の子のために準備をしてやるのは、私に取つては大切な事だ。私の判断は間違つてゐるだらうか？ お前の魂が嫉妬で苛立つてゐない限り、お前は私を咎めはすまい。だがお前等女性は一體に斯う考へてゐる。若し婚禮が幸福だつたら他には何等望みもない、けれど運命が夫婦の中を逆にめぐつたら、一度善かつたものゝ、可愛かつたものをお前等は憎むやうになる。女といふものが世に無くて、子供等が他の仕方出来るものなら、その方が人間の爲めには遙かに善かつたらう。そして男子はいろんな災難にかゝらないで生きてゐられやうといふもんだ。

合 唱 圖

貴方は體よく言葉をお飾りなされた。併し貴方は——こんな言葉を使ふのは不本意ですが——エーソン様、妻を賣るのは正しい行ひとは云へません。

メ デ キ ア

皆さんと、私との意見はいろんな處で違つてゐます。私から云へば、自分で掟を踏躪つて置きながら道理らしく話してゐる者は、厳しい罰に償します。口先が旨く、容貌が綺麗に生まれ附いてゐるのを幸ひに、邪な事をして、自分が榮耀榮華をせうとする。けれどもそれは眞實に賢いのではな

い。言で貴方を黙り込ませる事の出来る私に、もうそんな表面文繕うた文句は被仰るな、貴方が卑劣に企みをなさつたのでなければ、第一に私に打明けて承諾させるのが貴方の義務です。こんな婚禮の約束をする前に、友達に秘密にすべき筈のものではありません。

エーソン

汝があゝ、高慢な氣性で、怒り立つてる時に、私が企らんだ婚禮の事を打明けたら、お前は嘸立派に私の味方となつて役に立つてくれたらうな。

メデキア

貴方の眞實の思わくは、口先で云つてられる事と違つてゐました。野蠻人の妻と、末永く暮らすのは貴方の評判を落すのだと思はれたからです。

エーソン

全くだ、色戀で王の娘を嫁に取らうといふのではない。私が今も云つた通り、お前の不幸を救ひたいからだ。そしてお前の子供等を王家の血統を引いたものと兄弟にして、我々の破滅した家の、新規な支ツ柱にせうといふのだ。

メデキア

後悔の種となる榮華や、魂を苦める富貴は、私は決して欲しくありません。

エーソン

汝は直ぐに心が變つて、もつと賢くなる事が分らないのか？、お前の持物になる天の恵を蹴飛ばすものではない。自分が幸福な時に、ワザ／＼悲を拵へてまで倒れる事はない。

メデキア

私の不幸をお笑ひなさるが善い、貴方は何處にでも逃げ場所があるが、私は、此國から追放されたのだから、さびしい漂泊の旅に出なければなりません。

エーソン

それはお前が自分で選んだのだ、誰も怨む事はない。

メデキア

私が何をしました——誓つた誠を賣つて、他人と添寝でも望みましたか？

エーソン

お前は王に向つて、不敬な呪ひを口にしたのだ。

メデキア

私も貴方の館で、呪はれました。

エーソン

この事に就いてはお前とは云ひ争ひはしまい。だが私は出世して福が向いて来たから、お前にお裾分はしてやる。何んな事をして貰ひたいか、子供等のためにか、又はお前の路用のためとか、腹藏なく云つてくれい。私は、お前の所望次第何んでも贈り物にせうと思つてゐるのだからお前もそれに相應して優しい信切を見せてくれい。おい、斯う迄云つてゐるのを断るのは愚かな事だぞ、お前の魂から怒なんか追拂つて了へ、そしたらそれ丈にお前の身につく得分が殖え様といふものだ。

メデキア

私を貴方の味方にした處で、何の役にも立ちはしません。又私は何も欲しくはありません。贈り物なんかお止めなさい。悪人がくれる事の出来るものに、碌な物がありよう筈はない。

エーソン

神々も御照覧あれ、私は喜んでお前や、子供等の欲しがる物をやらうと云ふのだ。それにお前はその好意さへ憎んでゐる。そして輕蔑さへして友達に抗はうとする、して見れば、災の重なるのは自業自得だ。

メデキア

早く行つてお了ひなさい。貴方は若い花嫁に迷つてゐるんだ。あんまり長くお城の外に居過ぎたでせう。あの女と婚禮なさい。後悔なさるに定つてゐるけれど——私は正義の神々の思召に隨う

て、かう云ひます。

(エーソン、退場)

合 唱

右方歌舞 一

盲ひたる戀の道には

名譽もなく徳もまたなし

唯、キプロスの女王、しとやかに

輝ける天より降り給へば

人々の恭やしき祈を

女神たちは最早受け得じ

おい、ヴィーナス、されど御怒を鎮め給へ

金色の弓より毒矢を射て

激しき情慾の苦みに悶えさせんとて

柔かきわが胸を覗ひ給ふな。

右方歌舞 二

神々の與へ給ふ最善の賜物
 節制 中にこそわが悦びはあれかし
 常に敵の色香を妬みて
 震えやまぬ惱みに裂かれよ
 憤怒と悪念の餌食とはならされ
 わが心、他人の妻を見て
 烈しき驚きに打たるゝとも
 終りなき悶えは起すまじきを
 我等が上に、畏き女王、汝が温き力を注げ、一
 婚姻の床を汚す罪の一々、御身知り給ふ。

左方歌舞 一

わが故郷、親しき我が家！
 我をさすらひの身とはなすな
 狎れし川邊を離れさまよひ
 望みなき惱みを嘆く

悲しき運命の永へになかれかし
 さあらずば死なん、死なしめよ。
 その時はわが息を止めよ
 愛する故國より引裂かれ、
 哀れなるさすらひに出でんは
 それにまさる大なる呪ひ
 いかで世にあるべきかは。

左方歌舞 二

噂のみにて知りしにあらぬ
 御身の悲しき物語、この眼に證しせり
 しかもおゝ、君よ、心寛き市も、
 汝が古き友の一人も
 御身の災を歎かざるなり
 愛すべきをも愛せざる賤しき心
 あさましき、我慾に迷ひたる

哀れの痴者亡びよや
天と地とに呪はれて
かく報はるゝとも
何をか我悲まんや。

(エージラス、メデキア、合唱)

エージラス

メデキア、御機嫌善う！ イヤ、何んな人間でも、これ以上、縁喜の善い文句を考へ附けて友達に挨拶する事は出来ないものだ。

メデキア

そして貴方は、——おゝ賢者パンチオンの御子、名高いエージラス、御機嫌よう。だが、此處の土地へ、何處から貴方はゐらしつた？

エージラス

アポロンの古い宮殿から。

メデキア

でも、あの世界の眞ん中へ、何時、豫言の前觸れが傳はりましたか？ 何の爲めに貴方はお出か

けなさつたのです？

エージラス

何うしたら、私は澤山の子供を持つ事が出来るか、それを訊ねに来たのだ。

メデキア

神かけて仰いませ、貴方はまだ、子供無しに暮らす運命に引摺られてゐなさるのですか？

エージラス

これも或、災難の悪魔のお蔭だらう。

メデキア

御妃はお持ちですか、それともそんな、婚姻の械などはかけて見なさつた事がないのですか？

エージラス

婚姻の神聖な絆を私は萬更知らん譯でもない。

メデキア

子供の事を、フェーバス神は何んと仰つしやいました？

エージラス

彼の神様の言葉は、人間には分らないやうな事だつた。

メデキア

その神様のお答を私が御尋ねしてもよろしいでせうか？

エーシアス

ウム、成る程あんな不思議を説き明かさうには、矢つ張お前のやうな心の聰い人に助言して貰ふに限る。

メデキア

お話して下さい、神託は何と申されました。聞いてお差支なければ。

エーシアス

「舟の凸出してゐる底を、汝はゆるめるやうな事をしてはならん」と。

メデキア

貴方が何をなさるまで、又何處の國へお出でなさるまで？

エーシアス

「汝が父祖の墓地へ歸るまで」

メデキア

だが、何の御用があつて、貴方の舟をコリントの濱邊に向けてゐらつしやるの？

エーシアス

ピットホイアスといふ名の王が、トレチエーネの國を治めてゐるのだが。」

メデキア

あの、大層、敬虔な噂とある。ペロツプスのお子……

エーシアス

私は喜んで彼と共に、神の御告げを論じ合ふつもりでな、

メデキア

え、あの方は賢い、そしてその術には昔から、長けていらつしやる。

エーシアス

戦場で、友誼を結んだ者の中では、私の一番親密な男さ。

メデキア

けれど……お、貴方は幸福になれます。そして何んでもお望みなさるものが得られませう。

エーシアス

その俯向けた眼は、その萎れた様子は何うしたのだ？

メデキア

おゝ、エージマス、私の嫁いた人は人間の中の重悪人でした。

エージマス

何うしたといふのだ？ 分り易い言葉で、お前の悲んでゐる事を云つて聞せなさい。

メデキア

エーソンは、私を酷い目に逢はせたのです。理不盡にも。

エージマス

もつと分り易く、何んな邪な扱ひをなされたといふのだ？

メデキア

私を棄て、此の館の娘を妻にしたのです。

エージマス

そんな卑しい所業を大膽にやりよつたのか？

メデキア

えゝ、彼の人は最初に愛した私は今は棄てられて了ひました。

エージマス

何んな好き心が彼の男の胸をかき亂したのだらうな？ お前の床を嫌やがつてか？

メデキア

強い戀の力が、元の契りを裏切らせたのです。

エージマス

お前の云ふ通りに、あの男がそんな名譽も何も構はんのなら、別れさせて了つたら？

メデキア

あの人は王と關係をつけやうとしてゐるのです。

エージマス

誰が王女を彼の男の花嫁にやらうといふのか、早く云つて了ひなさい。

メデキア

この土地の領主のクレオン。

エージマス

では、お前の悲しむのも道理だ。

メデキア

私は駄目です。こゝから追放されます。

エージマス

誰に？ お前の云ふ一言毎に、新しい悲みがつぎ／＼に出て来るのだな。

四三二

メデキア

クレオンが此土地から、私を流浪の旅路に追つ立てるのです。

エージラス

エーソンがそれを平氣でゐるのか？ 私にはそんな行爲は讃められない。

メデキア

口には出させぬ。でも嫌々、随つた譯でもない癖に、——けれども私はそのお鬚にかけて、この膝にかけて、哀れな嘆願をして、貴方のお慈悲にすがります。何方私を見殺しになさらず、貴方のお國へ、貴方のお館へ、客人として私を迎へて下さいませ、さうすると、子供が欲しいといふ貴方の願ひは、神々が聽いて下さいます。そして貴方は餘生を幸福に終られます。けれども運命の女神が此處で貴方に何んな大切な物を見つけさせたかは、貴方はまだ御存じない、私は貴方にもう後嗣無しで居らせるやうな事はしません。私がお助けした貴方は屹度子供が出来るのです。私は善い藥を知つてゐます。

エージラス

そう云つてせまられると、いろんな氣迷ひが出て承知しなくてはゐられないやうだ、おゝ、女、

第一には不死の神々への畏れもあるし、その次には私の子孫を得るといふ希望もあるしな、私の分別では分り兼ねるものに、私は倚頼らう。おゝ、お前の技が旨く行くかも知れぬ！ 若しも、お前が私の領地へやつて來たら正義の命するまゝに、鄭重な儀式で迎へるのが、私のすべき事だらう。然し先づこれ丈の事は豫め云つて置かねばならん。私は此國から一緒に前を連れては行かないのだ。だが、お前が自身で、私の館へ來たら、お前の爲めには安全な隠れ家になる。又何んな敵にもお前を渡しはせぬ。併し此處からは、私の助けを求めずに出て行かなくてはならん。といふのは、このコリントの隣國から、賓客として私が待遇されて出る以上、咎めなど受けたくはないからな。

メデキア

貴方の仰る通りに従ひませう。だが貴方は私に、この約束を果して下すつて、私に取つて貴い友達となるといふ誠をお誓ひ下さいませ？

エージラス

私を疑ふのか？ 何うしてそんな無駄な疑ひを起すのだらう。

メデキア

貴方は信じます。ペリアスの怨を根に持つ子孫達やクレオンの憎惡みが私を追駈けて來ましても併し、若し、神聖な誓ひの堅い手で結ばれた貴方は、彼の人達が、荒々しい力づくで、私を御領地

から外へ引ずり出さうとしても、決してお許しなさつてはなりません。そして、一旦こんな約束をなさつて、あらゆる神々に、私を保護する誓ひを立てられた以上、何處までも私の友達となつてあの人達の使者の言葉を聞いてはなりません。私の運命は傾きかけてゐます。然しあの人達には富もあり。又、立派な館もあります。

エージラス

そのした言葉の中に、お前はこれから先を見通させるやうな事を云つた、だがお前がさうしやうと決心したのなら私も同意するのを拒みはせぬ。そして若しお前の仇達に、何か道理らしい言譯をすることが出来れば、私は一層安全だし、お前も一倍、手堅く庇つてやれるわけだ。で云つて御覽先づ第一に、私は何んな神々をお招きすれば善いか？

メデキア

私達が踏んでゐる大地にかけてお誓ひなさい、次は私の先祖の太陽にかけて、又ありとあらゆる神々にかけて。

エージラス

爲すべき、又、爲すべからざる如何なる所業を？

メデキア

貴方の領地から私を追ひ出さない事を、又貴方の生きてゐらつしやる限り、何んな敵にも私を渡さない事を。

エージラス

大地にかけて、照り輝く太陽にかけて、あらゆる神々にかけて誓ふ。お前の申したことを確に守る。

メデキア

これで大丈夫でせう。でも若しも貴方が誓を破られたら、何んな罰をお受けなさる？

エージラス

不敬な人間の上に落ちかゝるあらゆる呪ひを。

メデキア

ではお行でなさい、お榮えなさい、今は萬事が眞直に捗取ります。私が企んだこの計略を仕終せ私の望みが適つたら、直ぐさま貴方の町へ参りませう。

(エージラス退場)

合唱

マイアスの翼ある子よ。王をアテオに着き給へ。王よ。御身はそこで、あらゆる望を達し得られませう。おゝ、エージラス、貴方は最も寛大なお方と見えます。

畏きジョーヴ、又、正義の女神、電光を使ひ給ふジョーヴに常に侍し給ふ御身、又輝くハイベリオンの光、御身等を我は招く。——さて皆様、私は憎い者に勝たねばなりません。私等の踏んでゐるのは勝利への道です。そして私は到頭、一番手酷びしい復仇をやる目途が附きました。それは、私達に保護者が一番要するものでしたのに、そこへこの他國人が現れまして、私の相談する隠れ家になつてくれました。ミネルヴァの支配する尊とい地に着くや否や、私達は錨網をこの船尾に結び附けるのです。たゞ今は、私の企んでる事をすつかり話させよう。面白がつて聞いて下さつてはいけません。私は誰か召使ひを遣つて、エーソンに面會を求めます。そして出て参りましたら柔しい言葉で話しかけます。そして現在、私に背いた者が、王女との婚姻を言葉をつくして賞めそやして、私も大さう嬉しいと云つてやります。その上、「これはお互ひの得です。よくなさつた」と云ひ足します。だが、私の唯一つお頼みしたのは、こゝに子供達を残して置いて貰ふといふことです。と云つて、この私の憎い敵の領地の中で、恥を晒らせて置くといふのではありません。いいえ、唯、私の術で、王の娘を殺さう爲めです。子供等には美々しく仕立てた衣裳と、黄金の冠とを、捧げ物に持つて、花嫁の所に行かせて追放の許しを願はせます。若しこの破滅の飾り物を、花嫁が取つたり、着たりすると、あの女も、あの女にさわつた者も、皆立どころにみじめな死方をしなくては

ならない。私はこの贈り物に、さうした薬を塗ります。——この話はこれ位にして置ませう。だが、私は、一通りの恐ろしさより、もつと恐ろしい所業をその上にもしななければならぬのを自分でも怖々考へてゐます。私は私の子供等を殺す決心をしたのです。この腕から誰も救ひ出す事は出来ません。こんなにして、エーソンのみじめな館をむごらしくかき亂して置いて、私は可愛い我子の血烟にまみれながら、不敬の極みの所業をしてこの土地から高飛びするのです。憎い奴等に侮み笑ひされてゐるのは、堪へられたものではありません。何うにでもなるが善い、故郷もなく、家もなく、隠れる場所もない私に、生命が何の得になる？ 若し正しい天が許し給ふとも、今私が罰を加へるギリシヤ人の口車に乗せられて、先祖代々の館を見捨てたのは私の大變な過誤でした。私がある人との中に産んだ子供等を、あの人は生きてる中にもう見る事は出来ません。又、あの忌ましい花嫁が毒藥に中つてみじめな死方をするやうに運命の神が定めたのなら、あの女からも第二の子孫が生れやうもない、誰もが私を氣が弱いとか、勇氣が無いとか、魂が萎えてゐるとか輕々しい事を云へぬやうにしてやる。イヤ、それ所か、神からずつと違つた型に作られて、敵には恐ろしく、友達には優さしい者となるのだ。最も光榮のあるのは、動かせない熱誠で事を行ふ人達の生涯です。

こんなに打明けて下すつた上は、私も貴方のお爲めになるやうにと思ひ、又、凡ての人々が神聖に守らねばならぬ世の人を尊敬する心から、その計略を思ひ留まりなされるやうに申上ます。

メデキア

それは出来ません。貴方等は私の様な不幸をお感じなさつた事はありませんから、貴方等に責められる譯はないのです。

合 唱

貴方は御自分の、罪のない子供達を殺さうとなさるのですか？

メデキア

それで一層深く私の夫を傷つけてやるのです。

合 唱

けれど貴方は、婦人の中で、一番みじめな方となりませう。

メデキア

構ひません。貴方等に云へる忠告は、今は凡て利益です。さア、直ぐ行つてエーソンを此處へ連れて来て下さい。貴方等の誠實を私は倚りにしてゐます。若し貴方等が、そちらの女主人を愛し、私の悪行に女々しい感じをお持ちなさつても、この決心を挫く事は出来ません。

合 唱

オ ー ト

右方歌舞 一

神々より産れし汝

古き昔を手ぐり行けば

大地より出でし聖き裔

智慧の果を樂める

エクレトイス族の勇士達

今もいと淨らなる呼吸を吸ひ

永久に輝く空を眺めて

來慣れし森の小途をさまよひつつ

そこには名高きピエリアの娘等が

清き快樂もて人の心を和らげ

麗はしき物語始めて平和を教ふる。

右方歌舞 二

ミューズ歌ふときキプロスの女王の命に
 乾きし地うるほさんとて
 程よきかぐはしき風ケフィススの
 琥珀の潮より與へられたり
 かくて鶯色の髪のまはり
 目さむる花冠の中に
 萎まさる薔薇の花まとひて
 豊かなる香りのシャンペンを匂はせ
 愛の神は、智と連れそひて下り給ふ
 美の神の恵みにあやかれば
 あらゆる徳は榮ゆるなり。

左方歌舞 一

聖なる小川の名に高くて
 情けある人々の住る
 かの國、かの町

御身、わが子の血を流し
 恐ろしき罪に汚れたる時、
 天が下の憎しみにも、汝を庇ふことやある？
 劍の的に觸れぬ前に
 浅ましの、悲しき業を顧み給へ
 われら御身の膝をめぐりて
 嘆願の手をさし出しぬ
 あはれ子等の血をな流しぞ、血をな流しぞ。

左方歌舞 二

如何なれば汝が無慈悲の心
 凡ての人らしき憐みを拒み
 振り上げし腕をろさんとか？
 清き廉耻の心も失はれ
 罪なき子供を刺し殺し
 その命を奪はんとや？

今御身は子供を見るならん

彼等膝まげて、あはれみを乞はん時

如何にして御身は涙を押へ

わが子の血に、汝がむざんの手を染めんとや。

(エーソン、メデキア、合唱。)

エーソン

お前が呼んだから出て来た、何んなにお前が私を憎んでおやうと、私に逢ひたいと云ふのなら、私の方は何時でも逢はぬとは云はぬ。で、他に何か用があるのか、云つて聞かせい。

メデキア

私は先刻、貴方について短氣な事を云つたのを許し下さるやうにお願ひします。ああして二人の縁が結ばれた頃は私が怒るのを貴方の堪へて下さつたのが、お互に愛情の深い證據だつたもんですから……で私は斯う考へました。そしてこう云つて自分を叱りました「お、何んといふ私は淺果敢な女だらう。何うして氣狂めいた火が胸に燃えたのだらう？ 私に正當に相談してくれる方に火の様な怒り方をしたのだらう？ 此國の王や、私の爲めを思つて王女と婚約して、我子等の爲にもこれから王子の兄弟を殖やしてやらうとする良人を、何んな正しい理由があつて私は怨むのだから？」

う？ 私は魂の暴風を静めなくても善いのだらうか？ 神々が皆に類ひのない祝福を授けられる時に私は何うして悲むのだらう？ それに私には助ける者の無い子供があるではないか？ あゝ私はテリツサの國から追放されて、友達も無い身の上になつた理由が分つて来た」私がやつとこれ丈の事を考へ附いた時何んといふ大馬鹿な、何んといふ淺果敢な事で私が立腹したかと分りました。

今は貴方を賞めます。私の爲めにこの結婚をなさる貴方を賢い人だと思ひます。私に思慮が缺けてゐました。でなければ、私もこのお企みの手傳をして、婚姻の床に恭々しく侍つて、花嫁の爲めに喜んで侍女の役を勤めるのでしたに、私は、同性の者に、あまり批難めいた言を云ひたくはありません。けれども私達の弱い女は、天から造られたまゝなのです。だから貴方は私の缺點を眞似たり、愚かさに愚かさを酬ひてはなりません。私は貴方の仰せに随ひます。又私の考が間違つてゐたと申します。併し、終りにもつと善ひ思案が浮んで來ました。お、子供達、此方へおいで、お城を出て、その門から此方へお出でなさい。そして私と一諸に柔和しく、御父上へ御挨拶なさい過去つた憎しみを忘れて、貴方の友達と仲直りして下さい。私達の間には切つても切れぬ陸ましい誓が出てゐます。そして私の怒りも鎮まりました。

(エーソンとメデキアの子達、登場)

父上の右の手をお執りなさい。あゝ勞れ切つた心の中で、幾度も忌まはしい行を企らみかけた時

は、何んといふ苦しきさだつたでせう！ あゝ子供達、この先、何んなに長生をするだろう。この可愛らしい手を伸ばして、何時迄長生をするでせう？ 哀れな私？ 何うしてこんな泣蟲に出来てゐるのか？ 何んな事でも一々悸々するのだろうか？ お前達のお父上と荒々しい争をして、それを止めて了ふと、私のこの柔かな頬が止めどもない涙でぬれるのです。

合 唱 圖

この眼からも新しい涙が流れます。今私共が堪えてゐる苦しさよりも、一層忌まはしい兇事が起りませぬやうに。

エーソン

私は今のお前の仕方を賞める。過去つたお前の立腹などは咎めはせぬ。良人が妻を新らしく取換へやうとする時、立腹するのは女性の自然だ。併しお前の心は善い方へ變つて来た。そして遅くはあるが、到頭抗ひ得られぬ理性の力を悟つたといふものだ。これは思慮ある女に適さはしい行ひだ。だが子供達、お前等に對しては注意深い父は神々の恵みと共に、飽くまで無事安全なやうに取計らうてゐる。私は信ずる。お前方は私が未來に持つ子供等と共に、コリントの領地の最高の地位を占めるだろう。立派に成人せい。他の事はあらゆる親切な神の御加護で、お前方の父が直ぐに仕遂げさせてやるからな。徳高く育てられた青年と成つて、私の憎んでる敵より遙かに勝れたものになつ

てくれるのを見たいものだ。併し、ハ！何うして又新しい涙で、その臉をぬらしてゐるのだ？ 外らせた頬の色が變つてゐるのは何うしたのだ。何故お前は斯うした言葉を満足して、耳に入れないのだ？

メデキア

何んでもありません。私の心は子供の事で一ぱいになつてゐるのです。

エーソン

元氣を出すがい、子供等の事は私が氣を付けて保護するから、心配せずともよい。

メデキア

仰せに従ひます。決して御約束を信ぜない譯ではありません。唯、弱いが常の女は、我不知、涙が出て仕方がないのです。

エーソン

だが、何故そんな大聲を出して、子供等の事を愁嘆するのだ？

メデキア

私が産んだのですもの、貴方が神々に、子供の長命を祈つてお居でなさる間に、私の胸は悲しさが込上げて來ました。これが出来るか何うかと思ひまして、併し、相談したい爲めに、お呼び立し

た用事はもうこれで半分済みました。今、後のつゞきを申しませう。この國の王様が私を追放する御決心をなさつた以上、コリントの王様にも貴方にも、私がこゝへ残つて御不快な氣持をさせない方が一番善い事だろうと思ひます。私はこの館に怨みを持つて居ると思はれて居ますからこの國を出て行きます。けれども私等の子供達は、貴方といふ父親の寵愛を受けて成長して、この土地から追放などされる事のないやうに、何卒、クレオン様にお願ひして下さい。

エーソン

旨く聞届けて貰へるか、何うか分らないが、兎に角やつて見ずばなるまい。

メデキア

第一、貴方は子供等の追放を止めて貰ふやうに、花嫁に仰つて、直々に父の王様へ願はせるのが、本當の筋道ではありませんまいか？

エーソン

善いとも、彼女なら私は懸念に及ばぬ。彼女にも女らしい親切があるなら、私は屹度旨く行くと思ふ。

メデキア

ではこのむづかしい仕事に取かゝりなさる貴方をお助けするのが私の勤めです。それで私は、何

の人間が造つた、どんな美々しい品にも優つた美しい贈物をあの方にさし上げやうと思つて居るのです。織物の衣裳と黄金の冠、子供等かそれを捧げて行かなくてはなりません。だが大急ぎで、貴方の召使等を一組よこして、その品々を此處迄運んで頂き度いのです。あの方はまア何れ程御満足なさるか知れません。そして人間の中でも、一番善い貴方は、あの方と床を一つにはなされるし、私の先祖の太陽が始めて子孫へ傳へてくれたこの素張らしい衣裳も手にお入れなさるのです。さアお前方、持つてお行き、早速それを幸福な花嫁の姫君へ捧げるのです。それ丈けの贈り物なら、あの方も卑すんでお受取なされぬ筈はありません。

エーソン

何故お前は向不見にそれを手放さうとするのだ？ 織物の衣裳や黄金がこの宮殿にはあるまいとも思ふのか？ こんな装束は藏つて置いて誰にも遣らぬが好い。花嫁が、私に眞實の價値を認めてくれるのなら、あらゆる寶にも代へて私の愛を撰ぶだらうからな。

メデキア

そんなに周章て、仰しやるな、昔から、神々でさへ贈物で自由になると云ひ傳へてゐるではありませんか？ 言葉巧みに口説くのよりも、黄金の方が人の心には何んなに効驗があるか知れませんが、親切な神様が、寶物で若い花嫁に新らしい光榮を添えやうとしてゐらつしやるのです。こゝにある

物は皆、奴隷のやうにあの方に従いて参ります。けれども子供等の追放は、黄金許りでなく、假令生命にかけても救うてやりたい。さア、その傍の王様の御館へ直ぐにお入り、子供達、お前方が此國から追放されぬやうに、お前方の父上の新しい花嫁、私の女王様にお願ひをなさい。その時、一緒にこの飾り物をさし上げなさい。姫君が御手づから、この贈り物をお受取りなさるやうにするのが大切な事です。さアお出て、躊躇しないで、そしてお前方が首尾よくしてくれましたら母は喜んで迎へて上げます。

合 唱

オ ー ト

右方歌舞 一

今、すべての希望、我が心より去りぬ
哀れなる兒等は死ぬべし
彼等は傷つかんとて走り行きしよ
喜びに心躍る花嫁、目に見えぬ毒氣附かで
美しき衣裳を掴まん
鶯色の捲髪は、冥府なるブルト一の

冠を戴いて立ち

熱き手には贈物を取りて。

右方歌舞 二

千々の色染めなせる美はしの衣裳
彼女の酔へる眼をまどわして
黄金の冠着よと誘はなん
花婿と、冥府の國にて逢はんとて
美しく化粧やしつる
かくて死のわなに捕へられつ
運命の女神に驚かされなん
無慈悲なるアーテの憎みも遁れて。

左方歌舞 一

されど王との縁を結びしを
誇れる汝は
危さの身にまつはれるも知らで

神の導く一撃に、汝の子、
又哀れなる花嫁をも
打倒させんとて、狂はしく焦き立つるなり
あゝ、如何なれば心附かざる
汝が頭に落ちかゝる厳しき惱みを。

左方歌舞 二

おゝ、恐ろしき行ひを
思ひ沈み、歎く母よ
己が子を殺さんと心定め
罪無き生命奪ふを恐れぬ者よ
御身の悶え、我も亦悲む
御身の色香、卑みし良夫の
新らしき花嫁の腕に逃れ行かば
罪なきもの等も死すべきなり
(侍者、子供等、メデキア、合唱)

侍者 奥方様、若様達は御追放を許されなさいました。花嫁の王女様、御手づから、敬々しくあの贈物を御受けなされました。随つて若様達も御安泰とならせられましたので。

メデキア
ほう。

侍者 歡ばしい幸運が向いて参りましたのに、何うして當惑さうに立つてゐらつしやいますか？

メデキア
あゝ！

侍者 私の中上る吉報にも、不似合な酷い御返事ぢや。

メデキア
あゝ！ もう一度云ふ。あゝ！

侍者 結構なお報せを、恐悦のあまり、私の舌が動き損ねて、我不知何か大きな災ひ事でも申上まして

ございますか？

メデキア

お前の云ふ事を云つたのを、私は少つとも咎めはせぬ。

侍 者

では何故、地上をお見つめなさつて、さめぐ泣いてゐらつしやいます？

メデキア

泣かすには居られない、私は暗黒の神々と共に、恐ろしい時刻に恐ろしい計事を企んだのだ。

侍 者

御機嫌善くさつしやいませ、若様達の事は上首尾でござります。

メデキア

夜の國々の眞ん中へ、眞先に私が投込まうとする。あゝ、何んともじめな我身だらう！

侍 者

貴方様許りがお子供達と引放されなさる譯でもありません。貴方様も人間、されば不幸は耐へ忍ばねばなりません。

メデキア

その通りに私はしやう。お前は城はお入り、そして若達のために、今日入用なものを何んでも整へてやつてくれ。

(侍者退場)

おゝ、若達！ 若達！ 便りない私を後に残して行つても、お前方には町もあり家もあり、そこでは母が無くても、何時までも住めます。併し私は、お前方に助けて貰つたり、又お前方の出世するのを見もせぬ前に、お前方が花嫁の、婚禮の儀式に祝ひの床を飾つたり、その手で松明を持つたりする前に、私はこゝから追放されて他國へ行かなければならない。私の剛情さから、私は何んといふみじめな目を見る事だらう！ ……して見ると、若達よ！ 私は無駄骨折つて育て上げたのだ。甲斐のない苦勞をしたのだ。徒らに疲れたのだ。唯苦しい悩みをして産んだ丈だつた。最初は可愛い中に、いろ／＼な希望をお前方の上にかかけました。お前方が親切な心づくしで、年老つた私を養つてくれるだらう。そして私が死んだ後までも、私の肩身を廣くしてくれて人々に羨まれる運命でなどと——併しこの嬉しい。氣の揉める考へも今は消え失せて了つた。お前方を失うて、私は苦しい、悲しい生涯を送らねばなくなるのだから、だが、若達！ お前方は、知られぬ國へ急いでゐるのだから、もはや、その可愛い眼で、お前方の母親を見る事も出来ぬやうな運命になつただよ。何故そんなに懐しさうに私の顔を覗くのです？ 何故微笑むのです？ これが最後の笑ひな

のに、あ、みじめなみじめな私！……あ、何うしたら善いのだらう？ 私の決心は鈍る。皆様
 私は今、悦びに輝いてゐる若達の顔を見ました。もう何んにも出来ません。是までの企らみは止し
 て了つて、私は若達を連れて此國を出て行きたい。父親を悲ませうとて、若達に罰を當て、私自身
 の頭にまで二倍の災の落ちかゝるやうな事を何故、私がしなければならぬのでせう？ こんな事
 をしてはなりません。この考は止めませう。けれども私の決心がこんなに變るのは何うした譯だら
 う？ 私は辱められても構はぬのか、そして、無難に敵の逃げるのを許せるのか？ いや、全身の
 勇氣を奮ひ起さなければならぬ。こんな弱い氣の萌すのは、弱い心に誘はれるのだ。若達、王の館
 へお入りなさい。

(子供等退場)

私が運命の犠牲を捧げる時、傍で見てゐるのは神への不敬だと思ふ人等は、御自身氣の向くやう
 になさい、このふり上げた手は決して怯みはせぬ。あゝ！ あゝ！ 私の魂はそんな行ひはさせは
 しない。不幸な女よ。お止め、そして子供等を助けい。私等と一緒に生きやう。子供等が居れば、
 外國の流浪の旅にも慰められる。いや、冥府にブルドーと共に住める復仇の悪靈に誓つて、そんな
 事はならないのだ。又仇に、我子を辱めさせながら残して置く事は出来ない。彼等は死なゝくて
 はならないのだ。私は彼等を産んだ。そして彼等を殺すのだ。これは覺悟しての所業だ。私は私の

目的を變へる事は出来ぬ。今頃、花嫁の王女は頭に魔法の冠を載いて、色彩りした衣裳を着て、息
 が絶えた事はよく私に分つてゐる。併し私も運命の神に追駈けられて、全き破滅への途を辿るのだ
 そして彼等をもつと、みじめな所へ投込んでやる。私は機嫌よく若達に云はふ「子供等、お前方の
 右の手をさし出して、母をお抱きなさい。おゝ可愛らしいその手、その唇、なつかしい姿、惻愍さ
 らな容貌、お前方に祝福あれ、だが他の世界で、——お前方の父親の、不實な行の爲めに、お前方
 は折角、生れて出た大地から引裂かれたのです。左様なら、可愛いキツス、——柔かな手足、そし
 て左様なら！ 芳はしい呼吸！ 私はもうお前方を見てはゐられない、若達！」私の悲みはとうと
 う私に勝つた。今こそ私が何んな罪を犯さうとしてゐるのかよく分る。併し、人間の最も傷ましい
 災の源の、憤怒が私の理性を打ち倒して了つたのだ。

合 唱

今迄、幾度も私は精しい御尋ねをしました。そして女は見えない。隠された秘密まで探さうとし
 ても善いか何うかといふ、重大な點まで議論をしました。私等も一つのミューズの神は持つてゐま
 す。それは私等凡てのものと一緒にゐられるのではないが、同性の者に、智慧の神秘を説き明かし
 て下さる程の親切はあられます。けれども多勢の女の中には、あの天上のミューズに肖かつてゐる
 者も少しはありませう。私は敢て申します。全く世間不知で生きてゐる者や嘗て父でも母でもなか

つた者は、多勢の子供を持つ者よりも幸福ですと、子供がある爲めに人間に益々、悲しみが起るか、喜びが起るか経験しない子無しの人達は、數へ切れぬ苦みを逃れるからです。可愛い幼児等の群れに満ちた豊かな家庭の者が明るく目のない心配に悩まされてゐるのが私にはよく見え透きます。第一に、何うして徳の高いものに育て上げられやうか、それから何うして相當な財産を子供等に残さうか？ 而もこれ丈の苦勞の仕甲斐のある賢い者になるか、それとも愚者になるか、先の事は分りません。併しあらゆる人間に附纏ふてゐる最も悲しい一つの禍を名ざさなければなりません。自分の子供等の爲めに十分に富も作つてやつたし、子供等も立派に成長して、あらゆる徳に飾られたと思ふと、それが若し運命だと云はうなら、運命の命ずるまゝに、目に見えない死がやつて来て、彼等をブルドーの暗い國へ急ぎ立てるのです。人間に取つて他の一切よりも、もつと苦しい禍の、子供の死を積み重ねるといふ事が神々の爲めに何の得になるでせう？

メデキア

皆様、私は心を悩ませながら待ちに待つて居るのです。館の中から、運命が何んな恐ろしい事をさらけ出すかと思つて、でもエーソンの召使の一人が息せき切つてやつて来るのが見えます。あれの容貌は、今起つた許りの凶事を語つてゐるやうです。

(使者、メデキア、合唱)

使者

ヤア、貴方神様も畏れず空恐ろしい所業をなさつたメデキア様、早く此國からお逃げなされませ。舟や車から下りるやうに愚圖々々してはなりません。

メデキア

そんな風にして追ひ出される程の何んな罪を私が犯したのかへ？

使者

貴方の魔術で、王女が只つた今お亡くなりなさいました。父王のクレオン様も亦御同様で。

メデキア

お前は一番素晴らしい報せを持つて来ました。今からお前を、私の友人と恩人との中に數へませう。

使者

え、何を仰やる？ 御正氣でか？ 頭が狂ひ出したのか？ この宮廷に貴方が爲された罪を喜んでお聞きになり、話をして身慄ひさへなされぬとは？

メデキア

お前の言葉に答へた事はある。併し焦かないで、私の友達さん、何ういふ風にして死んだのか聞

かせておくれ、若しみじめな死さまだつたら、お前は私を二倍も喜ばせてくれるのだから。

使者

貴方様の二人の若様が、お父上と一緒にお出になつて、花嫁の御館へお入りなされました時は、今迄御一緒に悲んで居りました我々召使共は大喜びしました。貴方様と、御主人様との是れまでの一切のいさくさも、お仲直りが出来たんだとすぐに聲高く噂が擴まりました。若様の御手や、鳶色の髪の毛にキツスする者もあつた位でございます。私も大満足で、お付きのお婦人方の部屋々々へまでお供いたしました。で我々の女御主人、嘗て御仕へ申した貴方様に代られた。新らしい御主人様は、若様達を御覧になる前に、エーソン様に猥らな流し目を遣はれました。併し、それから御目を曇らせて、若様達の御出が御機嫌に障つたやうに、青ざめた頬を外らされました。そこでエーソン様が柔しいお聲で「友達に逆ろうて、頑固にふるもものではない、卑すむ心なんか捨てその美しい顔を此方へ向け、お前の夫が今も愛してゐる者に、情けをかけて、やさしい胸を暖めてやつて貰ひたい、この贈物も受け、私の爲めにこの子供等の追放を許されるやう、御身の父上に願うてくれられい」と仰つやると、お怒りも鎮まりました。そしてあの輝く飾物を王女が御覧なさるかと思ふともう堪らなくなつたのでございませう。早速御主人の御願ひに御同意なさつて若様達がお父上も一緒に、館からまだ遠くへ御出かけなさらぬ中に、あのくさぐさの色を染めた輝く衣裳をお召になつ

て、ゆるく亂れたお髪の上に、黄金の冠をお載せなさつて、鏡の前に立つて髪を撫で附けなされました。そしてそこに映つる王女の美しい顔を微笑みながら俯目に御覧なされました。それから席をお立ちなさつて、立派な贈物を嬉しさうに、いそ／＼しながら、しとやかに、ゆつたりした足取で、宮殿の中を歩まれました。そして惚れ／＼した御眼で幾度も御自身の品のよい首筋を見返り／＼なされた。所がそれから恐ろしい事が持上りました。俄かにお顔の色が變り、手足を慄はせて、後へよろめきなさる、床の上へ打倒れなさろうとした時、漸つと椅子でお支へ申しました。侍女の中の年寄られた方が、これはパンの神か、それとも何か知れぬ神々の御怒りが、姫君に取ついたのだと即座に思ひ附いて、金切聲で天を呼んで誓ひを立ましたが、つゞいて御口から泡を噴かれ、御眼の穴からギラ／＼光つた眼球が飛出して、全身の血の氣の失せたのを見ましたので、最初の悲歎とはまるで違つた恐ろしい叫び聲を立てました。直ぐに、王の館へそれを知らせ、姫君の災難のあれやこれやを婿君へお傳へする爲めに周章で飛んで行きます。館の中は八方へ駈け廻る人々の足音で大騒ぎでございます。

一番足の早い者が其場へ駈附けました時には、黙つて眼を閉ぢてゐられた姫君は、氣絶から漸つと正氣に返り、恐ろしい呻吟聲をして、二つの厄難に身悶えして居られる、頭に載せた黄金の冠は喰附くやうな、怪しい焰の流れをドン／＼噴出してゐるし、若様達の贈物の縫取りした衣裳は不幸

な處女の柔かな肉體にチリ／＼噛み込んでゐます。火焰に包まれた頭髮を振亂しながら、椅子から起上つて暴れ狂うて頭の冠を取除やうとなさる。併し煮え上つた冠は愈々堅くこびり附いて亂れた髪を振れば振る程、煽り立てられる火焰は、二倍にも輝いて燃え上ります。運命の神には勝です。到頭姫君は床の上に斃れて死なれました。姫君の父上より外、姫君とは見分けが附かなくなつたのでございます。眼に目えぬ魔法の、生命を取る恐ろしい力で、輝く眼球は眼穴から垂れ下り、あのお立派な顔は昔の佛も無くなり、頭からは火と血と交り合つて噴き出る。骨からはたら／＼した松脂のやうに肉がとろけ流れる、もう眼も當てられぬ始末でございます。

この仰山な死にさまを見た者は、誰も恐ろしくて手を觸れませぬ。その中、姫君の不幸な父上はこの變事を少しも御存じなく、急いで城へ入つて來られました。その屍體の上に躓られました。直ぐさま、ワツとお喚きなされて、兩手で抱上げて、幾度もキツスをなされ、「おゝ、我が子！ 哀れな我子！ お前にこの恥晒らした死方をさせ、もう墓に入るこの老ひぼれ私から引放して了ふとは、何んたる妬深ひ神のした業か？」娘、お前と一緒に私も死んで了ひたいぞ」と叫ばれました。白髮の父王が斯うして、嘆が漸つと濟むか濟まぬかの中に、弱々しい御體を起さうとしてもがかれると、蔦かつらがくね／＼した蔓で月桂樹にまつはり附くやうに、織つた衣裳に取り附かれました。無残なものがき方でした。床から自分の膝を引き離さうとなされると、娘御の屍體で、猶更引張ら

れる、若し強いて力を込めて無理やりにもぎ離さうとなされたら、我と我が骨から、衰へた肉體を引裂かれたに違ひありません。到頭倒れてお了ひなされました。そして苦み喘ぎながら、息をお引取りなされました。あの方はもうこんな禍には引ツ耐へられなかつたのでございます。死んだ娘御と父御とが、互ひにひしと取つて斃れてゐるお二人の運命に私等は泣かされて了ひました。

さア、私の言葉をお聞なされたら、大忙ぎでこの土地から逃げてお了ひなさいませ、こんな不敬な行ひをなさつたら復仇の神が直に取り憑きませうぞ。私は今始めて、人間の事を夢まぼろしと思ふのではない、憚らず私は申します。智慧者のやうに見せかけ、道理らしくこちつけた見かけ倒しの演説などする人達は、最も悪い愚者だと思つて間違ひありません。完全に祝福された人間は、此世にゐるものではない。溢れるやうな富を持つてゐて、他人より幸運な者は居ります。併し幸福な者は一人も居りませぬ。

合 唱 圖

天は今日こそ正義の決心をしてあの偽りの誓をしたエーソンの上に、溜まり溜つた災禍を注ぎかけられるやうに思はれます。不時の運命を何んと哀れんだら善いだらう。ブルトーの館へ婚禮の饗宴を祝ひに行く、おゝ、クレオンのみじめな娘！

メ デ キ ア

皆様、私は子供等を殺すと直ぐ、此處を立退く覺悟でゐます。仇の手で、不面目に、むざ／＼我子を殺さすのを見捨て、は行かれませぬ。子供等は屹度死ななければならぬのです。同じ事なら私が産んだのだから私が殺します。おゝ、我心よ！ 十層倍も強くなれ、のつびきならぬ兇事を仕遂ねばならぬ時に、躊躇してゐて何うなるものか、おゝわが手よ！ 二人の生命を取る劍を握れ、哀れみや、優しい母心に氣憶れがして、目的を果たす妨げをさせるな、何んなに深くあの子等を愛したか、何んなに育て上げて上げたか、この短い一日文忘れて了へ、そして後で二人の無殘な運命に泣け、殺さうと決心はしながらも猶、何處までも彼等は可愛くてならぬ。あゝ、私はあらゆる女の中で、一番みじめな女だ。

(メデキア、退場)

合 唱

オ ー ド

右方歌舞

天地の神、はた遠近の國々の果より果へ

熱き焰輝かす太陽の大神よ

この狂へる女、我子の生命とらんと

無情なる手上げぬ先に、覽はせ

聖く輝く御身の裔より

彼等生れき、而も神の子、人の手に、

刺されんは恐ろし

おゝ彼女が怒りを鎮め給へ、天の光の源よ

エリンニイスの遣はせる惡鬼に追はれて

血もて御身の鬨を汚さん前に。

左方歌舞

汝が産みの苦に堪へて

美はしき子産みしも益なし

おゝ汝は荒波立つ海洋の上を

キエニアのそゝり立つ岩の峽間を

雄々しくも舟よそひして來りしものを

みじめなる汝が身

如何なれば汝が魂の怒り狂ひて

かくまで人を殺しに殺さんとは、

血縁の血に染まりし者は、

償はれざる罪を悔みん、我はよくぞ知る

神々には、この家に極悪の禍を下さん。

長子

(内にて) あゝ！ どうしたら善いだらう。何處へ母様の手から逃げて行かう？

次子

(内にて) 私には分りません。兄さま、私等は死んでも同様です。

合唱

おゝ、貴方は子供等の叫ぶのを聞きなさいましたか？ 禍と悪運との何處迄も付き纏はる貴方！ 私は宮中へ飛込んで、貴方の子供を助ける覺悟をしました。

長子

(内にて) 神様、この恐ろしい禍の時に、私等を御守り下さい。私等は謀反のわなに捕へられて、劍でさし殺されます。

合唱

己が手で、己が産んだ清い血筋の子供を殺すとは、おゝ無慈悲な、貴方は岩か、双金か、私共は自分の子を殺した女は、今までに唯一人しか知らなかつた。あの昔、ジョーヴの意地悪ひ妃の爲めに、神々から暴々しく窘められて氣狂ひになり、館を追はれたイノオは、自分の可愛い子を殺したといふ事です。けれども、イノオは、自分の子供の、神を潰す血汐に咽ひながら、濱邊の嶮はしい崖の上から真逆さまに海中へ身を投げて、二人の子供と運命を共にしました。その後幾百年の間もそれに續いて起る事柄で此よりもつと恐ろしい事があり得やうか？ 女と不幸な結婚をするのは、男に取つて何んたる災禍の大きな源だらう！

(エーソン、合唱)

エーソン

門の傍に立つてゐられる夫人方、この凶悪な罪を犯したメデキアは宮殿の中に居りますか、それとも高飛びしましたか？ 地の下へでも身を隠すか、羽根を生やしてエーテルの高い空へでも上らなければコリント王家の當然な復仇を逃れやうは無、一國の王を弑逆して、この館から無難に逃れやうとでも思つてゐるのか？ 併し私はそれよりも子供の事が氣遣はしひ、彼の女に害された人々が正當な刑罰を彼の女に蒙らせるだらう。私は子供の生命を助けやう爲めに此處へ來たのだ。母が犯した不敬な弑逆の爲めに、クレオンの親屬共が二人に仇を報るやうも知れぬからな。

合唱

あゝ不幸なお方、何んな災難に捲き込まれなかつてるか、貴方はまだ御存じない、でなければ、そんな事を口走りはなさるまいに。

エーソン

エ、どんな災難とは何事でせう？ 彼女は私まで殺さうとしてゐますか？

合唱

現在の母の手にかゝつて、貴方の御子供達は亡くなられました。

エーソン

エ、何んと仰やる？ あの女め、私を全く破滅させよつた！

合唱

全くです。貴方の御子様達のは今はもう亡くなられました。

エーソン

何處でした？ 子供等を殺したのは館の中でか、外でか？

合唱

その門をお開けになつたら、血の中に轉がつてゐる死體を直ぐに御覽なされるでせう。

エーソン

これ、召使ども、向の門の門も錠も直ぐに明け放せ、二重の悲惨事、死の殘骸を私は見るのだ。そして、殺したあの女を罰してやる。

(龍の曳く戦車の中に、メデキア、エーソン、合唱)

メデキア

何うして貴方はここでこの戸を揺すぶつて もう死んで了つた者や、血醒い悪事をやり了せた私を探がさうとなさるのです？ 無駄な手数はお止めなさい。でも若し私に云分があるのなら何んでも勝手に云つて御覽なさい。その手では、決して私に届きません。先祖の太陽が私にこんな駿馬をくれて、この車を廻させます。そして敵に對して私を守つて下さる。

エーソン

おゝこの恥知らずの極悪の女め！ 神々にも私にも、又全人類にも憎み厭はるゝ奴、現在の自分の子を劍で突殺し、私を破滅させ、子の無い、みじめな男子として了つた。而も汝はこの冒瀆の悪業を仕遂げた後、照り輝く太陽と、萬物を養ひ育む大地に面を照らさうとするのか、復仇の神々が取憑いてくれ、私はギリシヤの土地へ、お前をあの家から、あの野蠻人の國から連れ出して来て、お前の親には悲しい破滅をさせ、お前を育てた國には不義な謀反人となつた時に、先づ私を見捨て

た理性を今こそ又取戻したのだ。

私を滅さうとて、或妬み深い神が、先づ汝に地獄の暗い蔭から悪い術を授けたのだ。お前は祭壇の傍で自分の兄弟を殺してから、あの音に聞えたアルゴオに乗込んだのだ。こんな所業でお前の罪の生涯が始まつてゐる。私と夫婦となつて二人の子供を産み、而も私がお前の床を見捨てたと云つて、今はそれを殺して了つた。ギリシヤの女は未だ嘗つて、そんな神を畏れざる所業を犯したものは無い。それなのに私は撰りに撰つてお前を娶つた。呪はしい結婚だつた。私にはこの上もない破壊だつた。私の腕で受取つたのは女ではなくて、タスカニアの海の妖精よりも、もつと残念な牝獅子だつたからな。

いくら罵つても、叱つても、お前には無駄だ。お前は恥不知の、無感覚な奴になつてゐるんだからな！ この汚ららしい魔術使ひ、自分の子供の血に塗みれやがつて、死んで了へ——私は私の残酷な運命を嘆く、私は愛らしい花嫁と睦み合ふ事もならず。又、現在私が胤で育て上げた子供にも優しいやさしい言葉も交されない。彼等は、あゝ！ もう生きてはゐない。氣狂ひの親の爲 にまるで形無しになつて了つたのだ。

メデキア

若し貴方が私から利益を受けたのでもなく、又その不埒な忘恩が、畏い先祖、ジョーヴが善く御

承知なさつてゐないなら、私は貴方の批難なざる言葉にいくらでも口で答をしたのでせう。併し貴方の運命は、私の床を蔑んで好きな楽しい生涯を送り、私の悲みを嘲笑ふやうには出来てゐないのです。又貴方の娶つた王女も、王女を呉れたクレオンも、復仇されずには、私をこの土地から追放されるのですか、云ひたければ牝獅子とでも、エトルリアの洞穴に住むスキーラ（海の妖精）とでも、何んとでも云ふが善い。貴方の胸は正義の命するまゝに、私が傷けて上げたのだから。

エーソン

お前は悲んでゐる。ぢやア矢つ張私と一緒にこの禍を悲んでゐるのだな。

メデキア

それに違ひはありません。けれども私の悲みを和らげるのは貴方がもう嘲る事が出来なくなつてゐるからです。

エーソン

おゝ若達、何んといふ淺ましい母親だらう。

メデキア

父上の好き心が、お前等を殺して了つたのだ。

エーソン

併し、私の右の手は彼等の殺された罪は負はないぞ。

メデキア

貴方の残酷な嘲りも、新しい結婚も、罪がないとは云はせません。

エーソン

私の新らしい結婚が、二人を殺すに十分な原因だといふのか？

メデキア

そんな悪業が、女の胸に軽く治まるものだと、お思ひでしたか？

エーソン

貞操な女にはな、だがお前の魂には悪事が一ぱい詰つてゐる。

メデキア

貴方の子供達は今無くなつて了つた。それは貴方も苦しい事でせう。

エーソン

あゝ！ お前の頭の上に、二人は今、幽霊となつて現れるのだ。

メデキア

誰がこの無残な所業を始めたのか、神々が御存じです。

エーソン

神にはお前の魂の、憎悪に満ちた氣象を御存じだ。

メデキア

私は貴方が憎くてならぬ。一緒に話すのさへ忌になる。

エーソン

私だつて厭だ。けれども何んな文句で永久に別れるか、落着いて相談せう。

メデキア

その文句をお云ひなさい、私が何う始末をするのです？ 自分でも是非、したひと思つてゐますから。

エーソン

私に子供の屍體を葬らせてくれ、二人の上に泣かせてくれ。

メデキア

それはいけません。コリントの城の、鎮守の長いジュノに捧げられた神聖な墓場の中に、この手で二人の屍體を葬ります。彼等の仇敵が憤怒のあまり神も畏れず、辱めたり、石碑を倒したりするやうな事をさせない爲めです。又私は二人を殺した罪の贖としてこのシスフェイスの國中に、莊嚴な

祭と、神聖な儀式を行ふやうに命じます。今から私はエレクトロイスの國へ行つて、大バンディオン
の息子、エーシアスと一緒に住む事になるので。けれども貴方は、貴方の罪に相應なみじめな死
方をしなくてはなりません。あのアルゴオの碎けた船板の下に押潰されるのです。これが私達の結
婚と貴方の裏切つた誠との、苦い終りです。

エーソン

殺された子の悪霊、あらゆる殺人の所行に報ゆる正義の神、汝を微塵に碎いてくれ！

メデキア

おゝ、馬鹿らしい、神聖な愛の法と誓ひを偽つた貴方の呪ひを、何んな神、何んな鬼神が聴くで
せう。

エーソン

悪逆無道の女め、その兩手は汝の子の血烟が立つてゐるぞ。

メデキア

宮殿へお入んなさい、そして花嫁を葬るが善い。

エーソン

二人の我子に引離されて、私が何處へ行ける。

メデキア

まだ貴方には嘆きが足りない、もつと長生して、悲みを増すのです。

エーソン

可愛い我が子！

メデキア

母親の爲めには、でも貴方にはありません。

エーソン

でも汝が殺したんだ。

メデキア

貴方を懲らす爲めに。

エーソン

おゝ、今一度、嬉しいキッスをあの可愛い唇にしたい！

メデキア

今こそ貴方は二人に話しかけ、腕で抱かうとまでなさろうが、生きてゐた時にはこゝから追出さ
うとなさつたのだ。

エーソン

子供等の柔い體を抱くのを許し給へ、神々にかけて私はお前を呪ふぞ。

メデキア

なりません。そんな不敬な言葉を猥りに吐かれると、無事には済みませんぞ。

エーソン

ジョーヴ、これを聞召すか、こんなにまで蔑まれて私は追拂はれるのだ。牙で自分の子供を殺した憎い牝獅に、こんなに傷けられるのか？ 併し私はこゝにちつとしてゐて、許されるのなら、イヤ、勿論許されるに違ひないから、聲高く嘆願して神々を呼び下し、私が死んだ子に手を觸れて、二人を葬ろうとするのをお前が妨げるのを見せたい。お前の手で殺される程なら、私は始めから彼等の産れるのを見たくなかつたと天に訴へやう。

合唱 唱 圖

オリンパスの高御座に、嚴かにしろしめすジョーヴは、神の先見で企てられた事を不意に行ひ、我々の最も堅實な希望も屢々破滅する。併し神々は人間が思ひもよらぬ計圖の手段を矢張、見附け出し給ふ。かくてこの重大な仕事は終るのだ。(完)

エレクトラ

ユウリピデス

登場人物

オウツルガス

エレクトラ

オレステス

ピラアデス

傳者

使者

カスタア及びポリュクス

ミセネの處女の合唱團

オウツルガス

昔ながらの此國の光榮なる、いとも名高きイナツコスの流れよ、汝はアガムムノン王が數千の船を率ゐてフィリジアの濱邊に戦ひに行かれた時の、強大な軍勢を見たのだ、戦ひの結果ダアダン王は殺され、トロイの塔も、傲れる市も跡方もなく打壊され、アガムムノンは恙なくアルゴスに凱旋した、そして野蠻人から奪つた多くの戦利品を尊い寺々の中に納めた、斯うして彼の骨折は、勝利で飾られたのだ、けれど彼の妻クリテムネストラの詭計と、シイエステスの子エージスサスの殺害の手で、場處もあろうに己の家の中で死なれた、かくてタンタロスの手から傳へられた昔ながらの王權を空しく後に残して倒れて了はれた、されば今、エージスサスが此國全體を支配してゐる、アガムムノンの王坐もその妻であつたティンダルスの娘クリテムネストラまでも我が物としてゐる、一體アガムムノンがトロイに向つて船出した時に王子オレステスと美しい芽生とも云ふべき若い王女エレクトラとを残して置かれた、そのオレステスはエージスサスのために生命を脅かされたので彼の父の年若き頃の傳役が、ホウシアの國まで行けば彼を庇ふ事が出来やうと思つて、秘かにストロフイスへ連れて行つた、エレクトラだけは父の家に残された、青春の暖かい花が咲いて彼女の頬邊が赤らむ頃になると、ギリシアの貴族生れの長等がしきりに結婚を申込んだ、併しエージスサスはアガムムノンの死に對して復讐もしかなまじきアルゴスの若者達に彼女を嫁がせるのを怖れ、家の中

に彼女を閉ぢこめて、あらゆる求婚者の歎願をも排ねつけて了つた、而も彼が抱いてゐる暗い恐怖心は、エレクトラが貴い裔の若者に盗み出されて、子供を持つかも知れぬとしきりに嫉かすので、一思ひに彼女を殺さうと決心した、併し、心ばせの猛々しい、残忍な女ではあつたが母親のクリテムネストラは、エレクトラをそうした殺害の手から救ひ出した、夫の殺害に就いてはいくら云遁の口實を持つてゐた彼女も、子供の血潮を流したら國中の憎悪が恐ろしかつたのだ、そこでエージサスは斯様な卑劣な企計をした、即、この國から逃れたアガメムノンの王子オレステスを殺した者には誰にでも黄金を與へると布令を出した、そしてこの私、オウツルガスに娶はせやうとて、エレクトラを呉れた、私の両親はシセネから出てゐる、これまで何の批難も受けた覚えはない、私の一族は立派なものだ、けれども富みで恵まれない、貧乏が私の貴い生なまを日かげ者にして了つた、斯うした世間の底に埋れた者にエージサスは彼女を呉れた、彼の恐怖心が同様に埋れて了ふためだ何故なら若しエレクトラが、高い階級の、世に時めいてゐる人と結婚するなら、今安らかに眠つてゐられる彼女の父の殺害者エージサスをたゞき起して、復讐の手が忽ち落ちかゝるからだ、だがヅキナスも御照覽あれ、私が相手だつたからエレクトラは汚されなかつた、彼女は今も猶處女の身だ、私はこんな卑しい様子をしてゐて、偉い方の娘御を侮辱するのは見下げ果てた事だと思ふ、又私は名義上、縁者になつてゐる不幸な青年オレステスがアルゴスに歸つて來て、妹がその素性に不釣合

な結婚をさせられてるのを見せつけられるのが氣の毒でならないのだ、世間には、自分の家に處女を入れながら觸りもせんでゐるのを馬鹿らしいと思ふ者も居るだろう、併しそうした輩は、曲つた規則で自制を計り、彼等自身を墮落させてゐるのだといふ事を知らせてやりたい。

エレクトラ

おゝ黄金色の星の群の乳母、暗く眉をひそめた夜よ、私は夜の間にこの水甕を頭に載せて流れゆく川の方へ歩みを向けます、これも必要の爲めに強わられてするのではなく、私がエージサスから苦められてゐる暴虐な罪惡のかすゞを神々に訴へるためです、そして亡き父上に係はる私の悲みを虚空に吐き擴ろげるのです、それも、あの亂暴な母親が夫を喜ばせる爲めに私を王宮から追出したからだ、母はエージサスの子供を生んだので、私とオレステスを家から投げ出して了ふのだ。

オウツルガス

不幸な貴方！ 何故かやうに私の爲めに働いて苦勞をなさるのです、何故、私の願ひに背くのです？ 貴方はこんな事をするやうに仕付けられてはゐないのに。

エレクトラ

私は神々と同じやうに、お友達だと貴方を思つて居ります、何故といふに、私が不幸に惱んでゐ

る時に、貴方は私を辱めるやうな扱ひ方をなされなかつたからです、私が貴方といふ人から見せられた悲みを和げるあの優しい力をかうした不幸の中で見附けたのは、心強い慰めの源である筈です、それで私の力の及ぶ丈は貴方の苦勞を和げて上るのが私の勤めです、貴方の苦勞が少しでも軽くなると思はれるやうに、假令云附けられなくとも貴方の働きを御手傳するのが當前です、野へ出られれば貴方の仕事はあり余る程あります、家をよく片附けるのは私の役目です、戸外で疲れていそ／＼して家へ歸つて来る働手に、そこらで眼に附く萬事が嬉しく思はれせるやうに仕附けて来た迄です。

オウツルガス

さういふ氣なら行きなさい、それに泉が家からさほど遠く離れて居ないから、私も夜が明けるや否や牡牛の群を野へ追つて行かう、そして畦へ種を蒔かう、何時も口でばかり神々の名を唱へてゐる怠けた悪者が當り前の勞働もしないで、その日の糧を得られはしないからな。

(オレステス ピラアデス)

オレステス

おゝピラアデス、私は眞心からの友情で汝をあらゆる人類の中の第一番の人だと尊敬する、汝一人丈がこのオレステスを迎へて親しい愛情で敬うてくれた、これ程の不幸を物ともせずエージサスが仕かけた恐ろしい災に私が苦んだ様に汝も苦んでくれた、あの男の呪れた手は、無殘な私の母の

助を藉りて父上を殺害したのだ、併し神の嚴かな御聲の支配してゐる此アルゴスの土地を、私は父上の殺害者等に復讐する爲に誰にも覺られずに歩いてゐる、今宵も此國を支配してゐる人々の眼を忍んで父上の墓に近づき、熱い涙を流し、私の剪髪を捧げ、それから火葬推の上に犠牲の血を供へて来た、私は二つの仕方を一時に企てゝゐるので、城壁の中へは入らない、若しあの暴君の探偵に見附けられても、直ぐ他國の領土へ逃げられるやうに、アルゴスの國境へ來てゐるのだ、そして又一方では私の妹を探がしてゐる、世間の噂に聞くと、妹はもう處女ではない、結婚してこゝらに住んでゐるといふから、私は妹と談がしたい、彼女もこの仕事の仲間に入れ、城壁の中で起つたあらゆる事を知りたいからだ、だが今は、灰色の朝が輝かしい眼を明けたから、私達はこの大通から引込まう、多分百姓か或は女奴隸かゞやつて來るだらう、その者等から何彼と聞き出さう、あ、それ、毛髪を剪つた女奴隸が泉から水甕を運んで來る、暫時躊躇んで居やう、若しかしたからあの女の口から、私達がこゝまで來て知りたいと思つた事を少しでも聞かれるかも知れんから、問うて見やう。

(エレクトラ)

エレクトラ 右方歌聲

この時の間に

悲しき歌を唄ひ出でなん、唄ひ出でなん

この地上に、我が如くみじめなるものありや？
 尊きアガムノンを父に持てど
 母クリテムネストラ——耻はこの
 忌まはしき名に落ちぬ！
 ミセネの城壁の中のあらゆる舌は
 不幸なる、落魂れしエレクトラとわが名を呼ぶ、
 わが魂は悲みの餌食
 わが忌ましき生命は悶えに消えゆく
 わが涙は黄泉なる父、汝のために流る
 呪はれたるエージスサスと凶暴なる彼の妻に——
 あゝ、あゝ、わがみじめさ！——
 卑しき所業もて、生命を奪はれ
 アガムノン王は横はる、
 而も今一度、涙ぐみたる曲調レクを高め
 甘く悲しき調子に我が苦しみを和らげよ。

左方歌謡

この時の間に
 悲しき章を歌ひ出でなん、歌ひ出でなん
 不幸なる兄よ、今如何に
 如何なる家か、酷くも汝を奴隸とはせる
 汝の妹は、幸多かりし年の清き隠れ家と
 父の定めし室に閉ぢこめられぬ、
 汝のみじめなる妹は涙のみぞ
 いと酷しき禍の深き悲みより
 絶えず流れ出る涙か？
 おゝ御身來り給へ（おゝジョーヴ、ジョーヴ、天上の王座から聞しめせよ！）
 わが苛まるゝ心を裂く苦を和げる爲め
 卑しく殺されし父の讐を報ゆる爲め
 いつかは疲れたる、さ迷ひの足を、
 再びこのアルゴスに向け給へ

わが頭よりこの甕を取り給へ
そは悲みの、夜の律に高く溢れもすれば。

エポード

冥府にゐます父の爲め

悲しき歌、死の歌を我は唄ひ出でなん、

父のゐまさぬこの日々を

いかに悲しく我は過せし

汝の爲めに血の出る胸を我は裂き

わが頭を打ち、我が髪を剪り

死者への捧げ物とせり

いでこの上は頭をも碎かん、

或る廣くすべる流に沿ふ如く

父はあちらへ裂きゆかれぬ

狡計たくみの網の餌食に捕へられ

調子くづさぬ白鳥の歌を歌ひ出づる。

わが父、汝を我は嘆く

最後の浴に呼吸を止められ

死の床に平臥せし父を、

トロイより歸れる汝に

呪ひは巧まれて鋭き斧は破滅に猛る

汝の妻は光榮の冠を作らず

汝の顔に結ぶべき祝祭の花環もなく

唯、暴虐なる鋭き刃

彼女の烈しき情熱に導かれて

厭まはしき殺人の所業を助け

かくてエージスサスを母は寢床に導きぬ。

(エレクトラ 合唱圖)

右方歌舞一

アガメムノンの息女エレクトラよ

おん身の鄙びし小家に急ぎて飛び來れるは

そこの野山に羊飼へる
 善き信仰持てる若者がミセネより来て
 聖なる三日の祝祭
 アルゴスに行はれ
 すべての處女はジュノウの社に急ぐと
 云ひし故なり。

エレクトラ 右方歌舞 二

我が友よ、幸福なりし日に我を飾りし
 華麗なる胸飾、今はなし
 わが胸にまばゆく閃めいてわが心を樂ませし
 黄金の縁付けたる寶石今はなし
 わが足は最早、謎圖と亂るゝ踊を忘れたり
 アルゴスの處女の行列を最早導かれじ
 あらゆるみじめなる日の悲しき慰めは
 涙の中に、止めどもなき不幸を考ふるなり

わが飽くなき苦勞に、この捲髪は汚る
 わがまとへるこの衣服の汚れをも見よ
 これがアガムノンの娘の運命とは？
 我が父の領しめせし國は今何處ぞ？
 彼が名の光榮は如何に
 トロイは悲しくもその勝利者の偉大なる譽
 記憶するか？

合唱團 左方歌舞 一

ジュノウの女神は畏し、
 いざ行かん、共に行かん
 美しき御身を輝かすものは
 黄金にもあれ、種々の色に光る胸飾にもせよ
 皆受け取りて身につけ給へ
 御身に辛き神々の心を動かさんに
 涙はいと不敬なるを考へられよ？

嘆息もて彼等の助けは得られじ
 唯、清き誓を立て、祈りなば
 神々もやがて汝の敵を挫き
 祝福を降し給ふ日の來らん。

エレクトラ

左方歌舞 二

わが叫び、わが誓、神々は聞召さざらん
 又わが父の迸る血潮に、眼をも向け給はじ
 あゝ、殺されし父哀れ、
 生存ふる流竄の兄にはわが涙流る
 彼は生れし國を離れ
 地上をさまよふ流人の身
 涯はより涯へ彼の悲みを引きつゝ
 奴僕の家に卑しきかくれ家を求む
 彼の脈には、王の血の流るれども。

われも亦、壓制の鐵の手にて
 父の尊き坐より追はれ
 この低く暗らき隠れ家に住む
 勞苦にわが悲しき生命は消えゆき
 或は嶮はしき山々を越えてさ迷ふ
 さるを母の卑しき所業は榮え
 彼女の寢床に血に汚れし殺害者を導く。

合唱

汝の母の姉妹ヘレナ
 グリースに多くの禍の源となれり
 而も汝の家にも。

エレクトラ

おゝ！ 皆さん、もう私は歌を止めませう、小屋の近くで夜を明かした見知らぬ人達が、待伏せ
 してゐた場處から起上りました、さアこの道から逃げませう、私も家へ逃げて行きます、あの人等
 の殘忍な手から早く遁れませう。

(オレステス ピラアデス エレクトラ 合唱團)

オレステス

不幸なお方、お留りなされ、少しも私を怖れなさるな。

エレクトラ

おゝ、日の神よ、何卒私の生命を御助け下さい。

オレステス

もつと憎んでゐる他の人達なら、私は殺してもしたろう。

エレクトラ

あちらへ行つて下さい、でなければ貴方が觸つてはならぬ者に觸らんで下さい。

オレステス

私がこれ以上に、觸るのが當前な人は他にはない。

エレクトラ

では何故劍を持つて、私の家の近くに待伏せしてゐたのです？

オレステス

まア留まつてお聞きなさい、留つた事が無駄ではなかつたと、直ぐに解りませう。

エレクトラ

そんなら留まります、貴方は私より強い、私は貴方の手の中にあるも同様です。

オレステス

兄上の御托言を持つて、貴方の處へ來た者です。

エレクトラ

まア、何より嬉しい、彼はまだこの世で呼吸をしてゐますか？

オレステス

生きてお居ですとも、私は先づ貴方がお喜びなされる事を話ませう。

エレクトラ

おゝ斯うした一番難有い言葉を聞かせて下さつた貴方に、祝福あれ！

オレステス

その祝福は貴方と私とが同様にあやかりませう。

エレクトラ

あの不幸な流人は、今、何處をさまよふて居ますか？

オレステス

何處の國にも屬かないで、無駄な生涯を送つて居られます。

エレクトラ

日々の生活に苦んで居りますか？

オレステス

さうでもありません、併し迷うて歩く流人の様子は卑しいものです。

エレクトラ

だが貴方は何んな使を兄から托かつて來られたのです？

オレステス

若し生きてお居だつたら、何處で貴方が悲しみを堪へてゐられるか、見届ける爲めです。

エレクトラ

では先づ、私の瘦せ衰へた姿をよく見て下さい。

オレステス

悲みにやつれ果てゝお居だ、眞實にお可哀さうです。

エレクトラ

私の頭を見て下さい、人に褒められたちぢれ毛を剪つて了ひました。

オレステス

貴方の兄上、或は父上の死なぐさられたのを吊ひなすつてですか？

エレクトラ

それ以上に、もつと私の心から親しいものがありませうか？

オレステス

あゝ！ 貴方は兄上のお考へを何うお思ひですか？

エレクトラ

遠くへ離れては居ますが、兄は私に一番親切です。

オレステス

何故貴方は市から離れたこんな處にお住居ですか？

エレクトラ

おゝ、見知らぬお方、私はつまらぬ結婚をさせられました。

オレステス

私は貴方の兄上のお嘆きがさこそと身につまされます。で相手は矢張貴族ですか？

エレクトラ

父上がかねてお望みなさつてたやうな人とは異ひます。

オレステス

聞いた事を兄上へ傳へませう、お話しなさい。

エレクトラ

これがその人の家です、こゝに私は淋びしく暮らして居ります。

オレステス

この家は井戸堀人か、羊牧者かゞ住むには相當してゐます。

エレクトラ

貧しくはあるが、私を尊敬して寛大に取扱つてくれてゐます。

オレステス

貴方の夫は何んな尊敬を拂つてくれるのですか？

エレクトラ

彼は決して私の寢床に近寄ろうとはしません。

オレステス

神聖な童貞を守つてゐる爲めですか？ それとも貴方を嫌つてゐるせいですか？

エレクトラ

私の尊い親達を辱めるのを無禮だと思つて居るからです。

オレステス

何うしてそのやうな結婚を自慢せないものでせう？

エレクトラ

彼は結婚はしてゐても、私の夫だとは思つて居ません。

オレステス

オレステスがいつかは罪惡に復讐すると思つて居るからですか？

エレクトラ

それも恐れてはゐます、でも、一體に慎深うございます。

オレステス

寛大な人だ、充分報ゐられて然るべき人です。

エレクトラ

今は居ないオレステスが、若し家へ歸つて来るやうな事があれば――

オレステス

でもこうまで身分を貶させて、貴方の母上は忍んでゐられますか？

エレクトラ

でも妻に取つての氣がよりは、子供達の事ではなくて、夫の事ですもの。

オレステス

何故、エージスサスはこうした卑劣な悪事を企んだのですか？

エレクトラ

私を斯様な目に逢はせて、私の子供達を見る影もないものにせうと思つてゐるのです。

オレステス

彼に復讐する者が、貴方から産まれないやうにすな。

エレクトラ

この企丈でも、彼の上に復讐が落ちかゝつてよい。

オレステス

貴方がまだ處女である事は彼は知つてゐますか？

エレクトラ

彼は知りません、私達はこの事を秘密にして居ります。」

オレステス

私達の話聞いてゐるこの人達は信實な貴方のお友達ですか？

エレクトラ

この人達は決して私達の言葉を他へ洩らしはしません。

オレステス

若しオレステスが歸つて來たら何をしなければならぬでせう？

エレクトラ

こんな事を今更御問ひなさるのですか？ 何んといふ氣の利かない事でせう、今こそその時です——

オレステス

だが貴方の父上の殺害者等を彼は何うして殺せるでせう？

エレクトラ

父上を殺した通りに、向不見に決行のです。

オレステス

彼と共に母上も、貴方は殺す事が出来ますか！

エレクトラ

父上が斃されたのと同じ斧を持つてー。

オレステス

これを私は兄上に話してもよろしいですか？　そして貴方はもう決心してゐるのですか？

エレクトラ

先づ母の血を流してをいて、私は死たい！

オレステス

おゝ、オレステスが傍に居て斯うした言葉を聞かれたら！

エレクトラ

見知らぬお方、こゝで若しお逢ひしても、私は兄上が分りますまい。

オレステス

無理はありません、何しろお二人がお別れになつた時は、若かつたのですから。

エレクトラ

私の友達にも兄を見知つてゐる者はありません、唯つた一人の他は。

オレステス

噂で承知してゐますが、彼方が殺されかゝつたのを盗み出した人ですか？

エレクトラ

父上の若い時の傳役だつた老人です。

オレステス

貴方の死れた父上は墳墓を作つて崇められましたか？

エレクトラ

その崇められ方と云つたら、家から投げ出されたのです。

オレステス

あゝ、何んといふ野蠻な所業だ！　見知らぬ私達まで平氣ではゐられぬ、この罪惡の感あはれは、あらゆる人間の心を突き刺します、だがお話さない、私は兄上へお傳します、多分貴方のお話なさるお言葉は彼の耳を痛くするでせう、でもそれは又彼が非常に聞き度がつてゐる事です、事柄を知らんものには兎も角、知つてゐる人達は、やさしい、憐愍の情を催ふします、だがあまり多く知るといふ事は、やゝもすれば悲みの苦い源だ。

合　　鳴　　■

私の心にも同じ願が燃え立つて居ます、遠い市から來ましたので、さうした悪事は少しも知りま

せん、何卒話して下さい。

エレクトラ

出来れば話したうございます、友達に私の苦んだ父の悩みや私の悩みを話してはならんものでせうか？ だが、見知らぬお方、私にこの打明け話をするやうにお強ひなすつたからは、何卒、オレステスに、私等兄弟の不幸も傳へて下さるやうにお願いします、王の血統に生れながら、私が何んな卑しい衣服を纏つてゐたか、そして又何んな見すばらしい、低い屋根の下に住つて居るか、見たまゝを兄上に話して下さい、私は織機に倚りかゝつて働いて長い布を織りながら、裸體をかくす胴衣にも有附けません、溢れ出る泉から水を汲みながら、祝宴の仲間には入れませんが、踊りの先に立つ處女達の行列の中では、私は最早處女ではありません、私は彼等に左様ならを云つて別れました、同じ立派な裔から出た人として、神々の前へ進み出る前に、許婚の仲であつたカस्ताアにも私は左様ならを云ひました、その間に私の母はフィリジアの戦利品に取り圍まれて玉座に即いてゐます、父上に征服されて奴隸になつたアジアの女達は、黄金の釦で止めた派手なインディアンの衣服を着て、母に侍づいて居ます、土にまみれた父上の血は王宮の中で腐つてゐるのに、そして父上がお乗り遊ばした同じ車に殺害者が乗り、同盟してゐたギリシヤ全體を支配した父上の王たる權威の印であつた笏を、彼は血醒き手の中に誇らしげに握つてゐるのです、王たる父上の墳墓は崇められもせず濫奠も受

けません、又桃金嬢の枝さへも植へられてゐません、神聖な飾りのない、火葬堆は少しも威嚴がない、世間で立派な王と呼ばれてゐる、彼の母の夫は酒の附け元氣で、父上アガムノンが横はつてゐられる土地の上を無禮にもよろめき歩きます、そして紀念の碑に石を投げながら誇らしげに下すんだ言葉で私達を罵ります、「何處に汝の息子はゐるのだ？ オレステスは何處にゐるのだ？ 現在、彼が居て守つてくれる汝の墓はいかにも尊いものだ」、かやうに彼は現在ゐない人を罵ります、けれども見知らぬお方、何卒オレステスにこの事を話して下さい、私は心からお願ひします、何も彼もが復讐するやうに責めてゐます、それを私は取次ぎます、私の手、私の舌、悲みの爲めに絶望してゐる私の心、毛髪を剪つた私の頭、それから父の死體、—父上の腕はトロイ人を征服なすつたのに、今が若盛りで、而も立派な血統から出たオレステスが、唯つた一人の人に復讐を仕返す文の力がないならそれは耻です、卑しむべき耻です。

合唱

だが御覽なさい、貴方の夫が、仕事を止めて、家へ急いで來られます。

(オウツルガス エレクトラ オレステス ピラアデス 合唱)

おや！ わが家の戸口に見かける此旅人等は何方だ？ 何うして此田舎家の門へやつて來られた

のか？ 何か私に用事でもあつてか？ 若い人達と戸外に立つてゐるのは女の名譽に關わる事だ。

エレクトラ

私の信實なお友達、何卒懸念して下さるな、この人達のお話で貴方もよくお解りになるでせう、オレステスの命令で私の處へ來て下さつたのです、見知らぬお方、彼が誤つて云つた事を許して上げて下さう。

オウツルガス

彼の方等は何う云ふのだ？ オレステスはまだ生きてゐるのか？ 一本立の男子でゐるのか？

エレクトラ

まだ生きてゐると云ふのです、そして私の思つてゐた通りに話します。」

オウツルガス

彼の父上や、汝の受けた罪惡を記憶えてゐるのか？

エレクトラ

私もそれを望んで居ます、けれど流人の身は弱いものです。

オウツルガス

オレステスはあの方達に何を言はせに寄越したのか？

エレクトラ

私の不幸な有様を見て來るために、秘とこの人達を寄越したのです。

オウツルガス

いくらかは彼等が見やう、そしていくらかは汝が話して聞かされやう。

エレクトラ

いろんな様子を見れば、彼人達も御分りになるでせう。

オウツルガス

ではもつと以前に、この見すばらしい戸を開けて上げねばならなかつたのだ、さア、汝はお入り、嬉しい音信を持つて來て貰つたのだから、この貧しい家で、あり丈けの御馳走をするやうになさい、お付きのお方、持つてゐらした旅行に必要な物はこちらへお運びなさい、御遠慮なさるな、貴方達は親しい人の處へ友達として來られたのです、私は貧しいものだが、卑しい心は決してお見せ申しません。

オレステス

神かけてお問ひしますが、この方がオレステスに耻辱を與へるのを無禮だと思つて、かやうな氣高い尊敬を以て貴方との結婚を守つてゐる方ですか？

哀れなエレクトトラの夫と呼ばれてゐる方です。

オレステス

自然は寛大な心が外面からそれと知れるやうな目印をつけてくれなかつた、人々の性質は見たばかりでは區別が附かない、私は屢々尊い父が耻ぢてゐるやうな價值のない人も見た、それから又、不徳な両親から價值のある子供が産れたり、卑しさが富める人の心を匍ひ廻り、又屢々見上げた精神が貧乏人の中にあるのを見た、では何うして我々は正しい判断が出来るであらうか？ 富に依つてするか？ それは吟味が間違つて來やう。では貧乏に依つてするか？ それも不如意の爲めに厭はしい行をし易いといふ危険がある。では我々は武器に依てするか？ でも槍を見つめた處で、誰が大膽な心を判断し得やうか？ かやうな裁判は偽りである、この人はアルゴス人の中でも偉いといふではなく、又自分の家の誇らしい名譽を恃んで昂ぶつてゐるでもなく、屬してゐる平民の階級が、この人の自由な心を證し立てたのだから。では虚偽の陪審官の告訴狀に誤られて、迷ひ途に引込まれた貴方達の心は智慧を學ぼうとは思はないか？ 禮儀に依つて、又所業に依つて貴族を裁判する事を學ぼうとは思はないか？ 斯様な事が國家に對し、又家庭に對する彼等の尊敬すべき信念を示すものだ、精神のない唯の肉體は廣場にある彫像と何の異りもない、又戦争に於ても、強い

武器が、必ずしも弱い武器以上に、危険な打撃に堪へるものだとは限らない、これはその性質や勇敢な心に據るものだ、併し私達は貴方の懇ろな親切をお受けしませう、アガ멤ノンの御息息、その方の爲めに私達は來たのだが、その御息息が生きてゐらつしやるか、ゐらつしやらぬかといふのは重大な事だから、ピラアデスよ、この家へ御入り、私も入らなければならぬ、この人は、貧しくとも、富める人よりも愉快げに私等を迎へてくれた、その親切を感謝するのは當前だ、だが若し貴方の兄上が、その繁榮の家へ私を案内して下さるのだつたらもつと私は喜んだでせう、併し若しかしたら兄上はお出でになるかも知れない、日の神の託宣の御聲は屹つと間違はせぬ、人間の豫言は、私はさう重く思つてはゐないが。

(オレステス及従者は家の中に入る。)

合唱

エレクトトラよ、今が今まで私達の心はこんな歡びで暖められた事はありません、今、幸運がそこに確りと立つてゐるのかも知れませんが、進み方はのろくても。

エレクトトラ

不幸な貴方、家が貧乏な事を御存知でありながら、貴方よりもずつと立派な階級の、あゝした客人を何故お迎へなさるのです？

オウツルガス

何故、いけない、若しあの人達が貴い方ならその態度で知れるのだ、食物がまづかろうが、旨かろうが、同じやうに悦んで満足しないだろうか？

エレクトラ

卑しい身分に相應しない事を貴方はなさつたから、愛しい父上に仕へた老人の傅役の處へ行つて下さい、彼はアルゴスの領地とスパルタの國境になつてゐるタヌス河の近傍で、市から追出された流人となつて羊の群の番をしてゐます、お客人を待遇す物を調べて、貴方と一緒に家へ来るやうに頼んで下さい、彼は自分が守護した息子がまだ生き存へてゐる事を聞いたら、屹度神々に誓を捧げて喜ぶでせう、私達は私の父上の家からも、母からも何も受ける事は出来ないのです、だが、若し母が、オレステスの生き存へてゐるといふ、母を一番悲ませる事を聞知つたら、随分、苦むでせう。

オウツルガス

汝がそれ程喜んで云ふのだから、その言葉を私は老人に傳へやう、だが汝は早く家へお入り、そして萬事の手配りをしたが善い、氣さへ利かしたら女といふ者はいろんな事を難有がられる御馳走にせられるものだ、それに家の中には、あの人達の一日位の用を足せる丈の物はまだ十分に残つて

ゐる、だが、私もこんな事を考へ出すと、旅人を待遇したり、病氣に苦んでゐる人を助けたりする事が出来る位の力のある財産が欲しくなる、併し、天然自然に要る日々の糧の事はちよつとしか氣に留めない、それ丈の者は、富める人も貧しい人も、同じ分量で足りるのだから。

合唱團 右方歌舞 一

無数の權もて海を押切り

海神の群の中に踊りつゝ

厭はしきトロイの濱邊に

黒き船首を向けたる勇ましき船よ、

笛吹いて愛を引く海豚の、みだらに踊り廻る間に、

セテキスの子は喜んでアチレスを導けり

シモイスが潮を轉ばす濱邊の上に跳びながら、

(アガメムノンの威勢よき軍勢と共に)

左方歌舞 一

海神はユベアンの濱邊を去れり

プルカンの金色の砧に打たれし

武器は神々しく輝けり

ペリオンの岩なす山の峯を越へて

オツサの森の冠せる崖の上を越へて

ニムプが低き平野を示す處を

彼等は過ぎぬ、戦好きの父が

ギリシアの誇りなる、セテキスの雄々しき子を育める處を

光榮もてアトリダの苦を分つべく導かれし。

右方歌舞 二

トロイの掠奪に加擔せし人を、

我はナウプリアの港に見たり

おゝセテキスの子、彼の舌に歡樂はかゝれり

彼が汝の桶の光榮を告げ知らせし間にも

その輝ける衣にはフリジア人の眼を脅かせし何ものかの形像現はる

ゴルゴンの首を掴みつゝ、王坐を廻り

波打つ翼を彼の靴サンデルに結びて

彫みたるペルセウスは大洋の上に現る。

羊牧へる平野の守護神

ジョーヴの御使ヘルメス、

彼の金色の翼を動かさば

この愛せられたる長キョウに似る。

左方歌舞 二

空にまどゆき輝きの中の

太陽の輪の真中に充ちて

猛き駿馬の群飛ふが如し

靜かに瀨氣の道を轉びつゝ

星の群は夜を通してきらめく

ヘクトルの眼には恐ろしく見えて

兜天に高くスフィンクスは金と輝く

彼等の餌食を彼等の爪に持ちて

ゆたかに光る下衣から

彼等の野蠻な勝利の歌を歌ひ出でつゝ。――

エピソード

恐ろしや血に汚されし槍

四頭の駿馬の車は戦の中にめぐる

彼等の後ろに塵の雲は黒くうづまき上れり

かゝる勇ましき長等を王は導けり

而も一の呪はしき手は彼を殺しぬ

彼の妻の手が、

彼女の尊き血はチンダロウスの豊かなる流より溢れ出づ

而も恐ろしの所業は彼女の魂を暗くしつ

されど神々の復讐の力は

汝の上に彼等の正義の怒をふりそゝがん

されど汝の首は隼鷹に傷つけられん

されど我は汝の血の大地にまみるゝを見ん!

(老いたる傳役 エレクトラ 合唱團)

傳 役

私の敬ふ主婦、懐かしい子供、一度は私の手鹽にかけたアガムノンの息女は何處にお居か?

あの方の家へ行くには路が峻はしい、昇るのが難儀ぢや、私の年老つて弱くなつたこの足にはきつい骨折だ、けれども私は曲つた膝を疲らせて、お友達を尋ねて行くのぢや、おゝ、御息女、貴女が家の前にゐられるのが見えます、私は参りましたぞ、私の羊の檻の中からこの稚々しい仔羊、それからこの花環、又瓶の中からこの新らしい凝乳を持つて――それによい香のする古い、高價な酒を入れたこの小さい壺も持つて來ましたぞ、分量は少ないが、何かを割つて和めても杯には美味しい飲料が出來ませう、御客人達への斯うした贈物を誰かに家の中へ運ばせなさいませ、その間に私はこのぼろぼろの上衣で眼を拭きませう、涙が溢れ出して濡れて居ますでな。

エレクトラ

親切なお老爺さん、何うして汝の眼は涙に濡れてゐるの? 今更私の不幸の記憶が浮んで來たのか? それとも氣の毒なオレステスの高飛びしたのを悲んできたか? 又は、汝が手がけて守り立つた私の父上の運命が、汝に取つても、汝のお友達に取つても、無益に終つたのを悲んできたか?

傳 役

無益でした、けれども私の心は堪りません、でこゝへ來る途中、父上のお墓へ寄道をして、大地

に臥して唯つた一人、誰にも見られず、存分に泣きました、それから、貴女のお客人達へ持つて参つた酒で灌奠をして、お墓の周回に桃金娘の枝を挿しました、その時、私は火葬堆の上に、まだ犠牲の血の生々しい黒い牝牛と、誰かの頭から剪られた赤黛色の房々した髪毛を見ました、貴方、一體誰かこの墓へお参りしたのだらうと驚きましたよ、アルゴス人には出来兼ねる事だ、これは多分、貴方の兄上が、密と来て父上の墓に斯うした敬意を拂はれたのではないか知ら、まアこの髪毛を貴方のと色が似てゐるか、比べて御覽なされ、自然は一人の父から血を分けた者に、多くの似寄つた點を傳へるのを好まれます。

エレクトラ

賢い人にも似げない汝の言葉です、若し汝は兄上がエージスサスを恐れて、このミセネの領土内へは忍び足でも来られはせぬ事に氣が附いたら、私等の頭髮に何の似寄がありませんか？ 兄上は烈しい角力場でさまざまの苦勞に練られなすつた、私のは櫛で撫で附けてある、だから少しも肖似つては居りません、それに老爺さん、肉親の血の一滴も分けてゐないのに、同じやうな色合の髪毛もよく見附かるものだから。

傳 役

けれども足跡はあのお方のです、その痕形を記して來たから、貴方と同じ大きさか何うか御覽

なされ。

エレクトラ

何うして兄上の足跡が、堅い、岩の多い途に残るだらう？ よし残つたにしても、兄と妹とは同じ大きさの足を持つてはゐません、男の足はずつと大きいものだ。

傳 役

けれど若し貴方の兄上がお出でになるとすると、殺されかけて助かつた時に着て居られた、貴方のお手織りで見覚えのある着物の他に、持つてゐられませうか？

エレクトラ

兄上が此國から逃れて助かつた時には、私はまだ幼かつた事を汝は知らないのか？ それに、兄上が小供であつた頃に私が織上衣つたが、身體が大きくなるにつれて同じ様に大きくなりなれば、何うして今、同じ装で居られませう？ 否、誰か旅の人が、墓場で氣の毒で堪らなくなり、巻髪を剪つたのでせう、それともこの國の人が、暴君の廻し者の目を掠めてした事でせう。

傳 役

兎に角、旅のお方は何處にゐられますか？ 私は逢ひたい、お兄上の事が聞き度うてなりませんでな。

エレクトラ

御覽、あの人等は、大急ぎで家から出て來ます。

(オレステス ピーアデス エレクトラ 傳役 合唱)

傳 役

あの人達の様子は氣高い、だが外面の形は屢々眼を欺すものぢや、氣高い様子をしてゐるものは大抵卑しいものぢやで、だが私は見知らぬ方に御挨拶せう。

オレステス

おゝ、霜を戴いた御老人！ エレクトラ様、こうして御目にかゝるこの尊い御老人は何方です？

エレクトラ

見知らぬ方々、この方は私の父上の若い頃のお傳役です。

オレステス

では、この方が貴方の兄上を連れ出された人ですか？

エレクトラ

若し兄上が生存らへられるならこの人が助けたのです。

オレステス

何故、珍らしさうに私をしげ／＼見るのだらう、銀に刻んだ光つた印でも調べてゐるやうに？
何か似寄つた所でも探がして居るのでせうか？

エレクトラ

貴方が、兄上のお年齢と同じ位なのを見て、喜んで居るのでせう。

オレステス

眞實に愛すべき人だ、だが何故あんなに私の周圍をぐる／＼歩き廻るのでせうか？

エレクトラ

私にも不思議でなりません。

傳 役

私の親しい、私の尊敬する子供、神々に呼びかけなさい。

エレクトラ

何をです？ こゝに居ない人か、それとも居る人の幸をですか？

傳 役

神が下された寶を手にする爲めに。

エレクトラ

さア、私は神々に呼びかけます、汝は何を云ひたいの？

傳 役

おゝ、私の子供、今こそ彼をよく御覽なさい、あの一番懐しい青年を。

エレクトラ

私はそれより前に、汝が感違ひしてはゐないかと心配です。

傳 役

眼の前にオレステスを見てゐるのに、感違ひだとは！

エレクトラ

私のあらゆる希望以上の事を何うして汝は云ふのです？

傳 役

彼こそアガ멤ノンのお子様ぢや。

エレクトラ

私がそれを信用せられるやうな何か目印でも汝は見附けたか？

傳 役

彼の方がずつと昔、貴方と一緒に父上の家にゐられた頃、牡鹿を逐驅けて墜落なすつて、深い疵

が附いた、あの眉毛の上の創痕がそれです。

エレクトラ

成る程墜落なすつた時に附いた創痕が私にも見える。

傳 役

何故、一番親しい者を抱きしめるのを愚圖ついでゐられるのぢや？

エレクトラ

もう愚圖々々しません、汝が見つけた創痕は疑はれぬ證據です、おゝ、貴方はとうとうお歸りな

さつた、私は希望んでも出来ないと思つたのに斯うして貴方を抱きしめます。

オレステス

私の腕もとうとう斯うして汝を抱きしめる。

エレクトラ

こんな事は夢にも思ひませんでした。

オレステス

私も亦望みさへ出来なかつたのだ。

エレクトラ

眞實に貴方は兄上ですか？

オレステス

若し私が現在の仕事のこの網を思ひ通り曳く事が出来れば、汝と確り絆で結び付けられてゐる唯つた一人の者だ。

エレクトラ

私は確かにそれを信じます、けれども若し瀆はしい罪惡が正義に勝つて暴威を揮へるものなら、私達は最早神々がゐられるといふ事を決して信ずる事は出来ませぬ。

合唱團

さうです、貴方は歸つて來られた、おゝ、待遠しかつた日がとう／＼來ました。そうして輝かしい光がミセネの領土にその榮ある明るさを見せます、その人こそは父の王宮から追はれ、長い間憐れな流人として耻しめられたが、今こそ歸つて來た光で私達を歡ばせます、わが王なる友よ、いづれの神か、いづれの神かど、我々の輝かしい勝利を導き回して下さる、貴方の手をお上げなさい、そして貴方の兄上の爲めに、彼が恐れ氣のない足で成功を踏み付け、又成功がその足に従ふて來るやうに、嘆願の誓ひを天にお立てなさい。

オレステス

それもよからう、私は今、喜んで汝の抱擁を受けた、それが繰返される時もやがて來やう。だが老人、汝が來てくれたのを幸、私に云つて聞かせてくれ、卑むべき殺害者の頭上に、私は死んだ父の復讐をするのに何うしたら善いか？ 私はこのアルゴスに誰一人友達を持つてゐないのか？ 情義を知つた者が一人さへ残つてゐないのか？ 私の運命は全く無くなつてゐるのか？ 私は誰に頼めば好いのか？ 私の目的を遂げるには夜が善いか？ それとも晝か？ 又、私は敵に向ふのに何の途を取つたら善いのか？

傳 役

おゝ、私の子供、貴方の運命も頼れ果てゝゐる最中だから、貴方は友達を持つてはゐられませぬ、榮える時も、それが逆さまになつた時も同様に、勇んで加擔してくれる人が何處に見附かりませう？ だが、私からこれ丈の眞理をお知りなさい、貴方は友達を全く奪はれてゐらつしやる、又希望さへも残つては居りませんが、今は貴方の手の中に、又運命の中に、貴方の父上の家と、王たる領土とを取回される凡てのものを持つて居られますのぢや。

オレステス

ではこの光榮ある目的を仕遂げる爲めに私等には何うすれば善いのだ？

傳 役

エージスサスと貴方の母とを殺さねばなりません。

オレステス

そのために私はやつて来たのだ、だが何うしたら勝利が得られやうか？

傳 役

さうしたいと思はれたら、城壁の中に入つてはいけません。

オレステス

番兵が槍で固めた手で守つてゐるからか？

傳 役

その通りです、彼は貴方を恐れてゐます、夜もおち／＼眠らないで。

オレステス

成る程、では汝の年の効で、考へつゝいた事を教へておくれ。

傳 役

お聞きなされ、たつた今、こゝろいふ事を思ひ附きました。

オレステス

汝がそれを云つてくれたら私も何か巧い事を考へ附くだろう。

傳 役

私はこゝへ来る途中、エージスサスを見かけました。

オレステス

フム、それは耳よりな、何處で？

傳 役

彼の駿馬を牧つてゐる牧場の畔で。

オレステス

何をしてゐた？ 絶望から希望が起つて来たぞ。

傳 役

ニンフの祝祭の用意をしてゐるやうに思はれました。

オレステス

子供が生れた御祝の爲めか知ら、それとも、もつとそれ以上の誓ひ事か知ら？

傳 役

私の知つてゐるのは、犠牲が準備されてゐた事丈です。

オレステス

何んな人達が彼と一緒にゐたか？ 奴隸丈だつたか？

傳 役

家來の者達の他に、アルゴス人は居ませんでした。

オレステス

若し私を見たら、オレステスだと氣が附くやうな者は誰もゐなかつたか？

傳 役

否え、貴方の顔を見た事もない奴隸達ばかりでした。

オレステス

では、若し私が勝てば、彼等は私の味方に附くだろう。

傳 役

それが奴隸の根性です、だがそれは貴方に都合が善い。

オレステス

何うやつて、私は彼の身體の傍に近づかうか？

傳 役

犠牲が斃れた時に、彼の眼の下を御通りなさい。

オレステス

すると、その途は、彼の牧場に附いてゐるやうに思はれるが。

傳 役

祝祭に與かれと云つて、貴方を呼ぶかも知れません。

オレステス

苦手のお客だ。若し神々の御意に適うてさうなつたらな。

傳 役

それから先は、臨機應變で、貴方が計略をめぐらしなさい。

オレステス

よく云つておくれだつた、だが私の母は今、何處に居るだろう？

傳 役

アルゴスにゐられます、だが直ぐに祝祭が彼の方に恵みをかけませうよ。

オレステス

何故、夫と一緒に來ないのだろう？

傳 役

人民の正當な非難を恐れて、留まつて居るのです。

オレステス

では母は國中の嫌疑がかゝつてゐるのを知つてゐるのか？

傳

知つてゐられますとも、邪惡な女は皆が嫌ひます。

オレステス

では私は何うしたら彼等を一緒に殺せるだろう？

エレクトラ

私は母を殺すにつけて、手段を廻らしませう。

オレステス

運命が何か都合の善い事を拵へてくれるだらう。

エレクトラ

何うか私達二人を運命の神が助けて下さるやうに！

オレステス

屹度然うなるだらう、だが汝は何か企みがあるか？

エレクトラ

老爺さん、クリテムネストラの處へ行つて、エレクトラが男の子を生んだと云つておくれ。

傳

ずつと前からか、それともつい近頃か、その子をお腹に持たれたと云ふのですかな？

エレクトラ

今日明日にも、淨めの式をせなければならぬと云つておくれ。

傳

そうして何ういふ譯で、これが貴方の母を死なせる手がゝりになりますか？。」

エレクトラ

私が病氣で産褥に就いてゐると聞いたたらやつて來るでせう。

傳

私の子供、彼女は貴方に對して、少しも優しい心など持つては居りませぬぞ。

エレクトラ

それは分つてゐますとも、私が子供を生む果報が、彼女を泣かす位なものです。

傳

大方そんなものでせうよ、だが貴方の目的を手短にお話なさい。

エレクトラ

若し母がやつて来れば、死が…慥かに死が待つてゐます。

傳 役

ではこの門の中に、彼女の足を踏込ませませう。

エレクトラ

さうすれば、母は直に、冥府よみの門に行かねばなりません。

傳 役

それを私が見る事が出来たら、喜んで死にます。

エレクトラ

では老爺さん、先づ兄上をその場處へ案内して上げておくれ。

傳 役

エージスサスが神聖な犠牲を殺す處へですか？

エレクトラ

それから母に逢つて、私の言葉を傳へておくれ。

傳 役

貴方の口から出たお言葉だと思ひ込ませねばなりません。

エレクトラ

さあ、今は兄上の御仕事です、貴方は先づ彼を斃さねばなりません。

オレステス

案内さへして貰へば、私はたつた今出かけて行かう。

傳 役

焦立つて待ちかまへてをられる貴方の足の向け先は、私が御案内しませう。

オレステス

我國の神、復讐の神なるジョーヴよ！を、私達を憐み給へ！私達の苦惱は御情に餓えて居ります。

エレクトラ

私達を憐み給へ、私達の一族は貴方から出て居ります。

オレステス

そしてミセネに、輝かしき聖壇に祭られてお居でになる畏きジュノー！若し私達が正しい理由で

お助力をお願いしてゐるのなら勝利を與へ給へ！

エレクトラ

おゝ私達に、父上の死の復讐をさせて下さいませ！

オレステス

そして又、不浄な所業の爲に、大地の下の暗い住處を持たせられてお居になる父上よ——又、私が両手をさし出してゐる大地よ、偉なる女王よ——貴方の子供を守護し給へ、おゝ、貴方の最も親しき子供を守護し給へ、お出下さい、そして私達を助ける爲めに、貴方と共に劍を揮つて、トロイを征服した偉大なる戦死者等をも引き連れて！母の爲めに忌はしい災難に逢つた貴方、邪惡なる殺害者達を憎まるゝ皆の方々、御聞きなされましたか？

エレクトラ

凡ての事は父上がお聞き遊ばしたと思ひます、だがもう兄上はお出かけなさらねばならん時刻です、さあお行でなさい！貴方のその勇ましいお手で、卑しいエージスサスを殺して下さるやうお願いします、この生命がけの争で、若し兄上がお倒れなさつたら私の生命も終ります、私に生きてゐよと云つて下さるな、私はこの喉に劍をつき刺します、後程、その用意をしに行きます、若し又兄上がやり遂げなされたといふ嬉しい報知が來たら、家中が私の喜びで鳴り響きませう、だが兄上がお

死なさらねばならなかつたら、萬事がこの反對です、私の覺悟をお耳に入れて置きます。

オレステス

委細承知した。

エレクトラ

お行りなさる時、一倍男子らしくなすつて下さい、皆さん、何んなにこの争鬭の片が附くか、皆さんの聲で、燃え上る狼烟のやうに相圖をして知らせて下さい、私は手の中に鋭い劍を握つて、家で見張つて居りませう、若し私がお倒れしなければならなくても、この體を敵の無法な凌辱に委せるには忍びませんから。

合唱團 右方歌舞 一

年を経し今日まで昔ながらに

このアルゴスの山のめぐれる中に

残りたる話の一つを歌ひ出でなん、

牧者の神のパンの神は

澱みなき鳥の聲に合せて

鳴れよと巳が笛に教へき、

かくて快き高き調子
節面白く歌ひつゝ

金毛の羊に乗りて歩みぬ、

その時ぞ使者は岩の上より布令れぬ

「汝が王の奇蹟を見るために

行けミセネ人よ、

集合に行け、恐るゝ事なし」

彼等は敬々しくその聲に従ひ

マドリデエの壯麗なる廣間に満ちぬ。

左方歌舞 一

アルゴスの宮はいづれも黄金づくりの
門をば廣く開きたり

祭壇よりは聖き焰立ち昇る

嚴かなる儀式の中に

詩神ミューズの歡を助けんとて

潑刺たる笛はそのよき調を空に響かせぬ

調子整へる節につれて

高き喝采の聲は溢れぬ

テスタスも共に喜べり

彼こそは火の上の榮えある賞を得んとて

秘密の愛にてアトルウスの妻を得たり

かくて輝ける奇蹟は彼の手に入れり

彼は群集に向ひ誇りがに叫びぬ

「豊かなる白羊宮の

金色の誇りは我が物なれ」

右方歌舞 二

かくて、をゝ、かくて

怒れるジョーヴは輝ける日に

歩みを回せと命じぬ

晝の金色の輪

朝の東方の光、

西の空かけて照り榮えし
彼の赤き光は打消されぬ
雲、最早雨となりて落ちず
北方にその暗き裾を轉ばせり
天秤宮の駱駝の乾ける座は
焦げ附く熱に萎れ

觸感もなく驟雨もなく天降る露もなく喜ばしき濕氣はすべて消えぬ。

左方歌舞 二

名譽は云へり(而も我は輕んず
名譽の聲の告げしものを)
太陽は金色の車を回して
遙けく退き、貴き熱を隠せ
人間の圖太き罪を見るさへ厭はしければと、
かゝる譚、聞ける人々は

聖なる怖れに慄へ

怒れる神をおろがむ、

この貴き夫婦より生れし彼女

忌はしき所業、殺人を敢て行はんとは――

彼女の王なる君を。

合 唱 團

おゝおゝ！皆さん！あの騒ぎを聞きませんでしたか？それとも私は唯そんな気がしてむやみに驚いたのでせうか？何やら分らぬ音が、ジョーヴの低い唸りの雷のやうに響き廻りました、エレクタ様おゐでなさい、家から出てお出でなさい。

(エレクタラ 合唱團)

エレクタラ

皆さん、何事か起つたのですか？何んな危険な事がやつて來たのですか？

合 唱 團

あの騒ぎの中に死人があつたといふ事文は確です。

エレクタラ

私にも聞えました、遠くの方だつたが耳へは入りました。

合 唱 團

物音は遠くの方から轟いて来ました、だが、はつきりして居ました。

エレクトラ

あの呻聲を出したのはアルゴス人の誰かでせうか、それとも私の友達か知ら？

合 唱 團

知りません、でもいろんな聲が入り雑つてゐましたから。

エレクトラ

これでは、私は死ななければなりません、何うして愚圖々々してゐられませう？

合 唱 團

早まつてはいけません、貴方へ運の向いて来た事がはつきり分るかも知れません。

エレクトラ

否え、私達は破滅です、誰も報知を持つて来てはくれません。

合 唱 團

やがて人々が持つて来てくれませう、王の死なれるといふ事は容易ならん事ですから。」

(使者 エレクトラ 合唱團)

使 者

ミセネの處女達よ、私は貴方方に善ばしい報知を持つて来ました、彼のあらゆる友達に私の使命を傳へます、オレステスは勝利を得られましたぞ、アガメムノンの殺害者エージスサスは斃されました、貴方方は不死の神々に感謝なさいませ。

エレクトラ

で貴方は何方です？仰る事が眞實だといふ証明を何うしてなされますか？

使 者

兄上の従者だといふ事を、貴方は御存知ないのですか？

エレクトラ

おゝ、善うこそ、私は恐ろしさに汝の見分が附かなかつた、今はよく分つた、で、父上の憎むべき殺害者は死にましたか？

使 者

再び貴方が願つてゐらつしやる事を申します、彼は死にました。

合 唱 團

凡てを見通しの正義の神、貴方はとうとう御來はこなされた。

エレクトラ

彼の死んだ様子は何うだつた？此セステスの汚ららしい息子は何んなにして斃れたか？私は知り
たい。

使者

この家を出て私達はやがて八方に馬車の轍の跡のついた平らな道へ出ました、ミセネの立派な王は清らかな水の流が幾筋も漑がれてゐる庭園の中に居ました、そして自分の頭に巻きつける花環を作る爲めに桃金嬢の優さしい枝を剪つてゐます、彼は私達を見ると、聲高に呼びかけました「やあ、旅の衆！汝方は誰れだ、そして何時、何處の國から來たのか？」そこでオレステスは斯う云はれました「私達はオリンピアの神ジョーヴへの犠牲の、テッサリア人です、アルフィユスの流の畔で殺されに行きます」と王は言葉を返しました「では今日は私の客人になつて、祝祭にあやかるが善い、私はニンフへ牡牛を犠牲にするのだ、夜が明けると直ぐお前方を行かせるが、今は私の家へ入るが善い」斯う云つて、私達の手を取つて、少しも厭ふ様子はなく案内してくれます、彼の家の中に入ると直ぐ、旅人が清めの水瓶の傍の、祭壇の處へ立つ爲めに入浴の用意をするやうに奴隸達に命けました、そこでオレステスは斯う云ひました「清らかな早い流から洗盥に水を酌んで

私達は先刻、身體を淨めました、けれども、王様が若し旅人にでも、市民達と一緒にこれらの儀式に干る事を御許し下さるなら、私達は鄭重な祝祭を御辭退いたしません、その用意を致します」會話はこれで終りました、従者達は王を守護してゐた鎗を傍に置きました、そして手ん手に仕事を始めました、或者は犠牲の牛を引張り、或者は籠を擔ひ、或者は火を起して、甕の上に大釜を載せる、家の中はゴツタ返して來ました、貴方の母の夫は祭壇に鹽附けの菓子を投げて、かやうな誓をしました「岩の上に見え隠れするニンフよ、屢々執り行ふこの神聖な儀式に依つて、私も、又今こゝには居ない妃も、二人共現在のやうに運命から祝福され、私達の敵も、現在のやうに、没落の中に置かれるやうに」さう云つて、貴方とオレスオレステス様を名ざしました、併し御主人は父上の家を再興するやうに、それとはまるで異つた誓を申されましたが、口へ出しては仰らなかつたのです。それからエージスサスは犠牲の劍を籠から取り出して牡牛の額から毛を剪りました、彼は右の手でそれを神聖な火の中へ投げ込みました、そして、奴隸達が犠牲を押へてゐるので彼はその肩の下に刃をつき刺しました、それから貴方の兄上に向つて「いろ／＼持つてゐる立派な技の中でも、テッサリア人は荒々しい駿馬を乗りこなすのと、見事な手並で、犠牲の四ツ足を裂くのを誇つてゐるが、旅の衆、この鋭い刃物を取つて、そうした名譽が眞當にテッサリア人のものだといふ事を見せてくれ」と云ひます、そこでオレステス様は鍛え上げられたドリス式の刃物をお握りなされ、しなやかな

上衣を肩から脱ぎ捨てられました、それから骨の折れる仕事の手傳ひにピラアデスを撰ばれ、奴隸達には退いて居るやうに云附けられました、彼は犠牲の脚を持ち、手を伸べてその白い肉を剥き出された、戦車が二度、圓を描いて通る程の時間もかゝらず、皮を剥がれ、そして内臓を開かれました、エージスサスは運命のトになる部分を手に取上げて調べました、内臓の中には葉がなかつた、膽に附いてゐる辨や房は、よく見ると恐ろしい事件を彼に示しました、だが御主人は彼の悲しげな顔色は何うした譯からかと尋ねられた、すると「旅の衆、私はこの國の外からやつて来る叛逆人を恐れてゐる、人間の中で私の最も憎んでゐるのはアガムノンの息子オレステスだ、彼は私の家に取つて仇敵だ」といふ返答です、そこで御主人は「この國の王なる貴方が流人の叛逆を恐れられますか？ 兎に角こうした前兆は打捨て、置いて私達は祝祭に干かりませう、このドリス式の刃があるから牡牛を下さい、さうすれば私は胸を切り刻みませう」さう云つて、彼は刃物を取つて切りました、エージスサスは猶一生懸命に内臓を別々に分けてゐました、そして彼が頭を低くかゞめた時、貴方の兄上は起上りさま重々しい斧を揮つて彼の脊中に一撃を加へ、脊骨の關節を砕いてお了ひなされた、死の苦みの爲めに、彼の重い身體はのたうち廻つて悶きました、それを見た奴隸達は直ぐさま鎗を掴み、多勢で二人に手向つて來ました、併し御主人とピラアデスは不敵の勇氣を以て立ち會つて彼等の鎗を振落しました、それからオレステスはかやうに云はれました「私はこの國、又は私の家

來達の、敵として來たのではない、唯私の父の死をこの殺害者に復讐したのだ、お前達はこの不幸なオレステスを見ろ、私を殺すな、父上の昔の家來達」この言葉で彼等は皆鎗を控へました、そして王宮の内の或年老つた白髪の人が、オレステス様に相違ないと見分けましたので、彼等は早速、喜びの叫びを上げて、貴方の兄上の頭上に王冠を戴せました、お、こゝへお出になります、勇ましい所業をやられた證據にゴルゴンの首ではないが、貴方が最も憎んでゐらつしやるエージスサスの首を持つて。誠に苦々しい報復だが、血に對して血が、死者の上に流れました。

合唱

さア、皆さん、踊る用意をして下さい、喜びに酔ひ狂ふた足取りで、牡鹿が空に跳び上るやうに浮々して、勢のいゝ調子でやりませう、貴方の兄上がお出になつた、而も額の上に勝利の冠が戴つてゐます、名高いアルフィユスが流れてゐる處ではこんな榮ある花冠が今迄の勝利者を飾つた事はまだ嘗てなかつたのです、さアお來でなさい、そして私の合唱の群と一緒に、勝利に對する歡びの歌を歌ひませう。

エレクトラ

お、光よ、輝かしい太陽よ、お、大地よ、そして今まで私が見て來た夜よ、今こそ私は自由に見ます、今こそ自由に呼吸をします、殺害の手で、私の父を斃したエージスサスは、今は死んで了

つた、皆さん、私は家にある物で、頭を飾る事の出来るものは何んでも皆持出して來ます、そして勝利に輝いてゐる兄上の額に冠せませう。

合唱 唱

貴方の兄上の頭を飾る爲めに、お家にある飾り物は何んでも持つてお出なさい、私の合唱團を、ミューズの神の御心に適ふ調子の善い歌に會せて踊らせませう、今こそ壓制な暴君は塵を嘗めさせられ、榮えある手に正しい支配をなさる我々の王様が再びこの國を治められるに相違ないから、わが聲よ、高く張れ、貴方の勝利に應はしい快い、高調子を張つて歌ひ出せ。

(エレクトラ オレステス ビラアデス 合唱團)

エレクトラ

トロイの戦場で勝利を獲た父上の子、光榮ある勝利者オレステスよ、貴方の額にこの冠をお受け下さい、長引いたむだな争闘もせず一思ひに父上を斃し又私を苦めてゐたエージスサスを殺して、貴方の敵に勝つてお出なされた、それから又、最も信心深い人に訓育まれ、彼の骨折を心から助けてくれた勇ましい青年のビラアデス！私からこの花環を受けておくれ、汝も同じ危険な目を見たのだもの、末長く私に貴方達を祝福させて下さい。

オレステス

エレクトラよ先づ第一に、この光榮ある運命に逢せて下さつた、上天の支配者なる神々の事を思ひなさい、それから運命と神々との従僕である私に對しては、それに相當する丈の賞讃を與えてくれれば善いのだ、私はエージスサスを殺した事を話して來たのではない、私のためには所業が自ら話してくれやう、あらゆる事の證據に私は彼の生命のない屍を汝の處へ持つて來たのだ、思ふ存分にするが善い、貪り食ふ野獸の腹肥しに投げ捨て、やろうとも、大氣の子供の、鳥達のために杖に縛り付けて餌食にするとも汝の勝手だ、一度は汝が主君と呼んだ暴虐なエージスサスも、今は汝の奴隷だ。

エレクトラ

耻かしくて口が利けません、それなのに、私は何か云ひたうございます。

オレステス

何か云ひたいのか？さあお話し、汝の恐れる事は今はもう無くなつてゐる。

エレクトラ

死人を辱かして、非難が起りはせぬかと、それが恐ろしいございます。

オレステス

あらゆる人類の中で唯つた一人でも汝を非難するものはあるまい。

私達の市人を喜ばせる事は難かしようございます、直に非難したがりますから。

オレステス

妹、汝の思つてゐる事をお話しなさい、私達は彼に對して償はれない怨恨を持つてゐるのだ。

エレクトラ

では話させて戴ませう、だが何處から始めたら善かろう、受けた侮辱を一々數へ立てやう？ 何う云つたら切が附かうか？ 何ういふ風に話の筋道を附けて行かうか？ 私は自分の云ふに云はれぬ悲嘆を爽かな朝になる度毎に堪らへてゐた事は決してありませんでした、その事は私が今までの恐ろしい目を逃れて自由な身になつたら汝の面前で云はう／＼と思ひつめた事です、今こそ私は自由な身になつた、今こそ、生きてゐる汝に私が云ひ度かつた事を數へ立てやう、汝は私の希望を滅茶々にした、私を孤兒にした、少ともさうされる罪惡もないのに、兄上と私とから親しい父上を奪つた、又私の母と卑むべき契を結びギリシヤの光榮ある指揮者を殺した、而も汝はトロイの戰場を踏んだ事もないくせに、それ許か私の母と結婚しても何の災禍も降りか、らずに濟むものと思つた程の汝の愚さ、その爲に父上の寢床は忌はしくも汝に汚されたのだ、——けれども禁斷の愛を以て他人の妻を穢し、それから余儀なく、彼女を自分の妻とした人に、彼女の以前の寢床が守らな

かつた貞操を、自分の爲めには守られるものだと思つたら、そんな仇な希望は惨めな破目に終るといふ事を思ひ知らせてやりたい、汝には悪いとも思へなかつたらうが、まあ如何なに悲惨な生活を汝はをびき寄せたのでせう？ 不淨な結婚を氣附いてる汝の心は、罪を感じてはゐたのだ、又私の母は潰れた人と契を結んだ事を知つてはゐた、かやうにお互に汚し合つて、汝は彼女の財寶を彼女は汝の不義を得たのです、あらゆるアルゴス人の間には、夫が妻に服従し、そして妻が夫に時には、服従せぬといふ評判が擴がりました、一家の中で、女が上に立つて支配して男がさうでないといふ耻づべき事です、そして子供にしても、世間であれば父親からでなく母親から生れたのだと噂される時には私には不愉快です、自分より身分の高い、血統の貴い妻と結婚する人は妻の光に消されて、あるも無いも同様なものに落ちて了ひます、この知られてゐない眞理で、汝の誇りは欺かれ切つてゐた、汝は唯徒らに高く評價された富の力で、自分を偉大であると誇つてゐた、けれどもこんなものは何んでもありません、そんな樂みは脆いもので短かいものです、自然は確實だが、富はさうではありません、自然は永へに残つて、そして勝ち誇つてその頭を上げます、けれども卑しい人の處に寄つてゐる不義の富は、暫時は輝きもするがやがては飛んで行つて了ひます、女に對しての汝の品行は私は何にも申しますまい、それを話すのは處女の口からすべき事ではありません、だが私はおぼろげに仄めかせて知らせませう、王宮は汝の物ではあり、汝の立派な姿形が美しさで恵まれ

ゐた爲めに、汝の仇な心は傲慢で膨れ上つた、優しさを處女と競ふ程の綺麗な顔の夫を私は持たうとは思はない、唯男子らしい態度の人であれば善い、そういふ人の息子達は武藝を研いて、譽ある手柄をするやうに躰けられます、美しい人は唯、舞踏に趣を添へる丈の事です、この悪漢、立派な妾も臺無しに滅んで了へ、汝は罪を見附けられて、遂々復讐が頭の上に落ちかゝつたのです、こんな風に非道な所業を押してやろうとする人々は皆滅んで了へ、最初は、エージスサスも都合よく行つてゐたが彼が自的地に達する前に、生命の終るまでに、正義を打滅して了ふ事は思ひもよらなかつた。

合 唱 團

彼のした所業は恐ろしいものでした、けれど彼は貴方の復讐で、彼もその恐ろしさを思ひ知りました、正義は偉大な力で甲はれて居ります。

オレステス

さうあらせたい、だが奴隷達よ、この屍を彼方へ運んでくれ、闇い處へ入れて置くが善い、母が來て斷末魔の一打を喰はされる前に、その屍を見ないやうにな。

エレクトラ

まあ御控へなさい、私達は他にいろいろな御相談事があります。

オレステス

おゝ、あれはミセネから助力者がやつて來たのだか？

エレクトラ

友誼のある助力者ではありません、あれは母が來るのです。

オレステス

私達が望み通りに、苦みの中に走り込むのだ。

エレクトラ

車の上に高く乗つて、すばらしい姿で母はやつて來ます。

オレステス

私達は何うすれば善いのだ？ 私達の母を殺さねばならんのか？

エレクトラ

母を見て、可哀さうで堪らなくなつたのですか？

オレステス

彼女は私を産んだのだ、私を育てたのだ、どうしてそれを殺さねばならんのか？

エレクトラ

貴方と私との貴い父上を殺したからです。

オレステス

おゝ日の神よ、貴所は亂暴な、向不見な吩咐をなさいました。

エレクトラ

若し日の神が賢しくお在さなかつたら、一體誰が賢いのでせう？

オレステス

母を殺せとの吩咐、不孝な所業だ！

エレクトラ

父上の死の復讐をするのに、貴方に何の罪がありませう？

オレステス

今は清淨な身だが、一足飛びで生みの母殺しにならねばならんのか？

エレクトラ

父上の爲めに復讐するのが罪になりますか？

オレステス

けれど私は母の血の爲めに苦むだろう。

エレクトラ

では誰が父上の復讐を引受けるのですか？

オレステス

神々に似せて大方悪魔が話すのだろう。

エレクトラ

エ、神聖な三脚器からですつて！ むだな邪推です。

オレステス

その答を私の理性は決して正當だとは思はない。

エレクトラ

男子らしくもない弱い、卑怯な考に沈んではいけません。

オレステス

では彼女に、生命取の網を擴げねばならんのか？

エレクトラ

貴方はそれで彼女の夫を捕へてもう殺してお了ひでした。

オレステス

私は家へ入ろう、恐ろしい考へだ、イヤ、私の所業こそ恐るべきだ、在天の力よ、それが若し御心ならそうあらしめ給へ、私に取つては、苦しいが、而も喜ばしい仕事が當宛はれたのです。

クリテムネストラ エレクトラ 合唱

合唱

ティンダラスから血統を引いた氣高い生れ、そしてジョーヴの輝かしい御子達には妹に當るアルゴス國の王妃よ、その御子達こそは大洋の波のまに／＼働いてゐる人間達に依つて偉大な守護者として崇められ、燃え立つ大氣の中の、星の群に住んでゐられるのです、御祝ひ申上ます！ 貴方を、又貴方の斯様な財寶を、又貴方の斯様な幸福な御身分を、神々同様に敬ひ申上ます、王妃よ、貴方の幸運は私達の尊敬を要求します。

クリテムネストラ

トロイの女達よ、先づ車からお降り、それから私も降りるから手を取つておくれ、神々の殿堂はフィリジアの戦利品で豊かに恵まれました、これらの女達は、私が亡くした娘の代りに、トロイの國から撰り抜いたので、數は少いが名譽の獲物です、しかも皆、私のものです。

エレクトラ

そして私は父上の家から追ひ出れさせられた奴隷で、このみじめな小屋は私の卑しい住居です、母上、

貴方の祝福された御手を取るのはいけないでせうか？

クリテムネストラ

私の奴隷達がこゝに居ます、汝は私の爲めに働いてくれんでも善い。

エレクトラ

何故貴方は私を家から追出して奴隷にしたのです？ 私の家が取上られた時、父上を失つた孤兒の私は、これらの女達のやうに捕へられたのに。

クリテムネストラ

それは汝の父上の企まれた處置だつたのです、そうするのが、友達に對して一番穩當だと思はれての事でせう、私は彼人から受けた非道な仕打を話しませう（女が人を批難した口を利く時には舌から烈しい苦味が溢れて出るものだが、それは仕方がない）こうした事を承知の上で、若し汝の憎惡に理由があるなら、汝が私を忌ふのは正しい事だろう、けれども若しさうでなかつたらこんなに私を忌ふのは何故だか分らなくなる？ ティンダラスは私を汝の父に與へた、それも私が死んだり私の憐れな小供が死んだりする爲めにはない、それに、彼は私の娘を、伴つてアチレスと結婚させるやうに見せかけ、彼女をアウリスに連れて行つた、その灣内に彼の軍船は碇泊してゐた、そしてその祭壇の上に、咲き出た花のやうなイフィゲニアを供へて、彼は殺して了つた、國家を

破壊する程脅かす恐ろしい戦争を避け或は家庭の平和の爲めに、又は他の子供を救ふ爲めに、假令ば多くの者の爲めに一人を犠牲として殺したのならその所業は許されます、けれどもヘレナの爲めでは——彼女は淫らな女であつたし、その上彼女の夫はその不貞な妻を罰する事も出来なかつたのだから、そうした理由で私の娘を殺したのでは許されない、それでもまだ私はこうした大きな罪惡に對しても怒りはしなかつたし、夫を殺しもしなかつたでせうけれども、彼は歸つて来て、そして一緒に連れて來た狂亂した女豫言者を彼の寢床に入る事を許しました、こうして一つの家に二人の妻が居る、女といふものは全く弱いものです、それ以上何を云へませう、唯、夫がその體面を捨て、結婚の寢床から遠ざかる時には、何時でも妻はその風を眞似て、ある他の友達を求めやうとします、而も私達女性には、悪口が高い聲で浴びかけられるのに、こうした間違ひの原因になつた男達は少しも非難されません、メネロウスが秘かに彼の家から連れ出されたのだが、私は自分の妹の夫を救ふ爲めに、オレステスを殺す筈だつたらうか？ 息子の死を汝の父上は何ういふ風に我慢せられたらうか？ で私の娘を殺した彼は、死なぬ筈だつたらうか？ 私は彼の罪惡を我慢強く忍ぶ事になつてゐたのか？ さもあれ私は彼を殺して了つた、私は彼の敵と心を合せて、その道を踏むより他に行き方はなかつたのだ、彼の友達の中で誰が私と一緒に、彼に敵對して劍を揮ひませう？ 汝の父が正義で死んだのではないと云ふ事を、汝が私に對して云開きしたいと思ふなら、速

感なく云ふて見るが善い。

エレクトラ

貴方が仰つた事は正しうございます、けれどもその正しさには耻が附着いてゐます、何故といふに、妻が若し眞面目な意味で、少しでも分つてゐたら夫に對して凡ての事を厭はず従はなければなりません、若し貴方が心で御不承知か、私の言葉の調子に御不同意なら、貴方の先刻の御言葉を思ひ出して下さい、そして私に憚なく云はせて下さい。

クリテムネストラ

私はあれを幾度でも繰返して云ひますよ、取消したりなんかはしません。

エレクトラ

けれども御聞きになつてから私を何か酷い目に逢はせやうとはなさらないでせうか？

クリテムネストラ

そんな事はしません、信切な仕返しをしませう。

エレクトラ

では申します、先づ冒頭に斯う申して置ます、母上、貴方はもつと善い御心を持つてゐらつしやれば善いのに、貴方もヘレナも、賞められる價值のある程お姿は綺麗なんですから、けれど自然

は、貴方達御姉妹を、カस्ताアとは大層異つて、浮氣な、やくざな方にお創りなさいました併しへレナは船で運ばれて、自分も承知で破滅しました。それに貴方はギリシアでの一番貴い人を滅しました。娘の死を口實にして、貴方の夫を殺しました。私は善くも存じませんが、姉上が死ななければならぬといふ布告のあつた以前に、又ミセネから父上の出發なさるのがまだ迫つてゐなかつた間に、貴方は鏡に向つて、その金髪の艶やかな掃毛を作つてお居でした。夫の留守の間に、物數寄に一生懸命になつて自分の美しさを見せつけやうとする妻は淫らな女といふ記號が附きます、何か悪い事に心を奪はれない限り、見てくれの爲めに念入りなをめかしはしないでせう、ギリシアのあらゆる女達の中で、唯つた一人、貴方許りはトロイの軍勢が盛んであつた時にはお喜びなさつたのを私は知つてゐます、けれど、敗軍になつた時に貴方のお眼は曇りました、それも貴方は、アガメムノンがトロイから決して歸つて來ないやうに願つてお居でしたからです、だが、それでもまだ、女の徳の力を示される光榮ある機會が來ました。貴方はエージスサスよりも勝つても劣りはせぬ夫を持つてお居でした、そして貴方の妹の所業があまり卑しかつたからそれに引代へて一番高い名譽を貴方は御自身に引寄せる力を持つてお居た譯でした、何故といふに、忌はしい不徳の前例は善に對する教訓を鏡に寫し出したのだからです、けれども若し貴方が仰るやうに、父上が貴方の娘を殺したからだといふのなら、私は貴方に對して何んな罪を犯しましたか？ 又兄上も何んな罪があるのでせ

う？ それから又、貴方が夫を殺された時に、その父上の家を何故私達には渡して下さらずに、その懸賞で贖つた他の結婚の淫らな場處に何故なさつたのですか？ 而も貴方の夫はオレスステの爲めに追放されもせず、又姉上の死よりもすつと非道に、彼は生きながら私を殺してゐるのに、私ゆへに彼は生命を奪はれもしませんでした、正當な贖罪で、若し血が血を呼ぶなら、父上の讎を報ゆる爲めに、私にしても、オレスステにしても、貴方の血を流さすには置きますまい、貴方があゝなさつたのが正しければ、同じやうに斯うするのは正しい事です、兎に角富や門閥に眼をくれて、邪な女と結婚した男は愚か者です、さうした富や何んかの持つて來るものは、睦しい家庭の幸福の前には降参せなければなりません、その幸福はたとへ貧しくとも、貞節な寢床に伴ふものです。

合 唱 圖

女の運命といふものは常に結婚が支配します、その結婚の或者は人間に取つての歡びの源です、けれど又或る結婚には、喜びも名譽もありません。

クリテムネストラ

娘、汝の性分が、父を好くやうに出來てゐるのです、それは不思議な事ではない、或者は男親を愛し、又或者は女親に、すつと大きな暖かさで優しい愛情を抱くものだ、兎に角、私は汝を許して上げやう、又私にしても、自分のした所業を喜んでゐない、だがお産をして間もない汝が、お

湯にも入らずに、こんなみじめな衣服に包つて何うしたといふのだろう？ あゝ私の不首尾の勸告が惡かつた、私は夫が汝に對して烈しい怒りを持つやうに勸めたのでした。

エレクトラ

癒える藥をやる事が出来ない時に、溜息を吐くのはあまり手遅れです、父上はもうこの世の人ではありません、何故貴方は追放された流人オレステスをお呼び返しなさんのですか？

クリテムネストラ

私は恐ろしい、自分の安危が氣にかゝる、オレステスの安否は兎も角も、……彼は父の死に對して復すると云つてゐるさうだから。

エレクトラ

私達に對して、エージスサスは何故さう怒つてゐるのですか？

シリテムネストラ

それが彼の性分なのだ、けれど又汝の氣象は猛々しい。

エレクトラ

私の悲みは大きい、けれど私は自分の怒を抑へ附けてゐます。

クリテムネストラ

それなら彼は、もう汝にひどく當らないでせう。

エレクトラ

彼はそれを熱望してゐます、私の家に彼の人はおゐますよ。

クリテムネストラ

又汝は改めて何んな爭論を起さうとしてゐるのか？

エレクトラ

ではもう云ひません、私は彼の人を恐れてゐます、私が何を恐れるやうに――

クリテムネストラ

こんな話は止めなさい、何の爲めに私はこゝへ來たのだろう？

エレクトラ

私が近頃、母親になつた事はお聞きでございます、何卒私の爲めに犠牲を作つて下さい、この十日目の朝子供にしてやるべき儀式を何うすれば善いか解りません、私には初めての子供ですから、些つとも經驗がありません。

クリテムネストラ

さうした事はお産を手傳うた女のする仕事です。

エレクタラ

私は誰の手傳もなく、自分一人で産をしました。

クリテムネストラ

汝の家にはそんなにお隣家もなく、お友達もないのか。

エレクタラ

誰だつて貧乏人と友達交際をしやうとは思ひますまい。

クリテムネストラ

では私は行きませう、日數も経つてゐるから、汝の子供の爲めに神々へ捧げ物をしませう、そして儀式を済ませて私は急いで野原へ行く事にせう、あちらでは私の夫が今ニフへ神聖な犠牲を捧げてゐます、侍者達よ、車をあちらへ廻して、馬を厩舎の中へ入れてお置き、そして私が儀式を済ませた頃を見計つて、又こちらへ廻しておくれ、夫の處へも行つて見ねばならないから。

エレクタラ

では私の貧しい家へお入り下さい、だが眞黒な烟で燻つて居ますから貴方のお立派な衣服を汚さぬやうにお氣を付けなさいませ、恰度、神々へ捧げるやうに、貴方はそこで犠牲になるでせう、貴方は犠牲にされる身なのです、そこに儀式のために用意された籃もあります、牝牛を突刺す鋭い刃も

あります、貴方は一撃の下に彼の傍へ倒れるでせう、神の思召に適つた麗はしい光の中で、貴方と慶床を共にしてお居になつた父上は、花嫁を冥府の庭で御受取りなさるでせう、父上の讐を討つ爲めに、私が貰はねばならなかつたこの恵みを、私は貴方に與へます。

合唱

右方歌舞

害ふ浪は溢れあがり

烈しき旋風は吹きめぐりて

浴みの中に、我が王は打倒されしよ

その争鬭の凄まじさに屋根さへ揺らぎ

臨終の悲しき王の叫びは

城壁の研がれし石にこだましぬ

非道の妻よ、汝が手に依つて

フィリジヤの野に十年を戦へる後

故國に凱旋せし我を如何なれば殺すぞ

非道の妻よ、何故に我を殺すぞ？

左方歌舞

五四八

されど今、正義は
猥らな愛もて裏切りたる汚れし寢床の爲めに
王を殺せる彼女の頭に
復讐を降し給へり

戦の野に長く外出して
辛らくもサイクロペの塔に歸りし王なるを
その人の血を流さんとて彼女は心そゞろに争ひ
手に鋭く光れる斧を揮へり
手に殺人の武器を使へり
かくて彼女の不幸なる夫は倒れ伏しぬ

エポート

むざんにもかゝる腹黒き人と力を合せ
樹深き森に育ちたる
野生を誇れる牝獅子の如く

彼女はかゝる残忍なる所業を敢てしぬ。

クリテムネストラ

(中で)、おゝ子供達よ、神かけて殺してはならぬ、お前達の母親を――

合唱 囀

家の中で、彼女が叫ぶのを聞かれましたか？

クリテムネストラ

お！ お！

合唱 囀

私は亦、子供達の手で倒された貴方の運命を悲みます、復讐の神は時が来れば正義を施します、
神罰は恐ろしい、けれど不幸な方、貴方は夫に對して恐ろしい所業をせられた、あ、御覽なさい、
たつた今流れ出た母の血に染つて、彼人等は家から出て來ます、無慈悲な殺害の恐ろしい證據だ、あ
あ！ 災禍に壓へ附けられたタンタロスの惨めな一族ほど惨めな家はない、又是までもなかつた。

オレステス ビラアデス エレクトラ 合唱 囀

オレステス

おゝ大地よ、又凡てを見通すジョーヴよ、之らの血醒い、忌しい所業を覽せ！二人は、私の手にか

五四九

かつて、大地に手足を伸ばしたまゝ横はつて居ります、之は私が受けた害悪に對する悲しい報償だ、

エレクトラ

おゝ兄上、悼しいとも悼ましい事で涙が流れます、けれど私がさうさせたのです、私は怯めず、憶せず母に向つて行きました、私を産んで下さつた母をも構はず向つて行きました、あゝ母上！何んといふ哀れな運命でせう！ 貴方は災禍に苦められなさつた、そして子供達から、残忍といふより残忍以上にもつと悪い所業を受けられた、私等子供達のこの記憶は時の力も消す事は出来ないでせう、けれども貴方は父上の血のための復讐に、正しくこの負債をお拂ひなさつたのです。

オレステス

おゝ日の神よ、貴方は聖い神龜から復讐を御命じになりました、私は貴方の命令を畏み、口で云ふ事も來ない所業、けれども早世間に知れ渡つた所業を果しました、そしてギリシアから血腥い寢床を取り除きました、だが今は何處の國へ私は行つたら善いでせう？ 何處か私を保護してくれる家があるでせうか？ 誰が私を迎へてくれるでせう？ 神々を恐れる者が母の血に汚れた私を世話してくれませうか？

エレクトラ

そして又私は、この悪者の私は、何處へ、何の國へ逃げて行かれませうか？ 私は如何な結婚を

するのでせう？ 如何な夫が私を新床へ連れて行つてくれるのでせう？

オレステス

暴風で引つくりかへされてゐた汝の正氣が再び戻つて來た 汝の考は今聖い、だがやがて狂氣に引掻き廻されるだろう おゝ最愛の妹、あんな恐ろしい所業をしろと、汝は何れ程氣の進まぬ兄を強ゐた事だろう？ 母上が衣服を押しつけて胸をむき出し、私を産んで下さつた體を地上に屈めなすつた時、私の荒れ狂ふ手が捲髪を掴んだのを汝は見なかつたか？

エレクトラ

私は知つてゐますとも、貴方は心で苦みながら、母上の哀れな叫び聲を聞いても、後へ退かずに踏み込んでなさいました。

オレステス

母上は私の頬を打ちながら「オレステスよ 憐れみをかけておくれ」と叫びなすつた、そして私の頬にしがみつきなながら、宥めるやうに云はれるので、折角持つた乳が血も見ずに私の手から落ちさうだつた。

合唱

酷いエレクトラ、何うしてまアあなたはそんな光景をヂツと見て居られましたか？ 眼の前で母

上が息の絶えるのを見ながら、よく耐えてゐられましたな？

オレステス

私は自分の上衣を眼の前に持上げて母上を見ないやうにしながら剣を胸に突き刺した。

エレクトラ

私が強いてさうさせました、私もその剣に手をかけました。

合

貴方のなされた所業は一番恐ろしい事だ、さア、母上の體をお蔽しなさい、近頃新調された彼女の衣服の中に傷いた手足はあります——貴方は自分を殺す事になつてゐた二人をお産みなさつたのです。

エレクトラ

私のお友達よ、そして今ももう私のお友達でない皆さん、御覽なさい、私達は我が家に取つての大きな災禍の最後になつた母上の身のまはりを、その着物で包みます。

合

だがまあ御覽なさい、家の上に現れたあの輝かしい姿は何んでせう？ 天上の神々でせうか？ 人間は大氣の中を歩けません、だが何故、人間の眼にありくと姿が見えるのでせう？

カस्ताア及びポリュクス

私が言葉を聞け、アガメムノンの息子に、私等は汝の母の兄弟でジョーヴの双生兒だ、私はカस्ताアこれは弟のポリュクス、船を烈しく揺り嚇かした海の高波を、つい今し方静まらせて、アルゴスに着いた、そして私等の妹、汝等には母のクリテムネストラが殺されたのを見た、正義の復讐が彼女の上に降つたのだ、だが、汝等に取つては不浄の所業だ、日の神よ——日の神こそは私の王でお在す、私は口を襟んでゐやう、けれど……けれど、日の神こそは賢くお在せらるゝが汝等には賢からぬ應答を與へられた、だが私は無理にもこれらの事を讃えねばならぬ、汝等は今、運命とジョーヴが命じ給ふ事をせねばならぬ、エレクトラはピラアデスに嫁け、ピラアデスは彼女を新妻として自分の家へ連れて行け、だが汝はアルゴスを去れ、母を殺した汝はその門に入る事を許されない、冥府の獵犬なる復讐の神フュリイ達は汝を追ひ立て、さまよひ歩かせ、狂氣させるやうにつけ廻さうで、智慧の女神パラスの高御座なるアゼンスに行け、そしてその神聖な御像に取りすがれ、パラスはフュリイ達が汝に觸れないやうに、ゴルゴンの楯を汝の頭上におかさしになるであらう、又フュリイ達は女神の恐ろしい龍に慄いて尻込みするだらう、そこには軍神マアスの山がある、その山こそは不浄な結婚でマアスの娘が汚されたので、マアスは怒つて復讐し、海神の息子ハリホテイアスを殺した時、始めて神々が血の上に審判の坐に就かれた處だ、その時以來、そこでは最も正し

い審判が行はれ、神々が確かな證をされる、汝はそこへ行つて歎願せねばならぬ、血腥い所業はそこで裁決される、血の刑罰を宥す宥さぬの投票の貝殻が同じ數になつて、汝は死なんでも済むやうに救はれるであろう、何故なら、批難はアポロに向けられやう、アポロの聲が汝の母の死をお命じなされたのだ、將來にも此の法則は永久に是認されるであろう、即ち均しい數の投票が宥す事になるであろう、その爲めに、恐ろしい復讐の女神達は、悲みに深く傷けられて、大地の裂け目からたちどころに落込んで了ふであろう、それでこそ神託は人間が神聖に守り、又崇めるのだ、リシイアの寺に近く、アルファイエスの岸邊のアルカディアの國に、汝は住まはねばならぬ、その市には汝の名が附けられるであろう、この事を汝に傳へて置く、それからアゼンスの市民達はエージスサスの屍體を埋葬するであろう、汝の母に當然なさるべき最後の儀式は、征服されたトロイから近頃ノウプリアに到着したメネラウスとヘレナとが行ふであろう、エジプトから、プロテウスの家からヘレナは歸つて來た、イリオンの城砦には行かなかつたのだ、けれど人間達の間で烈しい、血腥い戦争が起りさうだつたから、ジョーヴはヘレナによく似た姿の女をトロイにお遣はしになつたのだ。さてこの處女エレクトラをピラアデスに新妻として受取らせい、そして彼女を故郷アケイアの國へ連れて行かせるのだ、猶、名義の上で汝と縁者となつてゐる彼にホシスの國を支配させ、その溫和な徳に相應はしい充分な財寶を以て報ひよ、汝は狭いイストマスに足を向けい、そしてそこから祝福

されたセクロピアの國へ急げ、血の刻印を押された悪運は果たされたから、汝は苦難を遁れて幸福になるだろう。

合唱團

おゝジョーヴの御子様よ、私達は貴方の御傍に近寄つて、お話するのをお許し下さいませうか？

カस्ताア

差支ない。お前達はこの血の呪ひを受けてはゐないから。

オレステス

テイダラウスの御子様よ、私もお話してもよろしうございませうか？

カस्ताア

差支ない、私はこの恐ろしい所業を日の神の所以だと思つてゐるから。

合唱團

貴方のやうに神々であられ、且つは殺された方の御兄弟であられる方が、何故その御力でこの恐ろしい災禍がこの家に起らぬようになさかなかつたのでございませうか？

カस्ताア

運命の恐ろしい必迫がそれを強めたのだ、そして神殿から日の神の、賢しからぬ御聲が。

エレクトラ

けれど私が母上の弑逆者とならねばならぬやうに、日の神の何んな御聲が、又何んな神託がお勤めなされたのでせう？

カस्ताア

所業も同じく、運命も亦同じなのだ、汝達の兩親に敵意を持つてゐる一人の悪魔が汝達二人の心を騒亂したのだ。

オレステス

愛しい妹よ、長い間かけ離れて、顔も見られなかつたのに、こんなに早くしみぐ話も出来ないやうに、別れなければならぬのか？

カस्ताア

彼女には夫もあり、家もある、アルゴスの國を見捨て、行く外には、別に大した苦みはないのだ。

オレステス

けれど私達の國から流人として追ひ出される以上に、何んな辛い悲みが苦しい心をかき亂す事が出来ませうか？私は父上の家を去らねばなりません、そして母上の血の爲めに、他國の法律で宣告

を受けねばなりません。

カस्ताア

勇氣を出せ、智の神パラスの神聖なる高御座に汝は行くのだ、確かりせよ、そして耐へ忍べ。

エレクトラ

おゝ愛しい兄上、抱きしめて下さい私の胸を、貴方の胸にびつたり抱きしめて下さい、母上の呪ひは私達を、父上の家から離れくりに引裂きました、おゝ、恐ろしい呪ひよ！

オレステス

かやうに汝を抱きしめさせておくれ、汝の悲嘆の涙を私の墓の上に注ぐやうに、今、死んでも同じなこのオレステスの上に注ぎかけておくれ。

カस्ताア

おゝ、汝は神々さへ悼ましく聞き給ふ悲しい事を云つた、私の心の中にも、天の神々の心の中にも死ぬべき人間の悲みを憐む情はある。

オレステス

私ももう二度と汝には逢へまい。

エレクトラ

私も最早貴方にお眼にかゝる事は出来ませぬ。

オレステス

もう汝と言葉を交はす事もあるまい、これが私の最後の言葉だ。

エレクトラ

左様なら、ミセネよ！それから私と同じ國に生れた處女達、皆さん、左様なら左様なら！

オレステス

おゝ最も信實な妹、今が今行くのか？

エレクトラ

参ります、でも私の眼には涙の露が溜まつて居ます。

オレステス

ではピラアデス、喜んでお行き、そしてエレクトラと結婚をし。

カスター

結婚の儀式が彼等を待つて居る、さて汝は復讐の女神フュリイ達から逃れてアゼンスへ急げ、フュリイ達は、黒い陰氣な姿をして、忌はしい足を早め、蛇を持つた彼等の手は汝に苦痛を與へる事を喜んでゐるからだ、私等は波の爲めに惱まされてゐる船を救ひに、急いでシシリアの海へ行く、け

れど不信心な者の爲めには空を飛んで助力を齎らさうとは思はない、而も人生の正義と神聖とを愛してゐる人々には、危険な苦難を免れさせ、そして救ひをも與へる。それ故一人の人にも不正な事を行はしめず、又一人の偽誓者をも載せて船を走らしめないであろう、人間に對つて神はこの警告を與へ給ふてゐる。

合唱 圖

おゝ貴方等に祝福が下りますやうに！ 苦難に負かされないで、人生の途を靜かに過ぎて行く人々こそは、祝福されてゐると我々は申します。(完)

希臘悲劇の發生

希臘文化と希伯來文化との對照に於て前者が肉的で現實的で、樂天的で、そして青春そのものやうな自由快活の精神を徵象し、後者が靈的で、理想的で厭世的で、そして秋霜のやうな嚴肅眞摯な心の緊張に始終すると、見られてゐるのが一般的な概念である。この兩様の文化の特質を直覺させる爲めにはさうした見方が必ずしも誤つてゐるとは云へない、少くとも希臘文化が一面、さうした花やかな精神基調の上に立つて藝術と哲學とを産み、希伯來文化が嚴肅な唯一神教を創めてそれを樞軸として轉回して行つた點に、兩者の傾向の著しい對照を認められるが、而も希臘文化の産んだ藝術と哲學とを親しく検討して來たら、唯肉のとか現實的とか、樂天的とか乃至自由快活な精神とかいふ丈の形容詞で、凡てを掩ひ盡すにはあまりにその内容が複雑であり、その意味が深遠であるのに氣附かれるのは、必ずしもペーターを俟たず、又ニイチエを俟ざる事實である、換言すれば、一方の希伯來文化の體驗した、若くは直觀した靈的、理想的、厭世的乃至嚴肅眞摯な緊張度の精神内容を稍々異つた方式で體驗し、若くは直觀した基礎の上に所謂希臘文化の特徴が美しく花咲いて出たのだと見られるのである、此が複音であり、彼が單音であるのが兩様の文化の根源的な差異で

あると云つても善いと思ふ、さう解釋せなければ我々は希臘藝術の冠冕であるアツチカの悲劇の、莊嚴と深酷とを兼ね備へてゐるのが、何處から泉んで來たのかを知る事が出來ない、希臘悲劇は單に肉的な、現實的な、樂天的な、そして青春のやうな自由快活な精神からのみの所産だとは信ぜられないからである、却つてさうした形容詞とは相表裏した靈的な、理想的な、厭世的な更に嚴肅で眞摯な、心境の奥にまで味到した者でなければ到底表現せられないものに充ちてゐる事は、一見して誰でもが首肯せなければならぬ事實だからである。

希臘悲劇の三大詩人の輩出した紀元前五、四世紀は希臘の新舊思想の變遷期であり、又動搖期であるが、三大悲劇詩人が在來の神話傳説にそれ／＼個性的な新解釋を加へて、同時にその時代精神の推移を反映してゐるのを研究するに先立つて、當時から少くとも四百年以前に遡り、所謂ホーマー時代の神話傳説の内容をも考察せなければならぬ、三大悲劇詩人が各々その個性と時代との傾向に従つてそれ／＼に開展させて行つた神話傳説そのものゝ内容に、早く已に潜在してゐた幾多の矛盾と雜駁とを一瞥するのが順序であると思ふ。

ホーマー時代の神話傳説——寧ろホーマーが描いた神話傳説は極めて無邪氣に其時代の思想を反映してゐると云はれるが、ゼウスを始めオリンポスの神々は、神的といふよりも寧ろ人間的である、勿論青春のやうな自由快活の精神に富んで、肉的で、現實的で、樂天的で一體に藝術化されてはゐ

るが而も人間らしい愛憎好悪の感情をありのままに發動させて毫も憚る處がない、殊にゼウスの權力慾や性慾の執拗に、慘酷に働いて、犠牲者を虐げるに何の假藉する處もない一面の性情にはシヨツクを感じしめるものさへある、それにも不拘ホーマーはゼウスを以て「神及び人の父」で「一切支配者の最高なる者」最も氣高く、最も強いものであるとした、即一面に於てはゼウスは自己の意志力のまゝに縦まに動くものとし、他面に於ては宇宙の秩序、正義の根源として崇めようとする、二元的の見方をしてゐるのである。

而もホーマーの次に出たヘシオドスに至つては、オリンポスの神々を宇宙の秩序、正義の根源と結び附ける思想は次第に發達して來た、現實が必ずしも理想と一致しない、あるものはあるべきものではない事を同胞の不正、不義の現實生活に於て切實に經驗して、人間に失望した彼は理想の體現を天上の神に見出さねばならなかつた——人に辱を與へると共に譽をも與へ、高きものを仆すと共に低き者を起し、美しきものを醜くすると共に歪める者を直くする、天の高きに在つて世を統る神ゼウス——ヘシオドスは斯くの如くゼウスを完全に神格化した、そしてそれを同胞に教へんとした、ホーマーの見た人間的な長所短所に充ちた神は、ヘシオドスに依つて全能の神、正義の神に進化して來たのである、希臘文化が肉的、現實的、樂天的な花やかな光明の背後に、直にそれを肯定し切れない或暗い陰影を曳いてゐる事をこゝにも想見せられるのである。

ヘシオドスは更に神々の黄金時代から、銀、青銅、勇士の時代を経て現代が最後の鐵の時代になつた事を説き、生の勞苦は夜となく晝となく人を壓して少しも安息を與へない、父子兄弟さへも相争ひ、正義は暴力の下に屈し、廉恥の心は神々の許に去つて、残つてゐるのは果てしない不幸のみだと云つてゐる、舊約聖書に見る人類墮落説と其傾向を同一にしてゐる彼の宇宙觀、人生觀はやがて希臘文化の半面の如何なるものであるかを有力に語るものでなければならぬ。

ホーマーもヘシオドスも過渡期を代表してゐる叙事詩人であるが、紀元前第七、六世紀は希臘の文化發展上、個人解放の時代である、商業の繁榮、植民地の發展は社會的、政治的生活の面目を一變せしめ、在來の寡頭政治、即貴族政治の基礎が崩れかゝつて、後の民主政治へ遷つて行く動搖期であつたので、その機會に乗じて人民の後援を得た野心家等が起つて、衆怨の府たる寡頭政治を覆へし、自ら政權を掌握して専制の形に於て賢人政治を行つた時代である、彼等は自然、藝術や文學の保護者であり、詩や音樂の發達をも扶け、又市民の歡心を買ひ且つはその都市を飾る爲に公共的の建築物を作つて、建築術の大なる進歩を促す助因となつた、要するに希臘の都市の藝術的、文學的、知的及産業生活の諸方面が急速の進展を見る一時期を劃したのである、この新時代の傾向は、詩に於ては共通民族意識の範圍内に動いた叙事詩の衰頹となり、個人解放の意識に根ざした詩人の主觀性の表現たる抒情詩の發生及びその急速な隆盛期を招來した、政治家であつて叙情詩人である賢人ソロン

及びテオグニス等が、適度及秩序の尊重、情慾の制限、傲慢の抑壓等を力説し、所謂希臘風の道德思想の基礎を固めると同時に、宗教方面に於てはホームーに萌芽した一神教的思想が特に著しく強調されて来て、ゼウスの神の前に人間の節度及秩序の觀念が對照された、そして彫刻、建築、繪畫等の造形藝術に於ては所謂アポロ式の均衡、調和、規律等の徴象化が完成されつゝあつた時代である。

一方にゼウス神の正義觀念が強調されると同時に、その發現としての應報觀念は一種明確な信仰の中に持來されるのが必然である、然るにそれを人間の實生活に當て嵌めて見るとそこに大きな矛盾があり、撞着がある、殊に當時の商業階級が新たに擡頭して來て在來の經濟制度の基礎が變革されて來た時代に於て、正しい者が貧苦に悩み、正しからぬ者が却つて富み榮えるといふ現象に面接しては、神の正義の信仰を強ひらるれば強ひられる丈、一種の懷疑觀念が抑へんとしても抑へ切れないで、人々の心頭を蝕んで來るのは當然である、ヘシオドス時代に於てはこの應報觀念は單に個人の一身に限られず、廣く氏族の中に於て遂げられるものとして認められたから、信仰の基礎は容易に動かなかつた、併し個人の自己責任の觀念の明確になつた個人解放の時代に於ては、實生活の上に見られる矛盾撞着の現象が神の正義觀念と應報觀念を裏斬つて、信仰が愈々強ければ、懷疑が愈々深く、ならなければならぬ一種のデレンマに陥つて來た。

そこで理想として、乃至信仰として一方に高く掲げられたこの神の正義觀念及應報觀念と、一方ではまさ／＼とそれを裏斬つてゐる實生活とのデレンマを解決する爲めに、アポロの智慧が活用せられねばならなかつた、即神の前に人間の節度、秩序等の所謂希臘風の道德思想が叙情詩人等に依つて強調せられたのは、理想と現實との離叛に對して懷疑觀念を挟む代りに、そこに折衝の融和的地帯を形作るに役立つ爲であつた、銀と象牙とでゼウスを造つたフキデアスの彫刻を始めオリンプの神々の均衡、調和の造形美の藝術がそこに完成されて來たのは、やがて思想、精神の方面に於けるアポロ式の節度、秩序が藝術の世界に徴象化されて來たものに外ならない、オリンプの神々が造形美の世界に入來つて希臘の肉體的な、現實的な、樂天的な、そして青春そのものゝやうな自由快活な精神を愈々鮮かに反映し始めたのは神に對する二つの矛盾した觀念——理想と現實とのデレンマを融和し、若くはそれを克服した處から成立つてゐる、節度と秩序との觀念、乃至均衡と調和との形式が、それ等を破壊せうとして反抗的に働きかける實生活の力の上に押冠さつて行つて漸くそれを克服してゐるのである、一種の消極の世界の上に打立てられた積極の世界である、淋しい、あきらめの一極端から湧き上つた他極端の美しい幻影である、そこに所謂希臘文化の特徴が現れて來てゐる。而かもその節度や秩序の觀念、乃至、均衡や調和の形式は事實に於て緊張し切つた二つの争闘力——デレンマの上に成立つてゐる幻影であり、破壊し分裂せんとする反撥力の上に暫らく安定せられ

た假想の世界である事は明らかに観取せられなければならない、紀元前六世紀の詩人テオグニスが「生れなかつたら之にます幸はなく、生れた以上は早くハデスの門をくゞり行くに若かぬ」と、いふ心の底からの深い歎聲を洩らしてゐるのにも見ても、希臘の一見、自由快活な精神の底にいかに深い厭世觀が潜んでゐるかを想見する事が出来る、「神にならうと望むな、不死の生を望むな」斯う云つた最大の叙情詩人ピンダロスは、やがてテオグニスの厭世觀の流れの上に、樂天の途への橋梁を假設したものでなければならぬ。節度、秩序を教へた希臘思想の基調をそこに發見せなければならぬ。

ホーマー、ヘシオドスの叙事詩人等が民族の共通意識を代表して發言した時代の次に、ソロン、テオグニス、乃至ピンダロス等の叙情詩人が個人解放の意識を鼓吹した時代が來て、最後に悲劇詩人等が代つて現れて來たのである、即叙事詩から叙情詩、それから劇詩の時代へと變遷し、發達したのであるが、ホーマーから系統を引いて節度と秩序と均衡と調和とのアポロ式思想及び藝術が希臘生活の主流に立ち、その支配力を持ち續けるには續けたが、突然横合から侵入して來たデキオニス思想が、所謂節度や秩序や乃至均衡、調和の觀念、形式を忽ち攪亂し始めた、在來の希臘文化はこの新來の文化の爲めに、一時その融和地帯を蹂躪され、その美の幻影を破壊されかゝつた、さうした混亂状態から希臘文化を救ふたものは、即アポロ式とデキオニス式との諧音から成立つたアツ

チカの悲劇の新しい發生であつた。

(II)

デキオニスはホーマーの神話の中にも現れてゐる如くゼウスの神の子ではあるが、オリンブの神々の中にその席は持つてゐない、小亞細亞地方から闖入した宗教である、此のデキオニスは酒神としても最善く知られてゐるが、元來、自然、殊に草木の生活を徵象した神である、草木が冬枯れの後、新春と共に再生する如く、この神の再生といふ觀念は「神とならうと望むな、不死の生を望むな」といふ在來の希臘人の絶望的なあきらめ思想の上に、更に新たなる希望的光明を添加した、即この神との合一の陶酔的な體驗が行はれる事に依つて死後の再生といふ確信が生ずるのである、そこでデキオニスの崇拜に伴ふ熱狂的で、陶酔的な野蠻性を帯びた祭式が行はれる、暮夜、山上に、多數の婦人が加はつて、獸皮を着、髪に蛇を巻かせ、手に松火を捧げ、シンバルを鳴らし、笛を吹きつゝ、狂人の如く山谷を突進して、野獸を狩り立て、その生肉を劈き喰ふといふ野蠻的な、狂熱的な行事の中に、一種、神聖な陶酔に入つて、そこに神人合一の體驗を味ふのである、刹那の生を神の不死に結合させて無上の幸福を感じるのである、これは希臘に於ては始めは反抗を受けた、希臘の思

想や藝術と一致せぬ趣味であり、傾向であるからである、併し、在來の節度、秩序、乃至均衡、調和の觀念や形式では最早消化し切れない程、現實生活の中から醗酵しつゝあつた苦悶や憧憬は、この新しい神人合一のデオニソスの思想に一種の救済を發見せなければ止まない、最早アポロ神丈では希臘人の實生活は支配し切れない状態になつてゐたからである、そこで東洋風な野蠻的なものが、もつと美化され、醇化された形で希臘生活の中に攝取され、そこに生の感激の新しい一動力となつて、希臘文化に一展開を與へ、そこから希臘藝術の冠冕たる悲劇を發生せしむるに至つたのである。

デキオニソスは酒神であり、又草木の歸死回生を徵象する神である事は已に一言したが、又同時に音樂の神である事はアポロと共通してゐる、而もこの二神の音樂はその性質が對照的に異つてゐる點に深い注意が拂はれなければならない、アポロの讚歌や頌歌は豎琴の靜的なメロデーで形式の均衡、調和を得た嚴正なものが一體の姿であるが、バカニツクの詩歌は笛の一層活々した伴奏で、リズムも言語も感情も最も自由な、不規律な動的なものが選ばれてゐた、隨つてあらゆる感情の陰影曲折の表現が可能であつた、快活から哀愁に、荒い歡喜から熱狂的な興奮に移り行く自在な流動性を持つてゐた、この不羈と變化とあらゆる制限を破つてゐる事が、藝術の舊形式を打破して新形式を發生せしめる有力な理由であつたのは勿論である、叙情詩の世界から脱却して劇の世界が展開され

た動機、の、徵象的意義がそこに觀察されなければならない。

又、デオニソスの從者群——後にサチル合唱團に徵象化された從者群の代表的なものはサチロスである、彼等は半人間、半山羊の生物で山谷の間に牧獸を率ゐた牧羊者等の想像の産物であつた、魯鈍で酒好きで、強い動物の激情を持ち、臆病な癖に意地悪でもあるが、唯音樂を好む事に依つて人間の性質と關係があると云へる、彼等は希臘の詩人や彫刻家の心を深く魅し附ける魔力があつた、所謂異教思想の時代が過去つた後に、ゴチック風の教會建築に奇怪なデモンの彫像が刻まれたのは、彼等の或者を暗示してゐるといふ説さへある、サチロスの他に、サイノレスも、パンの神も亦、デオニソスの從者群に屬してゐた、ダンス、音樂、飲酒、愉快、喜劇等の寓意的な形體も亦女性の姿に於てデオニソスの從者として希臘の古代繪畫の中に表現されてゐる、凡て自然の潑瀾たる力、生々の意氣、人間を青春の心に鼓動させる精神を徵象したものが、デキオニソスであり、又その從者群である。

このデキオニソスの祭事の、アツチカに於て行はれたのは春季と冬季とである、春季の祭事は昨年の冬の葡萄が飲むべく醗酵して來て、デキオニソス神の生み育てる力の下に大地が新らしい生命に醒め、樹も草もすがすがしい青葉をつけ始める頃である、今一つの冬季のは一年の苦しい勞働を終へて、收穫の完了されたのを祝福する意味で行はれる、この二つの祭事はアツチカのあらゆる村に

に行はれたが、單純な地方的の集會で、神を讚美するために集り、デキオニッスの祭壇へ行列を作つて練り行き、そこで山羊を犠牲に獻げる、黄色の飾りをした田舎乙女等が供物の菓子だの、犠牲への花の籠だの、ナイフだのを入れた神聖なバスケットを頭へ載せて先導に立つ、一般の民衆は葡萄、無花果、酒瓶などの獻物を捧げて續いて行く、神を讚する舞踊や頌歌が歌はれる、かくて脂塗つた酒袋の上で田舎式の亂舞が演ぜられる、かくて一般的な酒と快樂とで終るのである、これは彼の原始的な宗教的熱狂とはその面目を更へて來て、已に希臘化されたものである、而もその中に神人合一の陶酔的境地を豫想されないのではない、感情の暴風雨の變態的な發現の一形式がそこに暗示せられて居ないではない、この冬の季節の祭事から喜劇が起り、春の季節の *dithyramb* から悲劇が起つたとせられてゐる。

dithyramb は合唱、^{コーラル、ダンス}舞踏と呼ばれる演戲の一タイプに屬してゐた、換言すれば合唱團に依つて歌はれた讚歌の一つで、身振りと動作とを伴ふものであつた、そしてデキオニッス神の生涯のいろんな逸事を歌ひ、更に動作的にそれを描いて見せた、合唱者等はデキオニッスの從者サチロス其他のものに扮装して畑立つ祭壇を廻りつゝ熱情的動作を以て、生々と、又繪畫的にデキオニッス逸話の各節を表現した、隨つて單に物語的でなく、宛ら觀者をして、デキオニッス神に近接し、現場を髣髴するの感あらしめた、即そこに神人合一の動機は導かれたのである。

紀元前七世紀アリオンがこの *dithyramb* を純化した努力者として傳へられてゐる、彼が此を創始したとさへ云ふ者もあるが、それは一の誇張である、少くとも彼が合唱者の人數を五十人と定めたのは疑ひのない事實であり、又韻文の旋律的整理を行ひ、殊に韻文的對話を挿んだ事は、彼の功績でなければならぬ、即、對話に *drama* の萌芽があるからである、同時にデキオニッスの苦悶がこの行事の主題の一として取扱はれてゐる事も亦注意に價する、そして彼は *tragic style* の發明者とせられてゐるが、語源的には *tragic* は山羊歌である、喜劇が *Comas* 即亂醉者のバンドの歌を意味するに對照して、悲劇は *tragic* 即山羊の如きサチロスの歌であつた。

アリアンの後に出てアツチカの悲劇の建設者と云はれてゐるものはセスピスである、彼は紀元前六世紀の生れで、*dithyramb* から、始めて一人の獨立した俳優を起たしめた、韻文の對話は茲に大なる効果を收める事が出來、劇の形式の分化の出發點が作られた、その最初の俳優にはセスピス自身が當つたので即、彼は世界の俳優の元祖である、そして幾多の性格に扮装する必要上、リネンの假面的一種を發明したと傳へられる、以前は合唱團の指導者が、他の唱歌者等と對話してゐる間の立場處であつた平床は、今は俳優に依つて用ゐられた、その後方に、扮装を更へ假面を更へる爲めに一種の板小舎が建てられた、此の平床と板小舎とが、古代及近代の劇場の舞臺と背景とに進化し來つたのである、又劇の題目もセスピスに依て擴張せられ、デキオニッス神の崇拜に關するもの

みに限定されず、一般的神話から汎く選擇せられ始めた、彼は即、悲劇の形式と共にその内容の改革者として立つた、かくて紀元前五百三十五年、アゼンスに最初の悲劇の競争的公演が舉行せられた時彼も亦その中に加はつた、悲劇は茲に始めてアゼンスのデキオニッス神の春季大祝祭の行事として國家的に公認せられ、セスピスの悲劇は有力な政府の保護を受ける段取にまで運んで來た、エスキロス以下の三大悲劇詩人が相次いで起つて希臘の大悲劇を完成させたのは、かゝる基礎が作られてゐたからであるかゝる幸運な環境が豫め準備せられてゐたのに、其重大な原因を認めなければならぬ。

希臘悲劇が原始的なものから次第に發達して來て、その完成形式に到着するまでの過程は大體略叙したが、これは勿論、主としてその生理的な方面に屬する、而もその精神的方面から見たら、前にも已に論及した如く、希臘神話の内容的開展としての神の正義觀念及應報觀念と、それを裏斬る現實生活とのデレンマから胚胎した懷疑觀念が、節度、秩序、乃至均衡、調和の所謂希臘風の道徳及アポロ式藝術に依て一時的融和を得てゐたものが、忽ちデキオニッス式の破調、不羈、自由の精神に觸れて一度は炸裂状態を生じた、そこに迸出した新しい生命の火は、藝術の新しい形式、即、劇を生む事に依つて、漸くそこに自ら結晶して安定する地床を見出す事を得たと解釋せなければならぬ、換言すれば最早、過去時代の叙事詩や叙情詩などのアポロ的形式の中には盛り切れな

くなつた程、複雑化して、醗酵度の激しくなつた希臘人の實生活の新内容が、デキオニッス式の劇藝術といふ一新形式を打立てる事に依つて、若くはデキオニッス精神をその内容とした新しいアポロ式藝術を陶鑄する事に依つて漸くその中に第二のより大きな均衡と調和とを發見し得たのである、希伯來文化が新らしい愛の神を發見して、そこに舊信仰の破綻を整理し、新信仰の基礎を掘り得た如く、希臘文化に加はつて來た新らしい生活力の要素は、新らしい劇藝術に盛られて漸くそこに安定の地盤を得たのである、即、セミチック民族は彼等の永く虐げられつゞけた墮性に従つて、超越的の唯一神を父格化し、只管敬虔の情を俸げて、その愛に縋がり付き、その慰藉にたより求め、以て實人生の苦難と矛盾と葛藤とを和らげ、若くはそれに忍従する宗教的態度と信條とを堅めた、併し、アリアン民族は彼等の獨立的な、自尊的な氣稟を徹底させて藝術の世界に神人合一の情を飽滿させ、實生活の苦惱や煩悶が増大すればする程より大きな苦惱や煩悶を盛つた新らしい藝術を造り、その中に全自己を浸潤させる事に依つて精神の淨化作用を企てたのである、茲に希臘の藝術、殊に悲劇が希伯來文化のそれとは又異つた意味で、一種宗教的の救済を齎らすものである事をも看過してはならない、祝祭的行事といふ形式以上に、その内容的因縁に或種の強い宗教的憧憬があり、又満足がある事をも考察せなければならぬ、

(III)

希臘悲劇はデキオニッス神の春季の祝祭行事として發生して來た事は前已に説述した通りであるが、それがアゼンス市の國家的大祝祭にまで發達した後に於ても、デキオニッス神崇拜といふ事とは堅く結合されてゐた、隨つて劇的所演は始終、デキオニッス神の大祭禮季節にのみ行はれたので、今日の如き日常生活の娛樂事とは全然その性質が異つてゐた、大祭禮季節が來るとアゼンス全市は神聖な休日に入り酒神の崇拜と觀劇の悅樂とに緊張する、職業は一切放棄せられ、法庭も閉鎖される、借錢の催促沙汰などもこの期間中は禁制である、囚徒さへもこの祭禮に與るために一時出獄を許される、そして全市民は集つて來るのである、多數の奴隸さへもそれに加へられる、彼等は神聖なる集會者として頭に花冠を着け、清酒な衣服を纏ひ、劇場へ詰めかける、デキオニッスの像は劇場へ持來され舞臺の前面に安置される、劇場の主要の席は祭司等に依つて占められ、中央の椅子はデキオニッスの祭司長が坐する、劇を作つた詩人、俳優、合唱團等は宗教の奉仕者として神聖視せられる、劇場内全體が一の神聖なる寺院である、今日に於ては獨逸のオーパーアメルゴの受難劇のみが、この希臘劇場を髣髴されるものである、近代劇場は宗教的零團氣から全く解放せられると同時に商業主義の中毒にかゝつて了まつた、希臘劇場が或意味で民衆藝術の一の典型を提示してゐるのに比し

て、近代劇場は所謂ブルジョア化して了つた、そうした病弊に反抗する意味で、いろんな革新運動が起つて來るのは當然の傾向である、勿論上古の小規模な都市國家時代の希臘と、現代の龐大な國家組織の下に發達した社會生活とは、必ずしも同一に論じられない事情があるし、又希臘文化が一面に奴隸制度の上に成熟した事實をも輕々しく看過する事は出來ないが、而も希臘劇場の示唆する極めて嚴肅で、眞摯な、又協同的な民衆主義の精神が屢々反省の一對象として顧みられつゝあるのは決して理由の無い事ではない。

さてこの希臘劇場はアゼンス市のみではなく各地方に存在してゐたが、アゼンス市のが最も模範的であつたのは勿論である。アクロポリス丘側の南東の傾斜を利用してそこに觀客席を設け、凹地に半圓形のオーケストラを作り、その背景に舞臺建築が立つてゐて、何等の屋蓋の無い、露天劇場である、觀客は約二萬人乃至三萬人を容れる事の出来る程大規模な形式のものであつた、最近の建築學者は今日残つてゐる劇場の廢趾から統計を立て、一萬七千人だと云つてゐる、觀客席は始め木造のベンチであつたが、それが腐朽して崩壊した爲めに負傷者などを出した珍事があつて、紀元前四百三十五年に大理石造の宏大なものに改築された、尤もこの年代なども建築學者間にいろんな異説があつて一定はしない。

舞臺建築は合唱團がオーケストラへ入つて來る入口を持つてゐる、そしてこの舞臺建築は原始的

には衣装部屋用の天幕であり、次には木造小屋であつたのが、最後に大理石造の建築物に進化したのでそれが其まゝ一種の背景となり、更にソフオクレスが背景描寫用にしたと傳へられるが、そこに高まつた舞臺があつたか、否かは希臘學者間の論争の難問題である、後の羅馬劇場時代に於ては、こゝに舞臺が設けられてゐたのは確實であるが、紀元前五、四世紀頃の三大悲劇詩人時代にそれが存在したか否かは疑問視せられる、獨逸の建築學者デルフェルトが、在來の有舞臺說に反抗して、建築學の見地から無舞臺說を主張して以來、希臘學者間に、ホームーに對する難解の問題と共に更に新しい難問題は提出せられたのである。

かゝる大規模な露天劇場で演ぜられる劇であるから、近代の寫眞的な藝風とは自ら様式を異にした演出法が生ずる、俳優は假面を着け高い靴を履いてゐた、隨つて動作の急激なものは避けられねばならない、或俳優は演技の際、顛倒して満場の失笑を買つたと傳へられる、又臺辭も調子も自然に誇張せられる、そして合唱團は歌と舞踊と、更にそれに伴奏する音樂とに依つて、全曲に優雅な諧調を和へ、又さまざまに變化する韻律的な姿態をそこに描き出して、眼に訴へる效果的な場面が次ぎ／＼に作られる、クレীগが希臘劇場の最初の劇作家を論じて、彼が觀客に訴へようとして勘定に入れた第一の者は熱心な餓ゑ渴くやうな幾千の眼だ、彼の云ふ事の聽取れないやうな、遠方に坐つてゐる男女でも、何處までも徹底する鋭い推理力を持つたその疑問的の眼は、つい近い處に在るや

うに思はれたのだ云々と云つてゐるのは、極めて端的に希臘劇場の眞髓の一面を捉らへ得た觀察であると云はねばならない。

猶、この公演は國家的の事業であるから富者階級から經費を徴收して之に充て、一般觀客は入場料を要せないのを原則とした、後に至つて極めて僅少の入場料を課し觀客の整理を行つたが、これは希臘劇場本來の主旨でないのは勿論である。

又、劇の競争公演の勝敗を決する審判官はアツチカの十種族の各々から適當の人々が選ばれて、祭司長に宣誓して公平審査をする事を明言する。公演が終ると、審判官が一々上演の結果の評價を順序書きにして投票は神聖な壺の中に收める、祭司長が手に隨つてその中から五つ程抽き出し、審査の決定をする、これは干渉や賄賂を防ぐ有效な方法として用ゐられた、即高級批評家が希臘悲劇の價値を決定したので、群衆ではなかつた、併し後には群衆がこの高級批評家たる審判官を動かすようになつた、プラトーンは之を歎いて、結果は詩人の墮落、又觀客の墮落となつたと云つてゐる少數の高級批評家と一般觀客との關係は今日に於ても常に一つの問題である。希臘悲劇時代にも已にそれがあつた。

希臘劇場の諸條件は大體、右の如くであるが、この希臘劇場に於て公演せられた三大悲劇詩人の戯曲は希臘の神話傳説を如何に取扱つてゐるか？ 雜誌や新聞の刊行も無く、書籍の流布も無く、民

衆の知識及び思想感情の一大試練場であり、又一大教化機關であり、加之叙事詩人の次に叙情詩人が自覺自任して國民道德の教師、宗教宣傳の使命者として立つてゐた責任の地位を代つて承継いだ劇詩人は如何なる動機に依て戯曲に宗教觀、道德觀を寓し、人生を描くと共に人生を教へて希臘文化を導かんと企てたか、これが最も研究に價する題目である。

(四)

三大悲劇詩人の時代に就ては、最も先輩のエスキロスが四十五歳の時、サラミス戦争で戰場に立つて勇敢に闘つた紀元前四百八十年に、ソフォクレスはその戦勝の祝祭で踊つた十五歳の美少年であり、又最後輩のユウリピデスはその當時、呱呱の聲を上げて現世に産れたと傳へられる、これは正確な時日ではないが、この三大詩人の性格の相異が、同じ神話傳説を材料として取扱つても、それ〴〵に特異な色彩と傾向とを持つてゐると同時に、更にアゼンスの全盛期がやがてその衰頹期に推移して行つて、信仰上、思想上及社會生活上の動搖と變兆とを鮮やかに反映してゐるのを警句的に表現してゐる點に於て注意に價するものである。

エスキロスは神を正義觀念と全能者として見る傳承的信念を愈々發達した明確な意識の中に擱んだ、併し同時に社會状態は特權階級意識や、個人の罪を氏族の上に歸する舊思想が崩壊して、自由の

基礎の上に立てる自由國家の意識が明確にせられ、又個人の罪は個人の上のみ課せられるのが正義であり、合理的である事を承認せられ若くは主張せられる個人解放の時代であつた。この傳來の神の觀念が愈々明らかに信仰の對象に持來され、ばされる程、新時代の精神と相刺するものが生じて來る、サラミス戦争の勇士として、自由の爲めに戦つた事を誇りとし、それを神の正義の勝利と信じて疑はなかつた最も敬虔な、又最も眞摯嚴肅な心の所有者であつたエスキロスは、自己の純粹な感情と、又嚴格な理性との一致しない點に深く苦悶した跡が見える、彼は心の形式に於ては、乃至信仰に於てはアポロの信條を押し通して行つたが、而もその形式乃至信仰の底深く動いてゐるデキオニッスの不羈、自由な心熱の奔騰を如何ともする事が出来なかつたのである。

彼の代表作としての「縛られたプロメテイス」を見よう、これは傳來の神話の大體の輪廓が描かれてゐる、天上の火を盗んで人間の文化を助けようとしたプロメテイスがゼウスの怒に觸れて荒野の岩角に繋がれ、鶴の嘴に腸を啄まれて生ながら苦め虐まれてゐる。ヘラクライトスの出現するまで何代かの間、解放の時期を待たねばならないといふ筋は傳來の神話の通りである。

併しプロメテイスが岩角に繋がれて、苦悶しながら「オリンポスの鬮を踏むあらゆる神々は皆、私を憎んでゐる、私は人間の二つとない友達だ、そしてあまり人間を可愛がり過ぎた爲めに憎まれたのだ」と歎きながら飽まで頑強であるのを、慰めに來た海の女神の群が「憐れみと涙持たぬは唯ゼ

ウスのみぞ、彼こそは怒にみちて神々を威壓ふ、新たなる神々出で、世をすべすば」と同感するのは、やがて無意識に作者の衷心感情から迸り出た懷疑の聲ではないか？ 此場合、正義の神はプロメトイス彼自身である。而も一面に於て、智慧の力も偉大だが、運命の力をもつと偉大だ、ゼウスもその運命から免れる事は出来ぬ」とも云はせてゐる、更にゼウスに横戀慕されてその妃ヘラスの嫉妬の爲めに、牛の角を附けられ、執念の蜂に付き廻され、虐まれつゝさまよい歩くイオを對照せしめ、ゼウスが自分勝手な我儘者である事を一層明らかにする、エスキロスは即ゼウスに代つてゐる、彼の良心、彼の確信はプロメトイスと一身同體になつてゐるのを見る、又性格描寫としては雄大と自由と力とに充ちてゐる、「苦めるなら苦めるが善い、私は如何なる成敗をも覺悟の前だ……額いたり、祈つたりするのは強者への阿諛だ、ゼウスなんか、私の爲めにはないも同然、勝手に命令させておけ」神なるプロメトイスに於て金剛不壞の宇宙意志の體現がある、自己の破滅を覺悟しながら自己の意志力を挫げない、奴隸根性を侮辱し切つて、不動の自我を立て貫く、そこに所謂悲壯劇の典型がある、セミチック民族の舊約聖書が有するヨブの悲劇の受動的であり、忍從的であるのと、アリアン民族の表現したこのプロメトイスの積極的反抗的であるのとそこに著しい對照が成立つてゐる、彼があきらめの宗教の中に安住境を見出し、此がデキオニソス式藝術の中に全我の解放を求めたのは、二つの民族性の必然な傾向を代表すると同時に、ニイチエが超人哲學の出發點を希臘の悲劇藝術に置いたのは意味ある事實である。

乍併今は失はれた「解かれたるプロメトイス」の中で、エスキロスはプロメトイスとゼウスとの調和を描いたらしい、そして彼は神の合理性に對する信仰の満足をそこに求めたらしい、而もそれが無意識的の妥協であるのは到底掩はれ無い。

更に、彼の他の代表作の一である「アガメムノン」を見よう、これはホーマーの詩中のアトレウス家の罪惡の連續的悲劇である、アガメムノンの父アトレウスは、エージスツスの父トエステスを宴に招いてその子の肉を饗した、即父子相食ませたのである。この罪惡は遺傳してエージスツスはアガメムノンの妃クリテムネストラと姦通し、共謀してトロイから凱旋したアガメムノンを殺害する、アガメムノンはその娘イフキゲニアを神への犠牲に供へたので、復仇が娘の生母クリテムストラの手で行はれる事にもなるのである。

「アガメムノン」に於てエスキロスは「ゼウスよ又何んと呼びてもよし、求め得る最高の喜び、統べ給ふ大神、御身こそ我は呼ぶ、あらゆる凡ての力の中、御身のみ我は求む、御身こそこの愚かしき疑惑の重荷より我惱む心を救はん」と呼びかけてゐる、更に「ゼウスは凡て因も果も作り、空しくは働かず、神々は明らかに支配し給へば、高き神旨なくて來るものなし」とも云つてゐる、こゝには確かにエスキロスの神の正義に對する信念の龍骨が堅く据ゑられてゐる、併しながら「アガメ

ムノン」に描き生かされたのは邪智と強意志とを持つた、復仇と更に情痴の一念に燃えるクリテムネストラの性格である、エスキ罗斯は勿論この女主人公に同感してはゐないまでも、偉大と自由との印象を與へるまでに一種の心熱を以て鑄出されてゐるのは見道がせない、卑小なエージスツスと、彼女との邪な戀がある一方に、アガ멤ノンが妾として戦地から連れ歸つたカツサンドラに對する嫉妬の炎が、クリテムネストラの凶行に薪を加へさせるに充分である、加ふるに娘イフキゲニアを神への犠牲として殺したといふ事が、夫に對する復仇の動機として共に働かされてゐる、結局運命觀は作者の信念として意識されてゐるが、藝術創作の無意識状態に入つた刹那、エスキ罗斯は「アガ멤ノン」を一の性格劇として描いてゐるとも云へるのである、そしてクリテムネストラはマクベス夫人と共に異教的女性の深酷な一タイプとして、更にその血を近代劇の自我的な女性の中にまで傳へてゐる、又他の一方面から見るとエスキ罗斯は貧富に對する批判意識をこの劇中に示してゐる「さりながら正義の女神、謙遜の小屋に輝き、烟によごれし貧しき家に質實の心もて喜びて住居し給ふ」と歌ひ「富める者の家よりおん目をそらし、驕りたる黄金の廣間を、いつはれる頌歌を靜かに見過し給ふ」と云ひ、富み榮える勝利者のアガ멤ノンの家の中に、かゝる災禍の落下する事を仄めかせてゐる處に、エスキ罗斯の正義觀念の鋒銛の鋭い切先が現はれてゐるのである。

併し「アガ멤ノン」は希臘悲劇の様式である三部曲の一つであつて、他の二部曲で神の正義觀念を是正せうとするエスキ罗斯の意圖は想見する事が出来る、第二部「コエフォリ」に於て心進まぬながら子のオレステスは、父の仇としての母を殺害する、第三部「ユーメニデス」に於ては、オレステスが父の復仇の爲めとは云ひながら、母を殺害したのは冥界の復仇の女神フューリースを怒らしめ彼等の追跡を受けて漸くアデンスの神殿に逃れる、そこで女神アテナは自由なる國家の道德精神の發現として、自由市民より選ばるべき裁判官に裁決を委ね、可否同數に依つて放免される、こゝでは罪惡の遺傳、贖罪の輪廻、隨つて神の運命觀は實質的に裏斬られて了つてゐる、論理の形に於てはエスキ罗斯は彼の信仰に破産してゐる、而も藝術の世界の中に、彼はその矛盾から解放された、彼が最も意識的に力を込めて果さんとした宗教的使命に於て、その實彼は失敗しながら、無意識的に自由と雄大の藝術を完成し得てゐる、アポロとデオニソスはエスキ罗斯に依て握手させられてはゐるが、而もその足許は互に踵を向け合つてゐるのである。

エスキ罗斯は生涯に九十篇の戯曲を作つたと傳へられるが、殘存してゐるものは以上の四篇の外、初期の「歎願者」「ペルシャ人」及び「テーベに背いた七人」である、猶、彼が顯著なる貢獻は在來の一人の俳優を更に二人とし、相對する意志の争鬭を具體化せしめて、戯曲の眞の基礎を作つた事で、他に假面や假裝や背景裝置等の方面に一進境を劃した點に於て、更にその悲劇の壯嚴で、高尚で重壓的な力と單純な形式とを備へ、希臘悲劇の一典型を作つた點に於て一の開基者として不朽の